

此の外、水雷艇、透艇に十二隻あるが水雷艇は製造中のものを合はすれば一等七隻、二等二十四隻、三等二十九隻、四等一隻ありて合計は六十一隻と成るなり

前記の軍艦の中にて警備、測量、練習等の如き特殊の任務あるものを除き自餘の諸艦を以て横須賀、吳、佐世保の三艦隊を組織せしむ

明治三十一年末の調査に依れば將官以下士官下士卒に至るまでの現役海軍々人は合はせて二萬七百七十九人なるが之に軍屬の一千五百三十五人を加ふれば合計二萬二千三百七十九人と成るなり

茲に参考の爲めイギリス、國外六ヶ國の海軍に關する一表を掲ぐれば左の如し

列國海軍表

國名	軍艦	甲裝艦	噸數	馬力
イギリス	五六〇	八九	一六九〇〇〇	二七四〇〇〇
フランス	四五七	七二	七〇〇〇〇	一〇三〇〇〇

海軍區
各種機關

ロシア	三三五	四六	四六〇〇〇	七二〇〇〇
イタリア	三三六	三四	三七〇〇〇	五六〇〇〇
ドイツ	九六	三三	三三〇〇〇	四〇〇〇〇
エスタレルライヒ リッセルガルス	一三三	一一	一三〇〇〇	二三〇〇〇
オランダ	一〇二	二七	一、一〇〇〇	一五、〇〇〇

我が帝國(臺灣島及澎湖の海岸及び領海を五海軍區に分ち、各海軍區に軍港を置き、鎮守府を設く、鎮守府には艦政部、機關部、醫務部、經理部、司法部、港務部等ありて出師の準備、防禦の計畫、海岸の警備を司り、其の他の常務を管理す海兵團、造船所、病院等の設けありて兵士の訓練、船艦の新造、修繕、其の外、衛生、療病等に從事す、要るに各鎮守府は獨立して海軍に關する諸般の業務を経營し得るの仕組なり、然れども現今の狀況にては各軍港の設備未だ完からず、吳、佐世保の如きは稍、見るに足るものあるも舞鶴は僅に其の緒に就きしのみにて室蘭は未だ着手するに至らず、唯、横須賀のみは最、完全なり

とす

海軍區表

區	劃	軍港	所管	海岸延長里
第一	陸中國南九月、北閉伊兩郡の界より紀伊國南半其東半其兩郡の界までの海岸海面及び小笠原島の海岸海面	相模國三浦郡 横須賀港	横須賀 鎮守府	一〇五七
第二	紀伊國南半其東半其兩郡の界より石見長門兩國の界より九州東海岸に沿ひ日向國南那珂南諸縣兩郡の界までの海岸海面及び四國の海岸海面並に内海	安藝國安藝郡 吳港	吳 鎮守府	二〇六七
第三	筑前豐前兩國の界より九州西海岸に沿ひ日向國南那珂南諸縣兩郡の界までの海岸海面及び豐岐、對馬、沖繩諸島の海岸海面	肥前國東彼杵郡 佐世保港	佐世保 鎮守府	一四九七
第四	石見長門兩國の界より羽後陸奥兩國の界までの海岸海面及び樺枝佐渡の海岸海面	丹後國加佐郡 舞鶴港	舞鶴 鎮守府	一〇五五
第五	北海道、陸奥及び陸中國北九月、南九月兩郡の海岸海面	膽振國室蘭郡 室蘭港	室蘭 鎮守府	二二七六

海軍區劃は前記の如く定めらるると雖、舞鶴室蘭の二鎮守府は未だ開

條約國

應に至らざれば目下は第四海軍區中の越後以東及び第五海軍區を横須賀鎮守府に管せしめ第四海軍中の越中以西を吳鎮守府に管せしむ

其四 外交

當今我が國と修交、通商、航海に關する條約を締結して通商貿易を爲す所の海外諸國は二十ヶ國にして之を條約國と稱す

1. アメリカ合衆國 United States of America
 2. イギリス帝國 British Empire.
 3. ロシヤ國 Rossiya
 4. オランダ王國 Nederland
 5. フランス共和國 République Française
 6. ホルトガル王國 Portugal
 7. ドイツ國 獨逸 Deutsches Reich
 8. シュウイツ Schweiz
- 帝國大地誌 一八七

9. ヘルツォーク王國 白耳義 Belgique
 10. イタリア王國 伊太利 Italia
 11. デンマルク王國 丁抹 Danmark
 12. スエリゲールノルゲ 瑞典那威 Sverige—Norge
 13. エスバニア王國 西班牙 España
 14. エスタルライヒ
 ヴンガルメ 澳地利洪牙利 Österreich—Ungarn
 15. ヘルー共和国 秘露 Republica del Perù
 16. 韓國
 17. 暹羅國
 18. メキシコ共和国 墨西哥 Republica Mexicana
 19. 清國
 20. プラサル合衆國 伯刺西爾 Estados Unidos del Brazil

而して彼我互に公使、其の他の外交官を駐在せしめて交誼を厚らし自國の臣民を保護し又總領事、領事、貿易事務官等を派遣して通商貿易の事を視

公使館

察せしむ

公使館所在地	管轄區域
ロンドン (London)	イギリス
サンクトペテルボルク (Peterburg)	ロシア スエリゲールノルゲ
ワシントン (Washington)	アメリカ合衆國
パリ (Paris)	フランス
ベルリン (Berlin)	ドイツ
ウィーン (Wien)	エスタルライヒ・ウングアルヌ ショウイツ
ハーグ (Haag)	オランダ デンマルク
北京	清國
京城	韓國
ローマ (Roma)	イタリア
ブリュッセル (Bruxelles)	ベルギー
メキシコ (Mexico)	メキシコ

帝國大地誌

リオデジャネイロ (Rio de Janeiro)
マドリッド (Madrid)

ブラチア
エスピニア
ホルトガル

次に我が領事館、貿易事務館の設置ある地を列挙すれば左表の如し

領事館

領事館所在地	所屬國名
上海 <small>兼轄蘇、滬、寧、嘉、湖、九、江、寧、波、溫、州</small>	清國
天津	
重慶	
杭州	
廈門 <small>兼轄汕頭</small>	
蘇州	
京城	
元山	
仁川	
鎮南浦	
福州	韓國
芝罘	
漢口	
牛莊	
沙市 <small>兼轄宜昌</small>	
漢口	
釜山	
木浦	
鎮南浦	
鎮南浦	

*總領事館
△貿易事務館

ニューヨーク(紐育)	サンフランシスコ(桑港)	アメリカ合衆國
タコマ	シカゴ	
ヒラデルヒア(費府)	ニューオーリアンズ	
ガルベストン	マニラ	
*ホノルル		
ロンドン(倫敦)	バンクーバー(晚香坡)	
ボンベイ(孟買)	タウンズビル	
香港 <small>兼轄廣東、瓊州</small>	シンガポール(新嘉坡)	イギリス
リバプール	グラスゴー	
ミッドルズバラ	シドニー	
コロンボ	メルボルン	
エリントン	アデレード	
コルサコフ(哥爾薩)	オデッサ	ロシア

帝國大陸

パツトム	△ウラチナストック(浦潮斯德)	
リヨン(里昂)	マルセイユ(馬耳塞)	フランス
アンペール	ブリックセル	ベルック
アムステルダム(安斯特提)		オランダ
ベルリン(柏林)	ハンブルヒ(漢堡)	ドイツ
ブレメン		
ミラン(未蘭)	ベニス	
メシナ	パレルモ	イタリア
ゼノア	ナポリ	
トリエスト		エステルライヒ ウングアルヌ

其五 財政

我が帝國の財政に就きては其の情態佳良にして毎年歳入は歳出を超過

財政

し幾許かの剰餘を見るを常とせしが明治二十七八年の戦役後は歳出が遽に膨脹せしに拘らず歳入の基礎未だ鞏固なるに至らざるが如し、今茲に一表を作りて歳入歳出の梗概を指示せん

歳入歳出表

年	度	歳入	歳出	歳入超過
明治三十三年	豫算	二,五五五,九八八	二,五五五,九八八	
同	三十二年 同	二,五三三,九四一	二,五三〇,九八〇	五〇,一三六
同	三十一年 現計	二,一九六,八三六	二,一九五,二四二	四一,五九四
同	三十年 同	二,二六三,八五五	二,二六七,八八四	二七〇,九七三
同	二十六年 決算	二,一三七,九三八	一,六八五,六五〇	二九一,七五〇
同	二十一年 決算	八六八,三六九	八五三,一七九	一五五,一九〇

我が國の歳入を地積及び人口に對照すれば未だ其の額の甚大ならざるを觀るべし、試にベルックの小國、其の他イタリア、ドイツ等に就きて地積、人口、歳入に關する一表を作り彼我を對比せんか思半に過ぐるものあら

帝國大地誌

ん、蓋し一國歳入の多少は其の國に於ける富源の情況、事業の伸縮等に因るは勿論なれども亦徵税法の適否、納税者の慣習等に基づくもの尠少ならざるべし

列國歳入比較

國名	地積	人口	歳入	人口一人三付
ベルジック	二、九四七、七〇〇	六、六六、九七三	一、七〇〇、〇三六	二、六一
日本	四、七、〇〇〇	四、三九、〇八一	二、五五五、九八一	五、八〇
シロツ	四、三三六	三、一一、九六三	三、八一、九六八	三、一一
ドイツ	五、〇六六	五、三三、七九〇	七、八〇〇、三九四	一、四、九三
イタリア	二、八、六六八	三、一六、七九六	六、八〇三、五八三	二、一、四八
イギリス	三、一、三三三	四、〇五、九四五	一、三、五五五、三三〇	三、三、四一
フランス	五、三、六四八	三、八、一、七九七	一、三、九二〇、四七三	三、六、一一

歳入種類別

三十三年度に於ける國庫の歳入に就きて種類別を爲し其の重要なるものを摘記せんに萬圓を單位にすれば酒税(五五四六)、地租(四七三三)、海關税(一

五八七)、印紙収入(一一四四)等を得るなり

科目	三十三年度豫算	三十二年度豫算	三十一年度現計	三十年度現計
歳入經常部	一、七、七三三、〇一八	一、七、七三三、〇一八	一、三、三三六、八四三	一、三、三三六、八四三
租	一、三、六一八、〇七三	一、三、六一八、〇七三	九、四〇七、九五六	八、二二四、七三三
地租	四、七三三、八五三	四、五八七、四一〇	三、八三九、九一五	三、七三六、四七三
所得税	五〇三、七四二	三、三三三、七三三	三、三三三、七三三	三、三三三、七三三
所得税	五九三、七三三	五、六三三、二二二	五、四七三、二二二	四、四一三、二二二
酒税	五、五四六、五七六	四、九〇九、七七一	三、三八〇、六六四	三、一一一、四六二
酒造石税	三〇四、三三〇	二、八五〇、四五六	一、五三三、五五三	一、五三三、二〇一
糖油	一〇一、〇三六	一、一五九、九六〇	一、二二五、五六一	五、六〇、七七五
兌換銀券發行税	一、五八七、〇三三	一、六七三、九三三	九〇九、二五九	八〇一、〇三三
海關
其他
官業官有財産收入	一、一四四、五三〇	一、〇〇五、七〇七	九四三、七五七	一、一六三、五七九

而して三十三年度に於ける國庫の歳出に就きて種類別を爲し其の重要なるものを列擧すれば軍事費(五二二九)國債(三五〇六)逓信費(一六四五)等を得るなり

歳入臨時部	其 他	豫 金 利 子 繰 入	雜 收 入	印 紙 收 入
六〇八、九六三六	二四七八三七〇	一一三、三三〇	四一三、〇七〇
七三〇、三六六五	二〇五、七三四八	二〇八、二九〇	三七七、二五五
八七二、九九〇一	一〇九、九〇〇〇	二五三、二六三	二五三、九六六
一、〇二六、七五八	一、五三、五六七九	三三〇、三三八	九四九、一八五〇
二、五五五、四九八	二、五五五、四九八	二、五五五、四九八	二、五五五、四九八	二、五五五、四九八

科 目	三十三年度豫算	三十二年度豫算	三十一年度現計	三十年度現計
歳出經常部	一、五二四、〇八三	一、四四七、八〇三	一、二八九、九〇〇	一、〇七六、九二七
皇室費	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇
外務省所管	二一八、九八三	二二一、四六三	一四四、一五七	一四四、五八九

内務省所管	大藏省所管	陸軍省所管	海軍省所管	司法省所管	文部省所管	農商務省所管	逓信省所管	元拓殖務省所管	歳出臨時部	外務省所管	内務省所管	大藏省所管	陸軍省所管
一、三三三、二〇六	四九七、一五〇	三、七三〇、九七五	一、七五二、三三四	四八八、二二八	四七、七二七	二二八、〇三三	一、七五〇、七四一	一、〇二二、二八五	八、一三八八	一、五〇四、一四六	五、二二二、九三八	一、五六二、五九一	一、八七二、二二八
一、一〇九、四六二	五〇一、六五三	三、八〇四、八三六	一、五二二、三六七	四八七、七五一	三二一、〇六二	一八三、六九五	一、五四一、一九三	一、〇〇七、四〇七	九、六五九三	一、三六三、八〇六	六、二二二、九九六	一、八七二、二二八	二、二二二、九二二
七六八、六四五	三八七、二九七	三、三三三、一五五	一、二一九、一〇五	三三三、一七九	一、六四〇、六二六	一、四四九、七九〇	一、九〇、五四七	一、〇〇五、〇三三	一一、五一一八	七、二四一、四三六	六、二二二、三四四	二、二二二、九二二	二、二二二、九二二
六五二、七六八	三九〇、〇七九	二、八七四、六二六	九五四、二八八	三五四、三四九	一九八、五七二	一〇六、二九四	一八二、七〇二	一、五九八、三七七	一一、八四五九	一、〇三三、五六〇	一、〇三三、七六九	三、二四〇、七三三	三、二四〇、七三三

總計	地方財政			
	海軍省所管	司法省所管	文部省所管	農商務省所管
二五五,五九八・九	三三〇,九六二・七	三五,七七二・六	二〇一,〇六二・六	一〇五,三〇六・六
二五五,五九八・九	三六〇,四九七・七	四五,七八〇・九	一九六,〇五二・三	五三三,七四六・二
二,一九四五,二四七・七	四七三,三三二・三	三〇,九四〇・二	六五,二六九・三	三三〇,九四四・七
二,三三六,八八四・四	四〇八,五〇六・四	二二,五〇一・六	六三,六八七・〇	一五二,四一八・八
				一一四,七五五・六
				九三三,〇四二・九

地方の財政に關しては收支ともに府縣稅市稅町村稅の三種ありて支出の重要なるものは土木費二四九二、教育費一七九四、警察費六〇〇、公債費四一七、等なりとす

市	府	縣	稅種			
			收	入	支	出
三三六・二	四六〇・八	四〇三・四	二八五・一	三〇〇・七	三二六・〇	六二二・二
一一三・三	四〇三・四	二七五・九	一〇九・七	一〇〇・七	七五・五	一一三・三

又臺灣に關する歳入に就きては三十三年度豫算は二千二百十二萬にして支出の重要なるものは製藥所(二九三)、樟腦局(一一二)、警察費(一三九)、遞信費(二〇二)等なり

次に我が國の國債に就きて一言せんは三十三年度に於ける總額は凡そ五億八百三十七萬圓にして内國債四億八百五十四萬圓、外國債九千七百六十三萬圓、政府紙幣二百二十萬圓等より成れり

●生業

未開の世にありて百般の事業幼稚なるときに當りては、土地の効力至大なれば一國の生産力は擧げて之を農業に歸せり、是れ往昔、農を以て國の本なりと唱道せし所以ならんか、然れども人智日に月に發達し萬般の業務、駭

々乎として進歩するの今日に於て、農事のみを偏重偏尊して其の他の産業を措きて問はず、天然の力を重じ人工の妙を輕じて其の殖産興業の道を講せざるべからず、一國の隆盛を望まば、其の要素の調和發達するを務めざるべからず、忠君愛國、進取活潑、忍耐不撓の氣力を養ひ以て國民の精神を振起せしむると同時に殖産興業の道を講じて國民の富力を増進せしめざるべからず、之に加ふるに政令は嚴肅にして擁護の任務を盡し軍備は充實して内外を鎮壓するに足るものあらば、國家の隆盛強大は期して待つべきなり、されば地理科に於て我が國の生業の情態を記述し其の盛なると否ざるを知らしむるも此を奨め彼を勵ますの一助に供するにあり

其一 森林業

森林業とは有用なる樹木を蕃殖せしめ以て其の効力を充分に奏せしむるにあり、抑、森林が社會の成立に關し國家の生存に對し一大利源たる所

森林業

以のものは先づ主産物として木材薪炭を供し副産物として香茸、松茸等の食用物及び樟腦、醋酸等の藥品、染料を與ふるが如き、直接の効用あるのみならず、樹木の繁茂は太陽の光熱を遮止し冷氣を貯へて氣候の炎暑を調和し或は新鮮淨潔なる空氣を四圍に送りと衛生の資を爲し、降雨に遇ふに當りては水分の蒸發を遅緩ならしめて源泉を養ひ或は雨水の流下を適宜ならしめて江河の溢溢を妨げ、或は春夏の候、百花媚妍、綠葉鬱蒼として山麓河岸を粧ひ吾人をして風光明媚の感を起さしめ、或は流泥飛砂を防止し、百禽千魚の生育を扶く、要するに森林は氣候を調和し、空氣を洗滌し、水源を涵養し洪水を防止し、土地の荒蕪する患を避くると同時に之に優美の裝飾を加ふ、等の如き間接の効果を與ふるものなり

吾が國にては林業は古來より行はるるものならんれども願ふに天然に生育したる樹木を伐採するに止まり、勞役を費して之を培養せしに非ざるべし、而して未開の世の常として我が國に於けるも、古來、森林を濫伐したるの弊頗る甚だし、此の如くして荏苒數十百年を經過すれば遂に山野を兀

山林、平林

緒にして富源を耗盡するに至るも計るべからず
森林の茂生する場處は山地なることあり又は平地なることあり、是に依りて森林を分ちて山林と平林との二種とす、然るに地味は概して山地に礫礫にして平地に肥沃なるが故に、農耕の開けたる地方にありては平地を田畝に供し、樹木の培養は主として山地に於てす、然れども未だ開けざる地方にありては平地の需用少なきを以て山地と平地との別なく樹木の存するあるを常とす

天然林、人工林

樹木の生育を計る方法に由りて天然林と人工林との二種に區別すべし、天然林とは人力の保護を仰ぐことなく自然の繁茂に任ずるものにして、従て良材雜木相混同せり、例へば南アメリカの大森林若しくは我が十州臺灣二島に於ける森林の如き是れなり、人工林とは林業を營むもの、自ら勞力して或は良種を播施し或は地味に適切なるものを栽培し或は腐幹を除き元枝を去りて保護を加ふるものなり、従て木質善良にして丈幹も亦長大なるものを得べし

森林の種別

本邦の森林は其の所有者に基づきて御料林、國有林、公有林、社寺林、私有林に區別す、而して保安、供用、部分の三種より成る國有林は凡そ一千三百五十萬町歩の面積を以て帝國森林の五分の三弱を占むるが農商務省の所轄に屬し十六大林區署の管理する所たり

御料林	二〇七、九〇〇	木曾	天城
國有林	一三四、五七四	秋田大林區(一〇九)	青森大林區(九八)
民有林	七二五、三〇〇	岐阜(五六)	岩手(四二)
合計	二二八、七七四	廣島(四〇)	

森林の収益

此等の森林より取得する所の利益は國有林に就きては凡そ百五十圓なるも御料林、民有林の収入を詳にせざれば茲に精確なる合計を掲ぐるを得ざれども其の高は少なくとも一千五六百萬圓に達するなるべし

森林産物

又森林より生産する所の物産には木材として松、杉、樅、檜、檜、榿、等あり薪、炭用としては檜、桐、等あり而して副産物としては樟腦、酸醋、松脂、松煙、香茸、等

帝國大地誌

重要木材

を得るし

ヒノキ「檜」扁柏は學名を *Chamaecyparis obtusa* と云ひ松杉科に屬す、木理直通、木質軟靱、白色にして少しく黄紅色を帯ぶ腐蝕の患少なく工作に便なり、家屋、艦船、橋梁、器具等の築造に使用せらるゝが主として柱材、板材、礎材等に適せり、木曾産、遠州産等を以て最良なりとす

サハラ「花柏」は學名を *Chamaecyparis picefera* と云ひ松杉科に屬す、輕軟にして割製し易く木理も亦美ならざるに非ず、桶類の製作に適用せらる

マツ「松」は屬名を *Pinus* と云ひ松杉科の植物なるが木材として使用せらるるは赤松、黒松等なりとす、共に棟梁材として名を知らる又板材、敷居、鴨居等に用ひらるのみならず、燃料に供し松煙を製するに適す、各地に産す

スギ「杉」は學名を *Cryptomeria Japonica* と云ひ松杉科に屬す、木理、木質等に就きては扁柏に及ばざれども價格の低廉なるを工作に便なるに依りて用途極めて廣く、最も柱材、板材に適す、各地に産す

マミ「榧」は學名を *Abies firma* と云ひ松柏科に屬す、用途は杉に類するも寒暑乾濕の

變に違ひて伸縮反振すること少なからず

トドマツは學名を *Abies Sachalinensis* と云ひ松柏科に屬す、木質木理とも樅に類するが伸縮反振の度は一層甚だしきが如し、十州島に産す

ツガは學名を *Tsuga Sieboldii* と云ひ本邦固有の植物にして松柏科に屬す、木理直通にして木質も亦佳ならざるに非ず、柱材、板材等に適す

ネズミは一にシロネと稱す、學名を *Thuja Japonica* と云ひ松柏科に屬す、木理美なるを以て板材に適す

カシ「樺」は殼斗科の *Quercus* に屬す、アカカシ、シラカシ等の數種あり、木質緻密にして堅硬なり、樞材、車材等に適せり

ナラ「櫟」は學名を *Quercus glandulifera* と云ひて斗殼科に屬す、薪炭用に供す

クヌギ「栲」は學名を *Quercus serrata* と云ひ斗殼科に屬す、櫟の如く薪炭用に供す

クヤギ「樺」は學名を *Zilkowa acuminata* と云ひて楡科に屬す、木質堅硬、木理緻密にして

負擔力、弾力等に富み、樞材としては極めて佳良なりとす、又老木には如輪木と稱するものあり、木理の紋様極めて美なり

クリ「栗」は學名を *Castanea Vulgaris* を云ひて斗穀科に屬す、反振伸縮するの缺點あるも木理は佳ならざるに非ず又浸蝕すること少なし、柱杭材、器具材、等として用ひらる
シラシは學名を *Fraxinus Sieboldiana* を云ひて木犀科に屬す、木理木質ともに普通の樺に類す、器具の製作に用ふ、十州島に産す

サクラ「櫻」は學名を *Prunus Paulownia* を云ひて薔薇科に屬す、器具用、彫刻用、版木用に適す

ホホノキ「厚朴」は學名を *Magnolia hypodeneae* を云ひて木犀科に屬す、版木用に供し、截物板として用ひらる

ツグ「黄楊木」は學名を *Buxus Sempervirens* を云ひ黄楊科に屬す、彫刻用に適す

ハンノキ「赤楊」は學名を *Alnus Japonica* を云ひ、樺木科の植物にして生育甚だ速なり、薪材に供す

テロは一名をドロヤナギを云ふ、楊柳科に屬する胡桐 (*Populus balsamifera*) の變種なり、摺附木を製するに適す

クス「樟」は學名を *Cinnamomum Camphora* を云ひ樟科に屬す、木質堅硬、木理緻密にして櫃

森林副産物

材、築造用、器具用、等に適す

竹類は禾本科の植物にして竹材として用ひらるるものに數種あれども最も需要の廣きはマダタ「苦竹」 *Phyllostachys Quiloi* にして、及び種々種々の用に供す

我が國に於ける林業の副産物の中に於て最も重要なるものは樟腦なり、製腦業は世界無比の生業にして臺灣島の北西蕃地の附近に於て盛に行はるるが産額は二百二十萬斤に達す、収益多く頗る有利の事業なり、香藪は椎、檜、檜、檜等に生ずる食用菌にして其の需要極めて廣く産額も亦著しからざるに非ず、各地に産するが宮崎縣を以て最とす、松茸は松林に産するを常とす、著名の食用菌なるも需要産額ともに香藪に及ばず、各地に産するも京都、兵庫、愛知等の地方の松茸は良好なりとす

原野反別

因に記す、原野の總反別は二百六十九萬町歩にして其の中、百四十五萬町歩は國有にして、百七萬町歩は民有なるが御料に屬するものは十七萬町歩に達せず

其二 養畜業

養畜業

養畜業とは家畜、家禽、蠶、蟲、蜜蜂等を養ふ事業を總稱せしものなり。家畜は牛、馬、豚、羊の如きものを云ひ、家禽とは鶏、家鴨の類を云ふ。養畜業に由りて得たる産物は或は食料に供し、或は工藝に用ふ、其の他家畜の種類に依りては勞役に服せしむるを得べし。夫れ此の如く養畜業は人生に有益なる生業たるに拘らず、我が邦にては養蠶の外、斯業の振はざる事實あり、これを海外諸國に比すれば遙に劣等の地に位せり、今其の理由を考ふるに我が邦にては米穀、蔬菜、魚肉を以て一般の常食とし、劫て鳥獸の肉の如き滋養に富めるものを用ふることも稀なるは其の一因ならずんばあらず、又牛馬の如き之を役にして吾人の力役を助けしめざるに非ざれども、我が邦の勞働賃銀は頗る廉價なるのみならず、工藝も未だ隆盛に至らずして勞力を需要すること至りて少なきが故に、多く牛馬を蕃殖せしめて勞役を補はしむるの必要を見ること尠なし、是れ亦一の原因ならんか。

牛。我が國にて牛を飼養するの多少は地方に由りて一樣ならず、是れ其

牛

の地の氣候若しくは習慣に關するなるべし、而して古來我が國にては牛を飼ひて耕用、駄用等の力役に服せしめしに過ぎざりしが、近來は肉食漸く行はれ、牛肉、牛乳の滋養に富めるを了知するに至れるを以て牛類を飼養するものは少しく増加せしが如し。

總數 一三三、〇四六六
 岡山(九、一) 廣島(八、八) 鹿兒島(七、二) 大分(七、〇)
 長崎(六、九) 山口(六、五) 島根(六、五) 熊本(四、九)

而して但馬、肥前の牛は良種を以て名あり

馬。馬を飼養する目的は牛と異なり敢て食用に供するに非ず、主として力役に使用するにあり、或は駄馬として貨物を運搬せしめ、或は農馬として田圃を耕作せしめ、又は乘馬として軍人、旅客の騎行に用ふるにあり、而して我が國に産する馬の品種は概して驅幹矮小にして優等ならず、されは近來良種の馬匹を外國より輸入して改良を企圖するものあるに至れり。

總數 一五九、二八七一
 鹿兒島(一、二) 熊本(一〇、六) 岩手(一〇、九) 福島(一、〇)
 宮崎(七、四) 秋田(七) 青森(七) 宮城(六、五)

帝國大地誌

馬

豚

而して南部三春の馬は良種として名を知られたり
豚。豚を飼養するは牛馬を養ふが如き注意と煩冗とを要せず、隘陋なる
場所にて粗雑なる食物を與ふるも尙ほ可なり、此の如く飼養法の容易な
ると収益の尠少なからざるに拘らず、我が國に於て豚の飼養未だ隆ならざ
るは前にも述べし如く肉食の風習なきと、一般に養畜の効力を知らざるに
歸せざるを得ず、現今、全國の豚數は凡そ二十萬頭に過ぎずして之を飼養す
る重なる地方を沖繩、鹿兒島、千葉、長崎、東京、神奈川、宮崎、等とす

鶏

鶏。鶏は家禽中最も多く我が國に飼養せらるるものなれども之をヨ
ロッパ諸國に比較すれば實に微々たるものなり、夫れ鶏、家鴨の如く滋養の功
を有し美味の能あるものの飼育が治く行れざるは慨嘆に堪へざるなり、又
家禽に關しては充分なる統計表なきが故に其の詳細を知る能はずと雖も、
其の數は一千萬以上に達すべし而して最も多く飼養する地方は千葉縣に
して之に次ぐは埼玉、兵庫、茨城の諸縣なりとす

蜜蜂

蜜蜂。蜜蜂とは蜂、蜜と稱する糖分并に蜜、蠟と云ふ油脂を與ふる昆蟲に
して蜂の一種なり、蜂蜜、蜜蠟は共に藥用又は工藝用に供すべし、然れども我
が國に於ては蜜蜂を飼養すること多く行はれず、唯、紀伊、薩摩、信濃、甲斐の
數國に於て少しく其の飼養を觀るのみ

其三 養蠶業

養蠶業

本業は養畜業の一派たるは勿論なれども我が國の富源に關し重大なる
勢力を有するが故に特別に記述するの要ありと認めたり、抑、養蠶業なる
ものは蠶蟲を飼養して生絲、真綿、絹布等の原料たる繭を供給するにあり、蠶
蟲の中には天蠶、柞蠶の如く楮、柶、栗等の葉を以て養ふべきものあり、又家蠶
の如く桑の葉にて養ふべきものあり

蠶蟲には種々あれども何れも蛾族の Bombyx 即ち Pericaria に屬せり、天蠶、柞蠶に樟蠶あり
等あり野蠶に綠繭質の天蠶 (Sericania Yamamai) あり、繭繭質の柞蠶 (Sericania Pernyi) あり、家蠶
(Bombyx Mori) には赤熱、鬼繭、又青、青熱、小石丸等の如き幾多の變種あり

桑樹の栽培

此等數種の蠶蟲の中にて其の飼養の最も盛なるは家蠶なり、從て桑樹の
帝國大地誌

栽培頗多、養蠶の進歩發達すると共に日を追ふて隆盛に趣けり

桑畑反別 三〇五八五七町 福島(二九) 群馬(二七) 長野(二五) 埼玉(二一)

山梨(二六) 岐阜(二三) 山形(二三) 新潟(二二)

家蠶には幾多の變種ありて枚舉するに遑らずと雖、之を飼養するの季節に従はば春蠶夏蠶秋蠶に種別し得らるるが、平年の繭の總産額は凡そ二百万石にして繭、玉繭、屑繭、出殻繭等を含むせり

蠶絲の種別
繭の總産額

年次	繭	玉繭	屑繭	出殻繭	合計
明治三十一年	一五九、八八三 <small>石</small>	二〇、四八九〇	一七、〇一九五	五、三三四四	二〇二、七三四二 <small>石</small>
同三十年	一六四、九三三	二四、三三七七	一七、五〇六九	五、五八三九	二一二、四三三九
同二十九年	一四二、六八八	一九、五八〇四	一六、四四七一	四、九五五九	一八三、六六七二
同二十八年	一七九、六〇〇	二四、四九八三	一六、三七六四	五、三三九六	二二五、八一七三
同二十七年	一三九、〇三七	三〇、七三九三	二五、二四一一	五、〇五八六	一八〇、〇五九六
同二十六年	一三〇、七三二五	三〇、四三九〇	二二、八八五五	四、六〇三四	一六八、六八九〇

而して産額を地方別に爲し其の主要なるものを列舉すれば

總産額 二〇二、七三四二石
長野(三三、三) 群馬(二〇) 埼玉(二四) 福島(二三)
岐阜(一一) 山梨(八、三) 愛知(八、二) 滋賀(七、四)
山形(七、〇) 東京(六、七) 神奈川(六、五) 茨城(六、五)

天蠶、柞蠶

家蠶の外天蠶及び柞蠶の飼養は長野縣を始めとし其の他、廣島、熊本等の數縣に於て行はるるも産額は顯著ならず

明治三十一年	同三十年	同二十九年	同二十八年
天一蠶 八五二八 <small>石</small>	六八三 <small>石</small>	五五三 <small>石</small>	七七九 <small>石</small>
柞蠶 二七二一	二七五九	四一九一	二五九五

養蠶業は輸出品中に於て未製品の首位を占むる生絲并に製作品の上位にある絹布の原料たる繭を供給するが故に我が國の一大富源たるは今更喋々するを要せざるべし、されば本業の益、隆盛ならんこと熱望して止まざるは勿論なり、原野を開きて桑圃と爲すの術なきか、瘠畑、下田を化して桑樹の栽培に適するの地と爲すの得失果して如何ぞや

其四 水産業

水産業

水産業とは鹹水と淡水とを問はず、凡て水界にある動植、礦各種の産物を捕獲採取し、之に適當の製作を加へて、食料を始めとし、其の他の需要に供するにあり、抑、我が國は四圍に海洋を繞らし、魚介、苔藻の類に富めるを以て自然の結果として、本業の夙に開け、往昔より一の重要なる産業たりしは疑ふべからず、然れども此の業の情態に就て少しく細微なる觀察を下すと、きは其の規模の狭小にして、未だ充分なる發達を遂げざるの點に於ては自、瞭然たるものあり

(一) 漁業

先づ我が國の漁業の景況に就きて一言せんに、明治二十六年頃の調査に依れば、漁戸は凡そ七十萬にして、其の内、凡そ十五萬は採藻に従事せり、又漁人は凡そ二百五十萬にして、其の内、凡そ八十萬は採藻業に就けり、而して漁業若しくは採藻業の盛なる地方を列擧すれば、實に次の表を得るなり

漁業

漁戸	七〇、一六一〇	採藻業	一五、一三六七	北海道	千葉
漁業	五五、〇二四三	漁業	一九四、三〇一五	長崎	千葉
漁人	二五〇、八三六一	採藻業	五六、五三四六	北海道	岩手
漁船	三七、七四九七	漁船	九六六、〇三八二	北海道	長崎
漁具	一一六、八六五八	漁網	一四七四、〇三二一	北海道	千葉
				靜岡	茨城
				茨城	愛媛
				三重	愛媛

是に依りて之を觀れば、我が國の漁業は、他の生業に比して頗る發達したるが如き觀を呈すれども、之をヨーロッパ若しくは北アメリカの諸國に行はるるものに對照すれば、其の漁船、漁具、漁法等總べて未だ幼稚の境域を脱せざるもの多し、本邦現時の漁業は、海濱又は近海に局限し、遠洋に出でて漁獲を試みるは殆ど絶無なるが如し、之を西洋諸國の漁夫が萬里の波濤を破りて北洋近傍に勇進し、海獸魚類を捕獲して一朝に巨利を博するものに比すれば、固より同日の論に非ず、然れども我が國の近海は、世界屈指の豊魚地たり、假令巨額の遺利ありとするも、現今の漁業に依りて收得する所の利益も亦

用ふ

イブヤ「鱈」は學名を *Trachurus trachurus* を云ひて鱈科に屬す、温帯の海に産す、多くは生鮮の儘にて販賣せらるるが、又干物に製す

サバ「鯖」青花魚は學名を *Scomber Colias* を云ひて鯖科に屬す、大さ一尺五寸に達するが、鹽藏し又は乾製す

ナリイカ「銀管」は學名を *Loligo Vulgari* を云ひ、*Nautilus* カ「深魚」は學名を *Ommastrephes Okamotoensis* を云ふ共に鱈に製す、内國の需要少なからざるも、多くは清國に輸出す

ナイロ「沙鰻」海鰻は學名を *Sichopus Japonicus* を云ふ、煮乾して海菜となす、有刺海菜、無刺海菜は共に清國に輸出す、又其の腸を以て海菜に製す

キムロ「光巻」*Panacola* は金華山近傍に産す、鮮食し又乾製す

イセエビ「龍蝦」*Panulirus Japonicus* 共に、*Homarus* 「斑節蝦」*Panous Semisulcatus* は鮮食せらるるが、乾製して清國に輸出す

ヒラガシロ「鱈」*Gadomus dunali* は各地に産す、肉は魚鮮に製し又乾製す、鱈は乾製して清國に輸出せらるるが、即ち鱈と稱するものなり

アマユ「鮫」*Haliotis Gigantia* は鮮食せらるるも亦乾鮫となして清國に輸出せらる

フナイキ「鮑」*Siliquaria (Constricia)* は大二三寸に達するが、煮乾して清國に輸出せらる

イガイ「淡菜」は一にセトガイと稱す、學名を *Mytilus Crassirostris* を云ふ、大さは四五寸に達するが、煮乾して清國に輸出す

イナ「竹筴」「馬刀」*Solen Gracilis* は三寸許の大きさを有す、煮乾して清國に輸出せらる

ホタテガイ「海扇」「帆立介」*Pecten yessoensis* は北海に産す、其の肉は鮮食せらるるが、煮乾したるものは多く清國に輸出せらる

サケ「鮭」*Oncorhynchus Haberi* は大二三尺に達す、寒地の河川に産し海に棲息す、鹽藏、燻詰、煮製、等に製す

イヌ「鱈」*Oncorhynchus Perryi* は大さ一尺五寸に至る、主として帝國の北部に漁獲せらる、製法は鮭の如し

ブリ「鱈」*Seriola Quinqueredata* は各處に産するも、南海、西海に多し、鮮食せざるに非ざるも、多くは鹽乾製を爲す

シイラ「鱈」高引「丸高引」*Coryphaena Hippurus* は鱈の如く温水を好む、大二三尺に達す、鹽

蔵若しくは乾製す

ニシム「鮮」鯨 *Clupea harengus* は一尺三四寸の大きを有し、奥羽以北の海に産す、搾精、鹽漬、蒸製、外刺鯨、身欠鯨等に製す

ホシコンブ「本昆布」 *Laminaria Japonica* は渡島、樺太等に産す、長は一丈乃至二丈にして幅は尺餘に及ぶ、元揃昆布、鼻折昆布、白髪混布等に製し、又は煮出の料となす、沃度を製するに用ふ

ナガコンブは長切昆布(海帶)に製して清國に輸出す、又青板昆布、刺昆布を製す
ホソメコンブ「細昆布」は刺昆布に製す、晒乾、碎粉して貯蔵す

ナガミコンブ「縮昆布」は粘液に富むを以て、トロコンブの名あり

アカメ「裙帶菜」「和布」「若布」 *Ullopteryx pinnatifida* は各海に産す、長二三尺に達す、食用に位す

アラメ「黒菜」「荒布」 *Kokonia biocelis* は切荒布となして食用に供す

ヒシキ「羊栖菜」「鹿尾菜」 *Cystophyllum fusiforme* は煮乾して食用に供す

テングサ「石花菜」 *Gelidium Cornutum* は凍脂、凍脂(寒天)の原料に供し、又三嶋海苔に

製す

ツノマタ「鹿角菜」「角又」 *Gigartina prolifera* は乾燥して糊料に供す、殊に泥工、等多く之を用ふ

フノリ「海蘊」 *Gelopelis furcata* は晒白乾製して糊料に供す、殊に織物を製するに用ふ
アマノリ「紫菜」 *Porphyra Laciniata* に岩海苔と紫海苔との二種あり、乾海苔を製するに用ふ

水産製品

各類各種の水産製品に就きて重要なるものの産額を列記すれば左表の如し、但し括弧内の數は萬圓を以て單位とせり

乾物類	鱈節(二九七)	鰯(一七八)	煮乾鰯(二二二)	乾鰯(六八)	乾鰯(六二)
鹽物類	鹽鮭(九七)	鹽鯖(四九)	鹽鱈(三二)	鹽鰯(二九)	
海藻類	昆布(七六)	海苔(五六)	海蘊(一〇)	石花菜(七)	
肥料品	搾粕(七七八)	乾鯨(一七九)	乾鰯(九三)		

此の外に寒天(六六)、魚油(二四)等あり

而して製作品の總額は凡そ三千萬圓なるが之を府縣別に爲し重要なるも

の列擧すれば

製作品 二九七四〇三五九

北海道(一三七〇) 千葉(一三二) 長崎(一七) 静岡(一〇一)
鹿児島(八七) 茨城(八二) 山口(七三) 高知(七二)

(二) 製鹽

製鹽業は日常の食料用として欠くべからざるのみならず、防腐用若しくは工藝用として必須なる食鹽を採取するの業務なり、食鹽は海水を煮て之を製するの外、又鹽湖、鹽井、鹽泉、鹽山、鹽坑等より取得するあり、然れども我が國に於ては専ら海水に依りて製鹽を爲し、鹽湖、鹽山、鹽坑の如きは絶へてゐることなし

製鹽の法に、素水製、打水取、溝採法、瓮采製、天日製等の數種あれども本邦に於て主として行はるゝは溝採法にして俗に入濱と稱するものなりとす。本業は昔時より發達せるものにして世に製鹽十州と稱する瀬戸内海沿岸地方に於て最も盛なりとす、然れども其の産額は内國の需要に充つるに止まりて未だ隆盛を究むと云ふを得ず、殊に其の品質に至りては概々粗雜

産地、産額

製鹽

鹽田反別	七八四一 ^甲	山口(一〇七五)	兵庫(九九五)	香川(八九三)	徳島(六三三)
製鹽釜數	一、八四五三	静岡(一六六〇)	愛知(一五二〇)	石川(一五〇五)	高知(一四六一)
食鹽總産額	六二七、八〇九四 ^石	山口(一〇六)	香川(一〇四)	兵庫(七五)	廣島(六七)
	一〇一〇、四七七 ^甲	山口(二六六)	香川(二五三)	兵庫(二四)	廣島(一〇三)

其五 農業

農業

我が國は瑞穂國と稱し、古より農業を以て國の本とし、上之を獎勵し、下、舉りて耕耘に努力せしが故に此の業大に發達し、生産力の大なる他種の生業に冠絶せり、抑、本業は土地に耕耘を施し、各種の植物を栽培して、禾穀、豆菽、蔬菜、果物等の食料品を始りとし、飲料、香料、糖料、織料、染料等に供する物品を

帝國大地誌

耕地

収穫するに在るを以て農産原料と農産製品とに分ちて記述せんとす
 (一) 農産原料
 先づ耕地の面積に就きて一言せんに總計は五百一萬一千三百十五町歩にして之を田地と畑地とに區別すれば左表を得

農産物

田地 二七三六二六八 新潟(一六二) 福岡(二〇八) 兵庫(二〇四) 千葉(二〇四) 秋田(九八)
 畑地 二二七、五〇四七 鹿児島(一六二) 熊本(一〇八) 茨城(一〇二) 埼玉(九八) 長野(九〇)
 農産原料の主要なるものは米にして之を國民一般食料の基とす之に次ぐを麥とし、食料として米の不足を補ふに供す、其の他、穀類には大豆、粟、稗、黍、蜀黍、王蜀黍、蕎麥、小豆、等あり、蔬菜には甘藷、芋、馬鈴薯、蘿蔔、等あり、工藝用としては實綿、大麻、苧麻、藍草、藥草、蘭、檳、楮、等あり、其の他に烟草あり、甘蔗あり、果實あり、何れも日常必須のものとする、而して其の産額は年の豊凶に由るものなれば増減の一ならざるは素より論を俟たず
 今茲に近來無比の豊年たりしとの評ある明治三十一年の統計に依り主要なる食料品に就きて産額を掲げんに

穀類

米 四七三、八^五 新潟(二八〇) 兵庫(二二三) 福岡(一九二) 三重(一八八)
 粳米(四二七) 糯米(四〇五) 陸稻(六二)
 麥 二〇四六 埼玉(一一六) 茨城(一〇七) 兵庫(九二) 熊本(九〇)
 大麥(八九二) 裸麥(七三六) 小麥(四一八)

蔬菜

此の外に尙ほ穀類にて稍、著しきものを擧ぐれば次の如し
 大豆(三三〇) 粟(三三九) 稗(八〇) 蕎麥(九九)
 且又蔬菜の中にて最も多量の産あるものを摘記すれば
 甘藷 六六、六三九^五 鹿児島(一九五八) 沖縄(六七二五) 熊本(五八三八) 長崎(五七四〇)
 愛媛(三四二六) 千葉(二六七三) 廣島(二五五八) 徳島(二二七二)
 北海道(二八九七) 福島(三九二) 青森(三七二) 新潟(二〇二)
 馬鈴薯 五八五^五 秋田(一八六) 長野(二六九) 神奈川(一四八) 宮城(一四〇)

工藝用原料

次に工藝用に供する原料を擧げんに
 實綿 七三〇^五 鳥取(一〇〇) 大阪(八六) 廣島(七九) 愛知(六二) 千葉(四七)
 大麻 三五七 栃木(八五) 廣島(四二) 新潟(二九) 島根(二〇) 廣島(一九)
 帝國大地誌 二二五

藍葉 一九四一 徳島(四五六) 福岡(二二三) 愛知(一六九) 埼玉(二二三)
 右の外に尙ほ稍、顯著なるものを記すれば
 煙草 八八七 茨城(六八) 岡山(六六) 神奈川(五九) 徳島(五九) 福島(五二)
 甘蔗 一三三二三 鹿児島(七五七九) 愛媛(一六四四) 熊本(六四) (第十三統計年鑑)
 菜種 一〇一 滋賀(九、八) 三重(九、七) 福岡(九、二) 大阪(八、九)
 生蠟 二六〇 福岡(六七) 愛媛(六三) 大分(二〇)
 漆汁 四、四七八 長野(六一四) 栃木(四〇七八) 石川(三二八)

(二) 農産製品

我が國に於ける農産製品は甚だ多類なりと云ふを得ずと雖も亦顯著なる生業たるを失はず而して主要なる製品は油類茶類糖類酒類醬油等なりとす

油類 油は主として藝藻綿實荏實胡麻等より搾取し食料燈火用又は工業用に供せり

アブラナ科藝藻は學名を Brassica campestris と云ひ十字花科に屬す其の子實より搾製

農産製品

油類

したる油は種々の用に供せる

ワタ草綿は學名を Gossypium herbaceum と云ひ錦葵科に屬す綿實の油は主として工業用に供せらる

モロイ荏胡麻は學名を Perilla Ocimoides と云ひ唇形科に屬す荏實より製したる油は乾燥し易きを以て主として傘提燈油燭等の製作に適用せらる

ユマ胡麻は學名を Sesamum indicum と云ひ胡麻科に屬す油實荏實にして味頗る美なり最、食料に適す又薬用に供せらる

油類の總産額には詳ならざる所あるを以て之を掲ぐることを能はざれば菜種油の産額のみを記さん

總額 六九二 大阪(八四) 愛知(六八) 三重(五八) 福岡(五五) 滋賀(五二)

茶類

茶類 茶は山茶科の Thea Sinensis の葉を摘採して之に適宜の製法を施せるものなるが日常必須の飲料品として盛に需要せられ販路は内國に限らず遠く海外に輸出せらる而して製造法に據りて種々の茶を得るものなれば茶類の中には玉露煎茶碾茶番茶紅茶烏竜茶等ありて之を綠茶紅茶の二

種に大別するを得べし

玉露は覆下園の茶葉を湯蒸に爲して得る所の上等の緑茶なり

煎茶は緑茶の一種にして湯蒸製と釜炒製との別あり

番茶は粗悪なる茶葉を用ひて製したる一種の煎茶にして香氣に富めり

碾茶は嫩芽を以て製したる煎茶を臼にて細末に爲したるものなり故に一名を抹茶と云ふ

紅茶は使用の際茶汁に紅褐色を與ふるを以て此の名あり味濃にして香氣に富めり

烏竜は支那に行はるる一種の製造法に依りて製作せられたるものなるが特殊の香氣ありて味も亦佳良なり

磚茶は一に板茶と云ふ塊状にして堅硬なるを以て此の名あり味は紅茶に類せり我が國にては此の種の製法は多く行はれず

製茶に従事するもの、戸数は全國にて八十萬餘戸に達するが本業の最も盛なるは臺北縣(烏竜)静岡縣(煎茶)京都府(玉露、碾茶)等なり而して産額は次の

如し、先づ全國を除外く^{臺灣}の産額を掲げんに

茶類産額	八四四	静岡(二九六)	京都(五七)	三重(四六)	岐阜(三三)	福岡(三三)
煎茶	五九二	静岡(二八七)	三重(三七)	京都(三二)	奈良(二七)	福岡(一七)
番茶	二三九	京都(二〇)	山口(一八)	岐阜(一五)		
玉露(七)	紅茶(三、六)	烏竜(一、九)	碾茶(四)	磚茶(二)		

而して臺灣の製茶總額は左の如し

製茶産額 一四二七^{五斤} 臺北(二七二)

砂糖 世が開明に赴くに從ひて砂糖の需要が愈々増加するは争ふべからざる事實なり而して内地に産する砂糖は現時の需要を充たすに足らざる

れば従來臺灣、呂宋、暹羅等の砂糖を以て供給の不足を補ひ來りしが今や臺灣

は帝國の領土と成りて製糖業に一大變動を與へたり然れども資金投入の不足なる製造機關の整備せざる本業をして充分に發達せしむるを得

ざるは遺憾に堪へざる所なり

砂糖を製造する爲に用ふる所の原料には甘蔗、甜菜、蘆粟、糖椒、糖椰等なる

帝國大地誌

が我が國に於ては主として甘蔗を用ひ甜菜の如きは僅に北海道に於て使用せらるるのみ

サトウノキ「甘蔗」はサトウキビ又はサトウタケと稱す、禾本科に屬する植物にして學名を *Saccharum (Officinarum)* と云ふ、其の莖、葉等の状態は蜀黍に酷似せるが莖を壓搾して糖汁を採取す

サトウダイコン「甜菜」は蓴科の *Beta Vulgaris* にして甚多の變種あり、菜根を壓搾して糖汁を採取す

サトウモロコシ「蘆粟」は禾本科の植物にして學名を *Sorghum Vulgaris* と云ひて蜀黍に類せり、莖を壓搾して糖汁を採取す

サトウカヘデ「糖楓」は學名を *Acer Saccharinum* と云ひ楸樹科に屬す、樹汁を採取して糖料に供す

サトウヤシ「糖椰」に數種あり何れも棕櫚科の植物にして椰子屬に屬せり

砂糖の製造法を略記せん、糖液を採取せし後之を消澄せしめ蒸發法に依りて水分を去除して結晶せしむれば多少の糖蜜を混有する粗糖(白下若しくは黒砂糖)を得

るなり而して更に適度の壓搾消澄を施せば赤砂糖又は白砂糖を得るなり、其の他特殊の方法に依りて棒砂糖、氷糖等を製す

砂糖の總産額に就きて記さんに臺灣嶋に三十一億五千三百六十餘萬斤の産出ありて其の他に一千三百四十萬貫の製出あり而して製糖業の最盛なる地方は臺南(白糖、青糖、糖蜜)、香川(白糖)、沖繩、鹿兒島(黒糖)、徳嶋(白糖)等なり

臺	白糖	三、三三三六	臺南(三、三三四五)	臺中(九〇)
灣	青糖	二八、三五八四	臺南(二八、二七九五)	臺中(四九四)
嶋	糖蜜	三八〇	臺南(三二〇)	臺中(六〇)
其	白下	四二七	香川(一八四)	東京(三六)
	赤砂糖	三九	香川(三三)	宮崎(三三)
	白砂糖	四七	徳島(一五)	香川(一一)
	黒砂糖	七、七四	沖繩(三三)	鹿兒島(三〇)
他	糖蜜	五一	香川(二四)	徳島(一三)

酒類。醸造業は米、麥等の穀物若しくは葡萄、林檎、梨等の果物等に依りて「アルコール」的飲料を製造するにあり而して我が國に於ては本業は米穀を基と爲せる清酒、濁酒、味淋、白酒、燒酎、酒精を醸造する所の舊式に據るものも漸次に進歩すれども大麥を原料とする「ビール」を製造する所の新式に據るものは近來大に發達して益々隆昌ならんとするの趣あり、甲種に關する造石高は三十年度に於ては凡そ四百四十萬石なるが就中、清酒の醸造四百四十萬石は最盛にして兵庫、福岡等の地方は之が重要生産地たり又「ビール」の醸造に就きては造石高を詳にするを得されども製造の盛なる地方は東京、大阪、愛知等なりとす、而して混成酒の製造あるも其の産額著しからず

清酒 四一四百石 兵庫(五、一) 福岡(二、三) 京都(一、五) 廣島(二、五)
 濁酒 八、五 宮城(一、六) 秋田(八、八) 千葉(八、八) 岩手(七、七)
 味淋 四、二 千葉(九、九) 兵庫(五、五) 大阪(五、五) 愛知(五、五)
 醬油 本品は食料用として必要なるものにて帝國に於ける需要の増加するのみならず、近來は海外に多少の輸出あるに至れり、從て其の製造額(明

三十二年度)も亦漸次に増大せり
 一八五四九八六百石

醬油産額 一五三百石 千葉(二、〇) 兵庫(九、六) 愛知(八、六) 香川(八、四)

其六 鑛業

鑛業とは地中に埋没せる金銀を始めとし、其他、人生に有用なる鑛物を採掘し之に多少の人工を加へて製煉を爲すを云ふ、元來我が國は鑛物を産出すること饒多ならざるが故に本業も亦甚々盛大ならず、抑、鑛物中にて最、貴重なるものを何となすかと云ふに、通常、金銀を以て第一と稱するもの多し、金銀、素より貴重ならざるに非ず、然れども最、人生に直接の効用を與へ、工業の發達に極めて密接なる關係を有する鑛物は先づ鐵と石炭とに指を屈せざるを得ず、されば鐵と石炭との産額にして巨多なるに於ては國利を増殖する、眞に尠少ならざるべし、悲哉、我が國は鐵の産額頗る尠く、加ふるに金銀の如きも亦其の産額甚々微々たり、然れども鐵に次ぎて有益なる石炭及び銅の二品には稍、豊富なるが故に少しく慰むる所あるが如し、さ

れば政府は地質調査所を置き、地質分析等に關する事務を司らしめ、以て鑛業の發達に補助を與へ、東京、大阪、福岡、盛岡、札幌の五ヶ所に鑛山監督署を設けて鑛山の濫掘より生ずる所の危害を防止せんことを務む

今我が國の各種鑛物の産額に就きて一言せんに、金屬中にては銅を第一とす、其の産額は三十年度にありては凡そ三千三百九十八万斤に達し、外國に輸出する唯一の金屬なりと云ふも誣言に非ざるべし、之に次ぐを銀とし、其の産額は凡そ一萬四千五百貫に達せり、然れどもメキシコ、其他南アメリカの産銀國に比すれば遙に下位にあり、次を金とすれども、産額は僅に二百八十貫前後に過ぎざれば之をトランスバール、オーストラリア等の如き産金國に比すれば著大の差の存するを觀る、而して人生に最も有益なる鐵の産額は七百五十萬貫に過ぎず、且多くは砂鐵なりとす、抑、砂鐵なるものは土地を荒蕪するのみならず、採鑛の勞費を考ふれば殆ど損益相償ふに足るのみ斯の如く鐵の産額は甚だ乏しくして國內の需用を充たすに至らず、僅に鍋釜等の鐵器若しくは庖刀、小刀の如き及物を作るの用に供するのみ、

銅 銀 金 鐵

石炭

硫黃

其他鉛は百二十八万斤の産ありて安質母に百九十五万斤の産あり、非金屬中にて最も有用なるは石炭なり、英國が自ら黒印度と稱して得々たるは石炭の産出巨多なるを誇るにあり、今蒸氣機關を運轉して百般の工業に資し、車輪を鐵路の上に馳驅し、船艦を海洋に走行せしむるは、一に石炭の原動力をなすに基づくものなり、石炭の効用も亦重大なりと謂ふべし、我が國に於て石炭の効用を知り、之が採掘に従事せしは三十年以來の事なれども、幸にして九州、北海道、其他の地方に數箇所の良煤田を發見し、我々として採炭を務めたるを以て現時の産額は五百十八万噸以上に達し、唯に國內の需要を滿たすのみならず、清國及び其他の國に輸出する勢力を有せり、而して炭質に就きては佳良ならざるの缺點あれども、産出額は充分なるが故に常時に於ては競争場裡に立ちて外國炭を壓倒するの餘裕あり、戦時に於けるも國の活動力を支持するを得るは敢て疑を容れず、石炭に次ぎて著しきものは硫黃にして、其の産額は二千二百六十三万斤に達せり、而して其の効用に至りては固より石炭に及ばず、雖も工業用若しくは藥品用と

石油

二三六

して必須なるものたり。石油は其の産額(二十三万石)未だ大なりとするに至らざるも採油業は近年漸次隆盛に趣きて頗る有望の事業なり、其の他、陶土ありて其の産出頗る多し、是れ我が國の名産の一たる。陶磁器の原料なり、要するに我が國の鑛業は甚だ盛なるに非ざるも其の生産額は三千五六百萬圓に達すべし、今左に第十八統計年鑑に依り一表を作りて重要鑛物の販賣額と重要生産地とを掲げたり

鑛業生産額

銅	七九五 <small>百斤</small>	栃木(一八八)	愛媛(二三六)	秋田(二二六)	宮崎(八〇)	岡山(七三)
銀	二〇一	秋田(九一)	岐阜(二七)	兵庫(一七)	島根(二六)	新潟(一一)
金	一一七	鹿兒島(三三)	新潟(三一)	兵庫(二五)	秋田(二三)	石川(九七)
鐵	一〇一	岩手(六六)	島根(二三)	鳥取(八九)	廣島(七八)	
石炭	二〇五九	福岡(二三三八)	北海道(三七〇)	佐賀(二四九)	長崎(一一〇)	
石油	四六	新潟(四五)	靜岡(四四)			
硫黃	二九	北海道(一九)	長野(二六)	秋田(二五)		

其七 工業

工業

工業は生業中にて最貴重なるものとせり、其の理由たるや他なし、國力を消耗すること甚だ少なくして人生に利益を與ふること頗る多きを以てなり、是故に世界中最も有力なる國は工業の最も隆盛なる國なりと云へり、現にイギリスの如き、今日の隆盛を致せるは工業の殊に振起せるが故ならん、又ドイツ國の如き、戦近戦勝の後、内には工業の發達を奨勵し外には其の製作物の販路を搜索するを以て其の地位を維持する政策の一とせりと云ふ、抑、工業は廉價の原料を採り之に勞力を加へて高價の製作品と爲すものなるが故に國力を消費すること少なく唯、人民の勞力に對して賠償を求むるに外ならず、然るに勞力なるものは殆ど無盡にして絶へず之を供給し得るものなれば、鑛業の如き國の財貨を耗盡するものと同日の論に非ず、されば國利を増殖するの點に於て、工藝品が農産物及び鑛産物の如き原料品に優る所以にして、從て工業の國家に必要なる所以なり、今翻りて我が國の工業の發達の程度及び如何なる工業が最も發達せる

帝國大地誌

二三七

やを觀察せんに七千有餘の工場は男工十八萬及女工二十三萬を使役するも産額の稍、著しきは僅に織物業の一あるのみ抑、本邦の織物業たるや、其の總産額は殆ど一億二千二百五十萬圓に達し綿布、絹布を始めとし其の他、各種の織物を産出するを以て稍、旺盛なるが如き觀あるも之をイギリス、ドイツの如き大に各種の布帛を織り出だす國に比すれば實に宵壤も雷ならざるべし又世人は動もすれば我が國工藝の隨一として陶磁器の製造を誇るも其の産額に至りては五百二十萬圓を超ゆるを得ず却て摺附木の製造は近來非常の進歩を爲し其の産額は六百六十萬圓に達せり實に本邦製の燐寸は東洋に雄飛すと云ふも過言に非ざるなり而して製紙、紡績、印刷業等の如き工藝が驚くべき進歩を爲したるは頗る喜ぶべしと雖、亦一方を顧みれば漆器の製作は衰頹し製鐵業は振はず殊に金物製作は僅に日常の器具を出だすに止まりて舊觀を改むるの餘地なく銅製の美術的工藝品は稍、見るべしと雖、漆物、刀物等の拙劣なるは誠に耻づるに堪へたり

我が國にては工業の本旨を謬りて所謂美術工藝に力を用ふる傾向ある

に似たり本邦は古來より美術的工藝に秀ひて遂に世界に對し美術國の名を博するに至りたるは、并舞に堪へざる所にして永く此の稱譽を保存して失はざらんことを勉むるは緊要なりと雖、唯に美術工藝のみを發達するも經濟を裕にし國力を増大ならしむるには決して充分の功ありと云ふを得ず須らく人生に必要にして缺くべからざる物品を製作するに翰磨し華美粧飾に屬する物を造るに汲々たらざるも敢て妨げなかるべし、要するに高價なる美術的名物を造らんよりは寧ろ實用的産物を多量に製するは富國の道に協へりと斷言するを憚らざるなり

茲に各種工藝に就き其の概況を記述せんとす但し統計は主として帝國第十八統計年鑑に依れり

製絲業

製絲業。繭を解舒して絹絲を製するには手繰座繰器械繰等の數法に依れり而して蠶絲の製作に關しては三千八百餘の製造所ありて製造戸數は四十一萬に達するが生絲一四八萬貫は細物にしてフランス向なり、太物三十三乃至十四、アイニールの絲にしてアメリカ合衆國向なり、の二種に大別せられ又屑絲には熨斗絲、二六、玉絲

(九等の數種ありて總産額は凡そ二百二十萬貫なり又生産の最、多き地方は群馬、長野、山梨、福島、埼玉等なりとす、而して近來屑絲を紡績して、絹絲を製するに至れり

群馬(三八)	長野(三六)	山梨(二四)	福島(二三)
埼玉(一一)	岐阜(八四)	東京(八二)	新潟(七四)
山形(六)	愛知(五九)	滋賀(四八)	神奈川(四)
總産額	二二三、四八六、五		

我が製絲業は近來長足の進歩を爲し産額明治三十一年一七、七、四八、二一の如きは大に増加したれども製作の方法未だ充分ならざれば海外の市場に於ては常にイタリヤ産、フランス産等に拮抗する能はず又産額に於けるも需要は尙ほ其の増加を促すの餘地ありと云ふ

屑繭を用ひて眞綿を製するが其の産額は凡そ六萬五千貫にして産地は滋賀、長野、福島等を最とす

紡績業

紡績業。本業には和製機械取と洋製機械取との二種あり、一は從來の機械を用ひ一はイギリス、ドイツ等に盛に行はるる紡績機械を用ふ而して舊

式の製絲法の不振にして漸次に衰退するに際し西式紡績業は近來非常に發達し日を追ふて進歩し七十二ヶ所の紡績場に於て百二十萬鐘に據り、四千一百萬貫の繰綿を用ひ三千三百六十萬貫の綿絲を製出す、されば綿絲の輸入を防遏せんとするの勢あるのみならず尙ほ清國、韓國の如き近隣諸國に販賣すべき綿布の原料を製作するに至れり而して本業の盛なる地方は大坂を最とし、之に次ぐを東京、岡山、兵庫等なりとし、著名なる紡績所を鐘ヶ淵、東京、攝津、大阪、平野、大阪、三重、尼崎等なりとす、

大阪(二四八七)	東京(六二〇)	兵庫(三三八)
綿絲總産額	三三五、五	
岡山(三八七)	三重(一九六)	愛知(一八六)

織物業

織物業。本業は日常必須なる各種の布帛を供給し又裝飾的織物の需要に應ずるに止まらず、遂に海外諸國に羽二重、織織等を輸出するに至れるを以て其の産額一、二、二、五〇萬圓大に増加し實に他の工業に冠絶せり、然れども未だ内國の需要の全部を充たすに至らず、彼の「モスリン」、「フラネル」、「羅紗」毛布、其の他の毛織物は總べて之を外國より輸入せざるを得ず、加之染色法の

不完全なる或は暫時にして褪色するあり或は一洗の下に變色するあり要するに本業には尙ほ進歩改良すべき餘地の大に存するは辯論を俟たずして明なり

今茲に織物の總産額を絲質に依りて類別すれば左表の如くにして

年次	明治三十一年	同二十九年	同二十七年
總産額	一,四三三,七九九	一,〇四九,七六八	七三五,〇七四
絹織	七三九,三六〇	五〇〇,九五五	三三三,八四七
絹綿交織	一七二,〇三二	九一三,三五六	八二四,七一六
木綿織	四八七,八四四	三三〇,〇一〇	二七二,七五八
麻織	三三三,七四八	三三四,六三六	三〇九,三六六
其他	六〇,七〇一	三三,一九四	三〇,四二七

之を地方別に爲せば、京都、群馬、愛知、福井、栃木、埼玉等の上位にあるを見るべく而して絹織の最盛なる地方は京都、群馬、福井等にして木綿織の製出多き地方は愛知、和歌山、埼玉等なりとす

織物製造高 一,二三四八,一九八二

京都(二二〇〇)	群馬(二二九四)	愛知(九五九)
福井(八四二)	栃木(七三二)	埼玉(六三四)
東京(四八四)	和歌山(四八四)	岐阜(四一六)

反物 一,〇九二四,八一七

絹織	五四九六,七八七八	京都(九九七)	群馬(九七四)	福井(八〇六)
絹綿交織	四〇八九,四三〇四	愛知(六八七)	和歌山(四八三)	埼玉(四八三)
木綿織	八五六,一一六六	愛知(二五〇)	岐阜(一三六)	栃木(一二六)
麻織	四四三,八〇〇七	廣島(一〇二)	大阪(九九)	滋賀(七六)
其他織物	三八六,八二四	兵庫(五五)	長野(三五)	
帶	一三三三,三八〇五	京都(七七三)	群馬(二六一)	福岡(五七)
絹織	八七一,〇八九八	京都(五七四)	群馬(八八)	
絹綿交織	三一六,三八六四	群馬(一七三)	京都(一一六)	
木綿織	一三五,九〇四三	京都(八二)	岡山(三六)	

次に各種織物の製造額に就きて五百萬圓以上に達するものを擧ぐれば
帝國大地誌

羽二重、生木綿、縮、フラネル、白縮綿、縮木綿、女帯地、紬太織類等を得るなり

絹織	六三六七 <small>百円</small>	絹綿交織	一二七二 <small>百円</small>	縮「フラネル」	七七一 <small>百円</small>
羽二重類	一七〇	女帯地	二九二	編木綿	七一八
白縮綿類	七四〇	糸入編緋	一一〇	緋木綿	四二一
女帯地	七二七	絹綿縮緬	九三	青縮千草	二七一
紬太織類	五三九	糸入二子	八六	二子木綿	二〇一
並海氣	四五七	其他	……	晒木綿	一六七
絲織類	四五四	木綿織	四二五	縮木綿	一四五
其他	……	生木綿	八五一	其他	……

抄紙業

抄紙業 本業は往昔より存在せる生業の一なれども近來西洋に行はるる製紙法を利用するに至りたるを以て製作上に於て面目を改めしのみならず産額も亦著しく増加したり

和紙は楮、三椏、莖、花、稿、萱等と原料として抄製せられたるものにて半紙、美

濃紙、奉書紙、檀紙、烏子紙等あり、其の質概々美麗堅韌なり、製造戸数は六萬六千餘にして産額は一千二百六十萬圓に達せり

和紙産額	一二五八 <small>百円</small>	高知(二〇九)	岐阜(二八七)	愛媛(八七)	静岡(九九)
半紙	五一六	高知(二二六)	愛媛(五二)	山口(四五)	静岡(三八)
美濃紙	一四一	岐阜(七五)	愛媛(八)	鳥取(八)	静岡(七)
其他	六〇〇	岐阜(八二)	高知(七九)	兵庫(四四)	静岡(四一)

洋紙は椏、柳、桑、稿、稗、三椏、椏、襷等を原料に用ひ機械に據りて製作したるものなるが其の質軟弱なるの嫌あれども頗る印刷に適す、洋紙製造に充つる資本金は四百餘萬圓にして一千五百人足らずの職工を使役し二百五十萬圓の製品を興ふ

摺附木製造 摺附木は其の價格の至りて廉なるが故に通常人の冷淡視するものなれども、現今は日常必需品の一にして其の需用多きに依り、本業に従事するの日尙淺きも既に八萬餘の職工を使役し産額は凡そ六百六十萬圓に達せり、是れ畢竟我が國か憐寸を製作するに必要なる木材と硫黄

摺附木製造

とに富めると同時に労働賃銀の廉なるに由ると雖、亦以て實用的工藝の發達の容易にして國利を資するに最、適當なるを觀るに足るものあり

摺附木産額

二、八八四六
六五五

大阪(二二三)

兵庫(三五八)

愛知(八三)

東京(二六)

窯業

窯業。本業は陶磁器七寶器玻璃器煉瓦石灰セメント等を製作するを目的とし、而して陶磁器の製造の如き古來有名の工藝なれども二萬六千の職工を用ひて五百三十萬圓の製作品と興ふるに過ぎず、七寶器は中外の譽りて稱賛する所なるも其の性、美術的なれば需要廣大ならずして製作も亦易易たらず、玻璃器の製造は進歩著しからざるも煉瓦石灰セメントの製作は漸次隆盛に赴くが如し

陶磁器産額

五一六

愛知(一五七)

岐阜(一一五)

佐賀(五三)

京都(三六)

漆器製造

漆器製造。漆器は宇内萬國に比類なき本邦固有の特産たり、然れども工人の多くは舊式を黙守するのみにて本業の進歩改良を企圖するもの少なきが故に産額の如きは四百二十萬圓内外なり

銅器製造

漆器總産額

四一

和歌山(七八)

京都(五三)

石川(四六)

静岡(二五)

青銅器銅器の製造は顯著ならざるが産額は百十餘萬圓に過ぎずして産地は京都(五一)富山(二三)等なり

編物業

編物業

本業は藁、莞、麥稈等を用ひて畳表、莫蔭、莞蔭、麥稈紐等を製するにありて近年漸次に隆昌に趣けり

畳表。畳表は日用必須品の一なり、藁草を以て之を製す、藁草には二種あり、其の圓闊は柔曠にして光澤あり上品とす、備後表を作るに適し、三角闊は堅韌なれども美麗ならず、普通の需要に適し、琉球表を製するに用ふ、而して兩種の畳表を合はすれば總産額は二百萬圓内外に達すと云ふ

畳表産額

一九四

四角

廣嶋(二六)

岡山(一八)

三角闊

大分(八八)

静岡(二二)

莫蔭産額

四九

廣嶋(一一)

福岡(九)

莞蔭

莞蔭は主として海外に輸出するを目的として製したるものにし

帝國大地誌

て其の産額 明治三十五年 三五六萬圓は著しく増加せり、有望の事業と云ふべし

莞苳産額 三三二五百 廣島一四〇 岡山二二二 福岡二七二 大分二二二

麥稈紐 麥稈紐は主として帽子の原料に供す、産額は凡そ二百萬圓なるが主要なる生産地は岡山、愛知、静岡、東京、香川等なり

製革業 本邦は天然の奇獸に富まざるが上に牧畜の業も振はざれば、其の結果として本業の大に發達するを得ざるは敢て怪むに足らず、然れども洋靴、革包、革紐等の行はると共に牛革の需用の増すは火を見るよりも明なり

革類産額 一四〇四百 大阪八二 東京三三 兵庫二六

前記の各種工藝の外に尙ほ數多の工藝あるも其の産額著しからざるか又は詳ならざるを以て今左に稍、著名なるものに就きて主なる産地を掲げ置きて他日の増補を俟つことにせり

鐵器(大阪) 富山(京都) 岩手(手) 刃物(大阪) 岐東(東) 金物(大阪) 新潟(東) 洋傘(大阪) 木

具(大阪) 愛知(東) 静岡(京) 竹器(愛知) 兵庫(香川) 静岡(廣) 和傘(岐東) 扇子團扇(京都) 愛知(大阪)

提灯(大阪) 愛知(東) 東京(京) 書籍(大阪) 墨筆(奈良) 東京(京)

其八 商業

商業は生業中最、有力なるもの、一にして分ちて内國商業と外國商業即ち貿易との二種となす、内國商業は國內各處の間に行はるる商業にして漸を以て發達するもの如し、是れ一は交通の便の開くるに依ると雖、亦商品の増加改良と營業者の進歩發達とは大に與りて力あるべし、然れども内國の商業に就きては適當なる統計表の存するなきを以て直接には概況だも記述するを得ざるべし、されば内國商業の情況は或は國內交通の發達に徴するか百貨集散の情態に鑑みるか或は外國商業の盛衰に就きて窺知せざるべからず、蓋し貿易と内國商業とは車の兩輪の如く唇齒相依るものなればなり

先づ十數年來我が國の貿易は縱令年に依りて多少の浮沈あるは免るる帝國大地誌

能はざるも概々良好の結果を與ふるものにして殊に輸出入全計の著しく増加せしは慶賀すべき事なれども往々輸入の輸出を超過すること大なるを遺憾とす

物品輸出入全計累年比較表 *ハ輸入超過

年次	輸出	輸入	輸出入全計	輸出超過
明治三十二年	三,一四九,九八八	三,一〇〇,九二六	六,二五〇,九一四	五,四七,一三三
同三十一年	三,一〇〇,九二六	三,一六三,九〇八	六,二六四,八三四	一,六〇五,七二一
同三十年	一,七七八七,五〇九	三,七四一,〇五三	五,五二八,五六二	九六二,九〇〇
同二十九年	一,三二二,六五二	一,八八七,八九七	三,二一〇,五四九	五七五,三三三
同二十八年	一,三七〇,八八七	一,二二二,五九九	二,五九三,四八六	一,一五〇,六七八
同二十七年	九〇三,三三六	八九三,〇八二	一,七九六,四一八	七,三〇〇
同二十六年	六五七,七〇一	六五五,〇〇〇	一,三一二,七〇一	二,七〇一
同二十一年	三,八五二,六一〇	三,一〇一,五五〇	六,九五三,六一〇	六五〇,一五五〇

物品の輸入超過は必、正貨の流出を誘ふべきものに非ざるは經濟學上證し得て明なる所あれども悲かな現時の我が國貿易の情態は佳良ならずして往々硬貨の海外に散出するを觀ること少なからず

金銀貨及び金銀地金輸出入累計比較表 *ハ輸出超過

年次	輸出	輸入	輸入超過
明治三十二年	一,一七八,二四七	二,〇一六,三三〇	八三八,〇八三
同三十一年	八〇九,七三〇	四八三,四二八	三二六,三〇二
同三十年	一九八,一〇六	八七三,九七九	六七五,八七三
同二十九年	一,一八〇,一六一	四四四,三六一	七三五,七八五
同二十八年	二七三,〇一六	五八七,四一六	三一四,四〇〇
同二十七年	三三三,七一一	二六七八,三六五	二三四,九五四
同二十六年	一,三三八,九一八	一,一八六,八八七	二〇二,〇三一
同二十一年	七八三,三四四	八七三,二四九	九〇,九〇五
同十六年	三三三,八四七	六五八,二二七	三二四,三八〇

前表の如く我が國の貿易に關する現象は輸出入の均衡を得ざることをのみならず、正貨の流出する憂ひあるを以て大に吾人の留意を促し順境に越くの策を講ずべきなり、加之輸入品と輸出品との種類を查察すれば亦慨嘆せざるを得ざるものあり、夫れ各種の物品中工藝より得たる製作物を輸出するは之を農業若しくは鑛業より得たる原料的産物を輸出するに比すれば邦家の利益たることは前に述べたる理由に依りて明なり、然るに今我が國の重要なる輸出品を見るに、其の第一位を占むるものを生絲とし之に次ぐを茶、燃料、穀類等とす、此等の輸出品は皆充分に製作の勞を加へざる原料若しくは食料に供する産物なり、尤も工藝的産物に屬するものにして織物の如きは近來其の歩武を進めたりと雖も、大體に就きて之を観察すれば我が國の輸出品は工藝的製作物に少なくして原料的物産の過多なること敢て疑を容れず、又同じく輸出する品種の内にも日常必須のものゝ奢侈に屬するものと何れが利ありと云ふに、日常の必需品を輸出するを遂に利益ありとす、何となれば必須品は其の製作の容易にして普通の職工にて辨

ずるのみならず、之を需要するもの多く従て其の販路は廣大なるべし、奢侈品は之を製作するに特殊の技倆を有するものを要するのみならず、之を欠くも日常の生計に不自由寡きが故に若し一朝國家多事なる場合等に遭遇すれば之を購求するものも従て減少するなるべし、然るに今我が國の輸出品は生絲、絹、布、茶等の如き寧ろ奢侈品に屬するもの、其の主位を占め、之に反して輸入品は工藝製作に屬するもの多きのみならず、綿布、綿絲、毛布、砂糖等の日常必須の品最も多しとす、殊に鐵、機械、船艦、兵器等の如き、當今の世に欠くべからざる物品を他國に仰ぐは甚だ遺憾なりとせざるを得ず、要するに我が國の貿易が年々隆盛に越くは實に喜ぶべしと雖も、退きて輸出品の種類を檢すれば、原料的産物若しくは奢侈的物品は其の主要なるものにして國家の不利甚しきが故に須らく此等に換ふるに製作物の日常必須の品を以てするの境遇に至らんと、吾人の希望に堪へざる處なり、今茲に輸出入の部に就きて重要なる品種の價格百萬圓以上のものを列擧すれば、輸出の部に生絲、綿織絲、羽二重、石炭、綠茶、熟銅、摺附木、米、地蓆類、絹製手巾、麥稈、眞田、地氈

類陶磁器、屑絲、錫、樟腦、玉絲等ありて輸入の部に、繰綿米、砂糖、鐵器類、機械類、綿織絲、汽船綿布類、石油、豆類、縮緬、吳絨、機關車、煙草類、羅紗、紙類、乾藍、酒精、フラチル、更紗等あり

輸出入物品元價を國別に爲し、其の主要なるものを列擧すれば、輸出の部にアメリカ合衆國、香港、清國、フランス等ありて、輸入の部にイギリス、印度、清國、ドイツ、フランス、領印度、支那、香港等あり

國名	輸出之部		輸入之部	
	明治三十一年	同二十五年	明治三十一年	同二十五年
清國	二九一九,三二七五	六三三,八八五九	三〇五三,三八六一	二二五〇,九四一〇
香港	三二四七,三六六六	一三三二,八五四〇	一五九〇,四四六四	六九八,五七三三
印度	六二二,四四三〇	一四二二,三二八九	四〇七六,四二四五	七六六,三〇〇四
韓國	五八四,四三三三	一四一〇,〇九九九	四七九,六〇三三	三〇四,三三三〇
支那	一一,一三二二		二六六六,八四四四	

國名	輸出之部		輸入之部	
	明治三十一年	同二十五年	明治三十一年	同二十五年
ア、サ、アラ、シヤ	二二八、一七三三	三、四一六	一六九、四一七〇	四三八三
暹羅	四、一六三〇	九、六六六	三三九、四一八三	四七、五二二三
ヒリッピン	一一、五三三三		一六五、九六〇六	
オランダ領土	三、六六五五			
イギリス	七七八、三六四三	三九二、一七五三	六二七〇、七五七三	二〇七八、九三三六
フランス	二〇四九、六四〇七	一八〇九、三六九四	六九七、九九八二	三六二〇、五〇〇〇
ドイツ	二四六、九二四二	九四、〇七八二	二五六一、〇九六二	六三七、五〇四八
イタリア	二四八、五三六三	二五、四三三〇	三八、五八一九	六七、六八〇
スペイン	一〇、一一六五	五、〇二二五	四三、一六七三	九、一五三七
シヤツ	三三、六六八六	一五、九五八四	三四九、八三二〇	七一、三六五〇
ロシア	四六〇、六〇四	五八、五六九五	一一、六三九一	八三、五三九五
エスタルライヒ	三、四九八二	三、四九八二	五九、一三三六	一〇、二六六
オランダ	三、七三、七〇七	一、九五五〇	二、四、二八六九	一、七、六〇〇
メエリケ、ノルゲ	九三三	二八六四	一三、八五四六	四、七八一六

我が國は純然たる島嶼國なれば貿易上各種の物品を輸送するには船舶の力を借らざるを得ず、されば百貨を運輸するの權は全然我が國船の掌握する所なるか將た幾分を外國船に譲らざるを得ざるかを觀るも敢て無用ならざるべし、然るに貿易の全計五億圓内外に就きて日章旗の下に出入せしものは僅に其の五分の一に過ぎざるの事實を知らば誰か痛嘆措く能はざるの感を同じうせざる

旗章	種船	明治三十一年		同二十七年	
		出	入	出	入
日 本	汽船	三九,五七四,四七〇	六三,八一九,九三二	三九,五七四,四七〇	六三,八一九,九三二
イギリス	帆船	七,八八八,八六八	二,四四八,七〇七	七,八八八,八六八	二,四四八,七〇七
イギリス	汽船	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
フランス	帆船	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
ドイツ	汽船	一,九七三,五三〇	三,八二七,八三三	一,九七三,五三〇	三,八二七,八三三

總計	不詳	合計	其他諸國		アメリカ合衆國	スエリゲロノルゲ	ロシヤ
			汽船	帆船			
一六二,七四一,九〇三		一六二,七四一,九〇三	一〇六,四六九,一四二	五六,二九一,八四九	六,五一八,四九〇	二,二七三,〇〇〇	三三,四六八,九〇六
二二,二八四,九八六	四八,三三三,四八八	一〇,八〇一,六三八	一〇,八〇一,六三八	一〇,八〇一,六三八	八六四,七三三	六,七二二,四〇六	三〇,〇〇〇,〇〇〇
二六,九九三,二八四	四,二〇〇,〇〇〇	二六,九九三,二八四	二六,九九三,二八四	二六,九九三,二八四	一,五〇〇,〇〇〇	一,三〇〇,〇〇〇	六五,〇〇〇,〇〇〇
一〇九,二七八,九八六		一〇九,二七八,九八六	一〇九,二七八,九八六	一〇九,二七八,九八六	一,五〇〇,〇〇〇	一,三〇〇,〇〇〇	九六三,〇〇〇,〇〇〇

商品の運輸に従事する船舶の出入碇繋する處を商港と云ふ而して商港に二種あり、一は普通商港と云ひて國內の商業に關する船舶の出入する處なり、一は貿易港即ち開港場にして外國との通商貿易に従事するものなり

現今我が國に於て外國との貿易に従事するは左の四十一港とす
 横濱 清水 武豊 四日市 大阪 神戸 絲崎 下の關 門司 博多
 唐津 長崎 口の津 三角 嚴原 鹿見 佐須奈 濱田 境 宮津
 敦賀 七尾 伏木 新潟 小樽 函館 室蘭 釧路 那覇 基隆 淡
 水 安平 打狗 舊港 後壠 梧棲 鹿港 東石 東港 下湖口 媽宮
 前記の貿易港の中にて横濱神戸の二港は其の勢力相伯仲して首席を争
 ひ、其の他に長崎、淡水、大阪、門司、下の關、安平、口の津、函館等あり、新潟の如き従
 來六大開港の一に算へられしも其の貿易高は僅に二十五萬圓に過ぎず、之
 に反し比較的新開の港たる門司、口の津等の貿易高は四百萬圓以上に達せ
 り、而して臺灣嶼に屬する開港を除きて取引高に關する席次表を作れば
 左の如し

港名	輸出		輸入		合計
	内國產	外國產	外國產	内國產	
1. 神戸	七四六、七〇四	三六、六九五	一、一〇〇、〇五八	八八、九六一	一、九五六、一〇九

2. 横濱	一、〇七、八八七	六四、一八四	七六、二八二	一、五、四八八	一、八、七三三
3. 長崎	五七、八〇五	三三、五〇八	一一〇、六九一	四、〇五九	一、七三、五三二
4. 大阪	五九、七三九	二六、五〇八	六三、〇九三	一、四、二七八	一、二六、九三〇
5. 門司	六二、四六〇	一一七	六三、九〇八	一三三	六七、九四四
6. 下の關	四一、四三三	九、二八七	一三、四一六	三九七	五六、三二八
7. 口の津	四〇、九七六	—	三三、八八三	—	四三、八五九
8. 函館	二〇、八九四	三、七〇七	一七、〇三八	二、三二四	三八、二五三
9. 四日市	—	—	六、八九七	—	六、八九七
10. 佐須奈	二、一五二	一、〇六〇	三、一〇三	一八九	五、三四〇
11. 小樽	三、五〇〇	一、一〇〇	一、〇三二	四、四六二	三、一〇七
12. 室蘭	四、九二七	—	—	—	四、九二七
13. 武豊	二、八〇一	—	四、九五五	—	四、二二五
14. 三角	三、三〇〇	—	三、七三三	—	三、七三三
15. 唐津	三、七〇九	—	一、〇八七	—	三、七〇九

26. 敦賀	175	—	4625	50	4850
25. 博多	2570	—	7880	—	10470
24. 濱田	6210	118	3750	492	11100
23. 七尾	17015	—	—	4418	17733
22. 鹿見	22311	10620	22107	189	40550
21. 境	7548	2274	3176	2330	4682
20. 宮津	—	—	8891	—	8891
19. 伏木	33075	150	6283	482	10415
18. 清水	41850	—	22036	—	16233
17. 嚴原	8447	2000	10598	730	19326
16. 新潟	12730	7158	10907	610	23005

其九 交通業

交通業とは旅客の往復、信書の發着、百貨の運搬等の目的を達せしむる業

を云ふ、本業に於けるも他業と均しく其の目的を達せしむるに要する機關なかるべからず、其の機關の主なるものを通路とす、通路の中には陸に據るものと水に據るものとあり、是れ陸路と水路との別ある所以なり、又陸路の中には普通の道路と特別の道路(例へば鐵道の如きもの)とあり、而して水路の中には航河あり、航湖あり、或は運河と稱し、人工を以て開掘したるものあり、就中普通にして利用の最も廣きものを海路とす、次に此等の通路を利用し、運搬往復をなすには通路の外尙ほ他に相應の機關なかるべからず、即ち陸路には牛馬、牛車、馬車、橇若しくは汽車を要し、水路には帆船、汽船を要す、其の他、音信を通ずるには郵便に依り、若し急を要する報知あらば電信に據る、又市街内其他甚だ遠からざる距離に於ては電話を設くるものとす、總べて交通の便に供する此等の機關が充分發達せる國は即ち最も開明に赴ける國たるを證すべし、されば我が國の交通の状況を記載して其の如何に發達せるを知らしめんとす。

道路 凡そ完全なる道路と稱すべきものは、其の幅一定し、傾斜少なく、

面平坦にして險惡ならず、車馬の通行は勿論、旅人の徒歩にも困難を與へざるものたらざるべからず、然るに我が國にては此の如き完全なる道路の發達未だ充分ならず、道路の總延長は七萬里に近きも、築造に缺點多きは遺憾に堪へざる所なり而して本邦にては要用の程度に準據して道路の設備、經濟等を異にするを以て國道、縣道、里道の三種に別てり、國道は重要なる都會の間を連絡するものにて其の延長は現に二千餘里に達すれども、道幅は規定の如くならず、傾斜も亦適度ならざることあり、從て車馬の通行に不便を感ずること尠少ならず、一等道路にして既に然り、縣道に至りては縱令、其の延長は七千八百餘里に達するも、整備の點に於て缺くる所あるを免れず、而して里道には六萬餘里ありて、町村の間を連絡せり

又車輛に就きては總數は凡そ百六十二萬輛なるが、荷車一二六萬、人力車(二〇)荷馬車、牛車、乘馬車等より成れり

東京市日本橋より廳府縣元標に至る里程

1. 埼玉縣浦和町	六	2. 神奈川縣橫濱市本町	八
3. 千葉縣千葉町	一〇	4. 栃木縣宇都宮市池上町	二七
5. 群馬縣前橋市連雀町	二八	6. 茨城縣水戸市	二九
7. 山梨縣甲府市錦町	三四	8. 静岡縣静岡市吳服町	四六
9. 長野縣長野市大門町	五九	10. 福島縣福島町	七一
11. 宮城縣仙臺市大町	九二	12. 山形縣山形市七日町	九五
13. 愛知縣名古屋市鐵砲町	九五	14. 岐阜縣岐阜市白木町	一〇四
15. 富山縣富山市西町(東道)	一〇八	16. 新潟縣新潟市本町	一〇九
17. 三重縣津市分部町	一一三	18. 石川縣金澤市尾張町(東道)	一二五
19. 滋賀縣大津市上京町	一二八	20. 京都府京都市三條大橋	一三二
21. 福井縣福井市照手上町	一三七	22. 奈良縣奈良市三條通り	一四〇
23. 岩手縣盛岡市紺屋町	一四〇	24. 大阪府大阪市高麗橋	一四四
25. 兵庫縣神戸市元町通	一五〇	26. 秋田縣秋田市大町	一五一
27. 石川縣金澤市尾張町(西道)	一五九	28. 和歌山縣和歌山市京橋	一六一

29. 富山縣富山市西町(西道)	一七六	30. 德島縣德島市西横町(淡路通り)	一七八
31. 岡山縣岡山市橋本町	一八六	32. 青森縣青森市米町	一九二
33. 鳥取縣鳥取市西町	一九四	34. 香川縣高松市常盤橋	二〇七
35. 島根縣松江市堅町	二二一	36. 廣島縣廣島市細工町	二三一
37. 高知縣高知市本町	二三四	38. 愛媛縣松山市礼ノ辻	二三七
39. 山口縣山口町	二六六	40. 北海道札幌區	二七六
41. 福岡縣福岡市橋口町	三〇三	42. 佐賀縣佐賀市白山町	三一四
43. 大分縣大分町	三二七	44. 熊本縣熊本市新町	三二五
45. 長崎縣長崎市外浦町	三四四	46. 宮崎縣宮崎町	三六八
47. 鹿兒嶋縣鹿兒島市山下町	三八一	48. 沖繩縣那覇區	五七四
49. 臺北縣臺北	五九六	50. 宜蘭縣宜蘭	六一六
51. 臺中縣臺中	六三六	52. 臺南縣臺南	六七四
53. 臺東廳臺東	六八一	54. 澎湖廳媽宮城	六八八

鐵道

鐵道。鐵道には汽車鐵道、馬車鐵道、電氣鐵道の三種あり

我が國に於て汽車鐵道の創設せられたるより以來、未だ三十年を經過せずと雖、其の發達頗る速にして現今既成線の延長は既に三千七百餘哩に達し、敷設計畫に係るものは二千餘哩に及べり又既成線の内にて官設に屬するものは凡そ九百三十哩にして私設に屬するものは二千八百哩に近し而して鐵道収入の合計は三千三百六十餘萬圓にして其の内、客車賃は二千五十二萬圓なるが貨車賃は一千三十萬圓に過ぎずして益金の總高は一千五百三十萬圓に達すと云ふ

年次	明治三十二年	同三十一年	同三十年	同二十九年	同二十八年
既成線	三四八一、一〇	二九四八、七六	二五〇五、一一	二二九〇、四一	二二一八、三〇
未成線	二三八九、三七	三二八六、一八	二二八六、七二	一三六八、三六	一〇七二、一九
合計	五八七〇、四七	六二三五、一四	四六九二、〇三	三六五八、七七	三二九〇、四九

明治三十二年三月末の調査に依り既成未成の線路哩數を官設會社別に爲し併せて各線の起點と終點とを列記すれば次表の如し

名稱	官設鐵道	既成線		未成線	
		區間	哩數	區間	哩數
日 本 鐵 道	新橋神戶間、神奈川程ヶ谷間、大船橋須賀間、大府武蔵野間、馬場大津間、米原金ヶ崎間、深谷長崎間、高崎直江津間、青森盛岡間、秋田盛岡山間、空知太田川間、旭川留間、基區北間、釧路新竹間	八二八七七		福島盛岡間、八王子名古原間、篠の井野尻間、姫路境間、八代鹿兒島間、新錢座水間、樂町間、留間、旭川厚岸間、厚岸網走間、厚岸根室間	一三〇四〇
伊 豫 鐵 道	秋葉原青森間、品川赤羽間、田端友部間、大宮前橋間、小山前橋間、小山水戸間、宇都宮日光間、岩切梨園間、水戸岩沼間、尻内淺間、水戸那珂川間、田端隅田川間	八五七〇七			
山 陽 鐵 道	高濱平井原間、立花森松間	一三〇〇		平井河原橫河原間	三〇〇
甲 武 鐵 道	神戶三田尻間、廣島宇品間、兵庫和田岬間	二八〇五		三田尻赤岡間	四五〇八
大 阪 鐵 道	飯田町八王子間	二六七七			
讚 岐 鐵 道	淡町奈良間、王寺橋井間、天王寺藤田間、玉造砲兵工廠支線	四五五			
九 州 鐵 道	高松琴平間	二七一九			
關 西 鐵 道	門司八代間、小倉行橋間、島橋長崎間、早岐佐世保間、若松大屋間、直方金田間、金田伊田間、小竹幸袋間、伊萬里有田間、大隈下山田間	三三〇三		宇土三角間、飯塚長尾間	二二〇七
	名古屋網島間、新橋草津間、龜山津間、加茂大佛間、新木津木津間、放出片町間	一四七三六		大住八幡間、河原津田間、大佛奈良間、網島根室間	一八五三

名稱	私設鐵道	既成線		未成線	
		區間	哩數	區間	哩數
參 宮 鐵 道	山田津間	二六二二			
北 海 道 炭 礦 鐵 道	手宮磯内間、磯内太郎春別間、岩見澤賦志内間、岩見澤幸南間、追分夕張間、砂川空知太間、手宮橋樑間	二〇七〇六			
佐 野 鐵 道	葛生越名間	九五六			
總 武 鐵 道	本所錦子間	七二七七			
播 磨 鐵 道	飾磨生野間	三〇六二		生野津居山間	四〇三三
青 島 鐵 道	立川日向和田間	一三〇〇			
川 越 鐵 道	園分寺川橋間	一八三六			
豐 州 鐵 道	行橋後藤寺間、行橋宇佐間、後藤寺宮床間、香春夏吉間、宮床香園間、後藤寺起行間	五〇一〇		大藏炭坑小松炭坑間、後藤寺川崎間、伊田添田間、田の浦會樓間	二〇七二
南 奈 良 鐵 道	高田五條間、五條川端間	一六四六〇			
京 都 鐵 道	京都奈良間、京終櫻井間	三七一〇		京終奈良間	一〇七
道 房 鐵 道	千葉大網間、大網一の宮間	二六七五		大網成東間、一の宮勝浦間、蘇我木更津間	四五〇四
南 道 鐵 道	松山古町間	三〇六			
京 都 鐵 道	藤原郡中間	六七三			
京 都 鐵 道	京都嵯峨間	六二七		嵯峨舞鶴間、舞鶴餘部間、舞鶴宮津間、味方和田山間	九七五九
京 都 鐵 道	佐倉佐所間	二四五五		佐原小見川間、川越成田間	六四七八
京 都 鐵 道	尻ヶ崎長洲間、神崎篠山間	三九一一		篠山福知山間	二九四七
京 都 鐵 道	高岡城端間	一八四七		高岡伏木間	四二〇

總計	合計	株式會社														
		伊津輕	津島	金邊	宇和	東肥	東武	石卷	毛武	都賀	常野	丹後	上武	備後	唐三電	京北
		伊津輕	津島	金邊	宇和	東肥	東武	石卷	毛武	都賀	常野	丹後	上武	備後	唐三電	京北
		三三・三〇	二二・〇〇	一三・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇
		三三・三〇	二二・〇〇	一三・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇

總計	合計	株式會社																
		北越	上野	豐川	南海	太田	高野	河陽	尾西	紀和	七尾	豆相	近江	岩越	唐津興業	中國	德島	南
		北越	上野	豐川	南海	太田	高野	河陽	尾西	紀和	七尾	豆相	近江	岩越	唐津興業	中國	德島	南
		八二・二一	二二・〇〇	一三・三六	三三・七六	九七・七	一〇・四〇	六〇・六	一〇・〇六	三三・五二	一三・三六	三三・四二	七・三〇	一・七三	一・六七八	七・一〇	三三・七六	二・六〇
		八二・二一	二二・〇〇	一三・三六	三三・七六	九七・七	一〇・四〇	六〇・六	一〇・〇六	三三・五二	一三・三六	三三・四二	七・三〇	一・七三	一・六七八	七・一〇	三三・七六	二・六〇

次に馬車鐵道及電氣鐵道に就きて一言せんに其の線路哩數は合はせて三十二里にして百八萬圓の收入に依り四十二萬餘圓を利得すと云ふ

水路。我が國は島嶼國なるが故に海運の便あるは自然の結果なりと雖、陸地内の河流若しくは沼湖を以て通運に利用すること甚々盛ならず、殊に運河の如きは極めて稀なりとす。河流も往々小汽船を通ずるに足るものなさに非れども、唯、其の下流を來往するに止まり、中流以上に達すること至りて少なし。又沼湖にして漕運の便利を供するものは琵琶湖、霞ヶ浦、北浦、猪苗代湖、宍道湖、中海等の數者なりとす。運河に至りては大阪、東京、其の他都會の地に於けるもの及、利根の掘割等あるに過ぎず。故に我が國の水路は海路の外、未だ著しき發達を見ず。且又海路に於けるも航路の區域より觀察すれば、轉々感慨に堪へざるものあり。航路として見るときは洋海の存するものみにて之を航するの船舶なくんば何かあらん。而して其の航路に於けるも沿岸航路と遠洋航路との二種あるを忘るべからず。されば我が國の航海業を見るに沿岸航路は稍、開け國內樞要の諸港を連絡して船舶は定期

に往來するあるも、遠洋航海に至りては其の發達未だ充分ならず。近時に於て少しく進歩を爲したるは事實なるも、日章旗の保護の下に船舶の航行するはウラヤチナストック線、天津線、上海線、揚子江線、香港線、ボンベイ線、ヨロツパ線、ホーストラリア線、アメリカ線等あるに過ぎず。抑、我が國は東洋唯一の開明國にして四圍に海洋を繞らす所の島嶼より成るものなれば、少なくも太平洋并に印度洋に於ける海上王たるべきものなるに拘らず、イギリス國が現に一万五千二百隻、九百萬噸の商船を以て世界の洋海を縱横に航行するの時に當りて我が船舶は三千餘隻、六十五萬噸を以て近海に離脱するに止まりて遠洋に雄飛する能はざるは誠に嘆息に堪へざる所なり

左に掲ぐる表は明治三十一年末の調査に係る我が國商船の統計の一斑なるが西洋形商船とは西洋諸國に行はるるものと同様の構造にて、大なるものは堅岩にして能く遠洋を航するに足るものなり。而して日本形商船とは從來の船舶を云ふものにて其の價廉なるも構造脆弱にして僅に沿岸の航路を往來するを得るのみ

西洋形商船は近來漸次に其の數を増加す、然れども此の増加は主として汽船にありて帆船は反りて減却するもの如し

船種	西		洋		形		商		總計
	隻數	噸數	隻數	噸數	帆船	汽船	風帆船		
百噸未滿	六三三	一九八六六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	八、六九三〇
百噸以上	三三三	一〇、〇七九	六七八	一〇、一〇〇	一〇、一〇〇	一〇、一〇〇	一〇、一〇〇	一〇、一〇〇	一〇、一〇〇
千噸以上	一四四	三五、〇九五	二	二	二	二	二	二	三五、〇九五
合計	一一〇〇	四七、〇五〇	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	一、九八六	四七、〇五〇

而して此の總噸數六十五萬を地方別に爲し其の重要なるものを擧ぐれば汽船に東京、大阪、兵庫、長崎等ありて帆船に大阪、山口、福岡、兵庫等あり
 汽船 ● 東京(二四、二四八五) ● 大阪(八、九八〇〇) ● 兵庫(五、三三九六) ● 長崎(一、六〇〇三)
 帆船 ● 大阪(一、三六九五) ● 山口(一、七一五六) ● 福岡(一、二八七四) ● 兵庫(二、二〇〇五)
 又日本形商船に就きては二萬九千一百隻、三百三十二萬石ありて大體に於ては漸次増加するも五百石以上の船舶は反りて減少せり

海員

船數 一、九〇九七 兵庫(一、八一六) 廣島(一、七四七) 山口(一、五八一)
 石數 三三三、〇二八 廣島(三四、八二六八) 山口(三一、四〇九六) 兵庫(二四、一三〇〇九)
 我が國に於て需要する船舶の多くは外國により購入せらるるが本邦の西洋形船舶の製造も近來漸く發達せんとするの趨勢にあり、明治三十一年度に於ける製造代價は凡そ三百萬圓、噸數は二萬四千餘にして本業の最も盛なるは長崎、大阪、兵庫、東京等なりとす
 海員技術免許狀を有するものの總數は一萬三千四百二十五人にして其の内、外國人は二百七十六人なり而して現に船舶の運轉に従事するものは凡そ一萬七千三百人なり

種別	甲種		乙種		丙種		機關士
	船長	運轉士	船長	運轉士	船長	運轉士	
計	四八〇	三四一	三〇五	一九二四	一八	八二四	一八五四
	八二二	八二二	二二二九	二二二九	八二〇三	八二〇三	二二七三

因に記す、我が國の二大商船會社は、日本郵船會社及び大阪商船會社なるが其の實力の一斑を指示すれば左表の如し

社名	拂込資本金	船數	噸數	馬力
日本郵船會社	二〇〇,〇〇〇	一〇〇	一八,四四九	一四,三三六
大阪商船會社	五五〇,〇〇〇	六五	二六,一六〇	四六,〇三三

而して兩社の収入を摘記すれば

社名	運賃		貨物		合計
	客	荷	客	荷	
日本郵船會社	二九,八二六	一八七,八八〇	三三,〇八二	九二,八三六	一〇五,〇九二
大阪商船會社	九三,三三五	九二〇,二四九	一〇三,七二六	三三,八九〇	三三三,一四〇

内國航路及び外國航路に就きて主要なるものの哩程を記すれば左の如し

起點	終點	哩程
横須賀	浦賀	二二
浦賀	下田	七四
下田	清水	一一三

内國		航	
横濱	神戶	東京	函館
釜石 二九一	尾道 二〇八	横濱 一九	青森 五九
四日市 二〇〇	徳島 五二	波浮 七〇	大湊 六七
神戶 三〇七	高知 一〇三	檜立 一六五	室蘭 七九
萩の濱 二八六	八幡濱 二二六	鹿兒島 一六三	根室 二九五
長濱 一六五	岡山 六五	赤間關 二四〇	二見港 五三二
三津 一四七	佐賀關 二〇三	大川 九二	長崎 二四三
今治 二二〇	大分 二二二	百貫 七三	佐世保 二二二
多度津 八二	別府 二二四	島原 六六	伏木 四六三
宇和嶋 三三三	宇和嶋 三三三	福江 五五	敦賀 三三七
半田 一九一	釜石 三三三	赤間關 五八七	酒田 五八七

路 航 國 外		路			
長 崎	横 濱	打 狗	基 隆	鹿 兒 島	佐 賀 關
釜 山	香港	安 平	淡 水	名 瀨	佐 伯
仁 川	スエズ	大 安 港	八 重 山	那 霸	細 嶋
芝 罘	サンフランシスコ	澎 湖 嶋	蘇 門 答 臘	石 垣	油 津
天 津	メルボルン	澎 湖 嶋	蘇 門 答 臘	基 隆	鹿 兒 島
元 山 津	メルボルン	花 蓮 港	蘇 門 答 臘		
	シンガポール				
	セイラン				
	ハワイ				
	ウラグチナストック				

航路標識に就きては夜標と晝標との別ありて甲種に燈臺官私股九八燈竿五燈船〇あり乙種に浮標一九立標一一あり而して標識中最も重要なものは燈臺にして光達の距離に據りて一等二等三等の三種に區別せられ又燈

火に白色あり赤色あり發光に不動あり明滅あり
 郵便は新事業中最も我が國人に歡待せられたるものなり故に創業以來長足の進歩をなし日に月に盛大に赴くは誠欣賀せざるを得ず他日鐵路の發達充分なるに於ては速度に一層の増進を觀るに至るべし今茲に郵便事業の發達の概況を摘記せん線路に就きて實里數は普通道路一萬一千六百三十五里にして鐵路三千四百三十八哩なるも延里數は普通道路一千二百七十七萬里にして鐵路六百五十四萬餘哩に達せり而して郵便局の數は四千三百餘に及べり又郵便物の總數は各種合はせて六億一千二百七十六萬なり即ち一人平均は三三、一〇なり次に郵便物件の總數の一千萬以上に達する府縣を擧ぐれば左の如し

東京(二四四) 大阪(四七) 兵庫(二六) 京都(二二) 神奈川(一九) 福岡(一九) 北海道(一八)

電信事業は郵便事業の如き盛況を呈せざるも亦月に歲に發達し明治三十二年三月末の調査に依れば其の架設線路の中陸地に於けるものは五千二百九十六里にして之を延長すれば二萬五百六十二里に及ぶべし

而して海底若しくは河底にあるものは一千七百六十三哩にして心線延長は一千九百八十八哩餘に達すべし又電報を扱ふ局の数は一千二百五十六ヶ所にして電報通数は内外を合はせて一千五百五十萬餘通なり

主要海底線 大隅薩摩間(一〇四四) 渡島陸奥間(一六三三) 臺灣福州間(一一五)

電話は其の創設以來未だ十年ならざるも東京大阪横濱京都堺神戸長崎福岡赤間關等の都會并に其の附近の地に行はれ線路の長は凡そ六百四十里にして線條の長は一萬二千八百里に達せり

郵便電信及び電話に關する總収入は一千一百餘萬圓にして總支出は八百十三萬圓なり

●處誌

山岳河流地勢氣候等に基づき人生の情態に據り我が帝國を分ちて中域北域南域と爲す中域は本州四國九州の三大嶋及び之に附屬する島嶼より成り北域は十州嶋及び千嶋列嶋より成り南域は沖繩群嶋先嶋列嶋臺灣嶋

中域北域南域

電話

及澎湖群嶋より成れり

中域

中域は帝國の主部に於て俗に内地と稱せらるる本州四國九州の三大嶋と佐渡隱岐淡路壹岐對馬の五中嶋とに屬嶋及び小笠原群嶋を加ふれば總地積は一萬八千五百五十三方里餘にして全國の三分の二強に當れり而して人口は四千二百六十餘萬人にして總人口の百分の九十一に達せりされば本域に就きて記述せんには本州四國九州の三區に分つこととせり

中域

第一 本州區

本州區は本州嶋人口凡そ一萬四千五百七十一方里佐渡嶋人口二、四、四、九、八隱岐人口三、五、四、一、六淡路人口一、九、三、三、三小笠原嶋人口二、五、二、〇〇等より成りて一萬四千六百九十方里餘の地積と三千三百三十八萬の人口とを以て帝國の最要部を爲すが故に更に之を中部北部西部の三部に分ちたり

本州區

帝國大地誌

其一 中部

本州中部

海陸の關係、山脈の趨勢、河湖の流域等に據り、又は古來の慣習に従ひて本州中部(五千九百二十方里)を更に分ちて關東、東海、北國の三地方と爲せり。

關東地方

關東地方

關東地方(二千八十四方里)は北に中央山脈を控へ、西は富士帶山脈に據り、東と南とは太平洋に面せり。低地は本邦最廣の平野なりとの評ある地より成りて、河流沼湖に富み、灌溉通舟の利あるのみならず、地味は概々佳良にして、各種の天産に豊なる所謂沃野千里の地なり。中古以來、世人が重きを此の地方に置くは實に故なきに非ず、而して行政上、當地方は一府東京、六縣神奈川、千葉、茨城、群馬、栃木、群馬を包括せり。

東京府

東京市

武蔵

東京市は我が帝國の首府にして、全國第一の都會なれば、其の規模甚だ宏大なり。南北は三里十町、東西は二里十町ありて、關東平野の南部に位し、東京灣に瀕し、隅田川に跨れり。人口は百四十三萬餘ありて、實に世界の大都市の中に於て第六位を占む。地勢概々平坦なれども、北西には白金、目白、本郷等一帶の臺地あり、市内を十五區に分ち、其の十三區は麹町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草にして、隅田川の右岸にあり、而して本所、深川の兩區は其の左岸にあり、市坊は其の數一千三百三十にして、大道小路は縱横に通せり。陸路は東海道、甲州街道、中仙道、奥羽街道、水戸街道等の諸道に連なり、海路は總房、相等の諸州に達せり。加ふるに新橋、上野、飯田町、本所の四所に停車場を設けて、汽車の發着に備へ、運河、掘割を開きて、貨船の往復を便にす。又隅田川には吾妻橋、厩屋橋、兩國橋、新大橋、永代橋の五大橋を架するあり、其の他に馬車鐵道あり、河上汽船あり、電信あり、電話あり、又玉川、神田、千川の上水を疏通して、飲料に供するあり、市の中央を皇居となす、繞らすに濠渠を以てし、城郭甚だ壯嚴なり、而して諸省を始とし、兵營、學校、博物館

等の如き官衙公署は宮城の周りに散在し、公侯の邸第は其の構造宏大にして見るに足るもの多く、市街は商店買肆櫛比して數十里に亘り、車聲驛々として行客織るが好し、就中銀座通、日本橋通、小川町通等は最も盛昌にして常に熱鬧を極めり、市内には大社巨刹を見ざるも、靖國神社、日技神社、神田神社、深川神社、増上寺、淺草寺、泉岳寺等は有名なり、又上野、淺草、芝、深川等に公園を設けて市民の娛樂に供せり、抑本市の斯くの如く繁盛なるは、遠く太田道灌の築城に基き、徳川氏の幕府を江戸に開きしより以來、三百の大小名を始とし、旗本八萬騎は此の地に集合せしが、三百年の星霜を泰平の間に經過して、維新革政の後には皇居、中央政府の所在地として政事を中心と成り、又其の他、學術、教育等、種々の業務の中心と成れり、従て多數の士民群集して諸國の貨物の輻輳を促がし、遂に消耗の一大中心と成るに至れり、然れども近來は單に消耗を事とするに止まらず、製造工藝等も亦漸次隆盛に趣きて、燐寸「セメント」、綿絲、綿布、西洋紙、其の他、足袋、衣服、唐紙、錦繪、團扇、海苔、菓子等の如き内外に輸送する雜貨を産出せり、特に書籍の出版、學術機械の製作に至りて

は海内無比なりとす

此の地の人にして世に知られたるものを擧ぐれば、儒者に新井白石、荻生徂徠あり、文學家に村田春海、加藤千隆あり、經世家に林子平あり、探檢家に近藤守重あり、醫士に宇田川玄中あり、醫學者に岡田自由亭あり、戯作者に瀧澤馬琴あり、畫家に谷文晁、葛飾北齋あり、漆工に古瀧休伯、梶川久次郎等あり

品川町
南千住町
千住町
王子村
八王子町

品川町(一、八〇〇〇)は錨地なり、玻璃器、煉瓦、毛布等の製造所を有す、南千住町(一、三〇〇〇)は繁華の地なり、陸軍製絨所あり、又小塚原刑場の跡あり、千住町(一、六〇〇〇)は交通上の要區にして繁華の地なり、王子村(一、〇〇〇〇)は瀧の川に瀕す、近來、其の流水を利用して沿岸に西洋紙、毛布等の壯大なる製造所、數所を建設せしが、日に月に盛大に趣くの傾向あり、本村は元々一小名勝の地として僅に名を知らるゝに過ぎざりしが、一度製造工藝の地と成りしより以來、人口順に増加し、昔日の寒村も變じて將に一都會たらんとす、王子町(二、三〇〇〇)は甲州街道に當る一小都會にして、一樂織、風通織等を産出するを以て名を知らる、織物業上一の中心とするに足るものあり、鐵道は東

京に通じ運輸の便ありて商業も亦盛なり

矢口村に新田新社あり、府中町は古の國府の地にして大國魂神社あり、商業も稍盛なり、近傍に新田義貞が鎌倉勢を破りし分倍河原の古戰場あり、青梅町は綿絹布を産す、古刹あり金剛寺と云ふ、五日市町は黒八丈織の産地として名あり

豆南諸嶋

豆南諸嶋は一に伊豆七嶋と稱す、十數箇の嶋嶼より成れるが其の主要なるものを大嶋、新嶋、三宅嶋、神津嶋、御藏嶋、利島、八丈嶋とす、大嶋は新嶋、釜木地、波浮港等の六ヶ村より成り、六千足らずの居民は耕織漁樵に従事せり、新嶋は所屬の式根嶋を合はせて凡そ三千五百の人口を有するが本村若郷の二村ありて漁樵を業とす、神津嶋には漁業に従事する二千足らずの住人あり、三宅嶋は古の鬼が嶋なり、人口は凡そ三千六百人にして農漁を業とす、八丈嶋は人口凡そ一萬を有せり、大賀郷、三根、末吉等の六ヶ村より成れり、居民は概ね質樸にして旨酒風俗共に内地に異なる所あり、男は漁樵農事を専らとし女は養蠶機織を力む、小嶋の宇津木村に爲朝の祠あり

小笠原群嶋

小笠原群嶋は父嶋、母嶋、兄嶋、弟嶋、姉嶋、妹嶋等二十有餘の嶋嶼より成りて四千五百餘の人口を有す、父嶋に凡そ二千五百の住人あり、其の大村は二見港の北四

に類す、島嶼の所在地にして警察署、病院、小學校、本神宮あり、人烟日々に増進して稍繁華の地を爲せり、其の島浦は文久年間、徳川幕府が島役所を設けし處なり、其の奥村は二見港の北東の海岸にあり、漂流死人冥福の碑井に島民の墓地あり、其の清瀬谷は嘉永年間、アメリカ合衆國水師提督ペリーが石炭貯藏場を設けし處なり、母嶋は凡そ千許の居民を有す、其の沖村は沖港に類す、島嶼の出渡所あり、其の北村に漁舟の定繫に便なる北港あり、椰子、椰子、椰子の近傍に往昔支那人が居住せし唐人屋敷の田趾あり、

神奈川縣

横濱市

武蔵 横濱市は我が國開港場中の第一に位せるものにして東西三十餘町南北一里五町あり、人口は凡そ十九萬にして帝國第六の大都會なり、神奈川縣廳地方裁判所税關等あり、此の地は今を去る四十年前は微々たる一寒村に過ぎざりしが、海外各國と交易を開くに方りて互市場と成りしより以來、丘を掘り海を埋めて遂に現時の都會を見るに至れり、港内は帆檣常に林立し、市街は整然として商賈は櫛を列ね、街衢は到る處、股賑にして車馬の往

帝國大地誌

來織るが如し、殊に居留地には魏々たる洋館相連りて一種の奇觀は人をして外國に居るが如き想を抱かしむ。又市中に鐵管を通じて多摩川の水を疏し以て住民の飲料に供せり、且近來は築港も落成を告げれば船舶の停繫貨物の出入等に對し更に一層の安全と便利とを供するに至れり。

戸太町(三〇〇〇〇)は横濱市の南西に接する市街にして陶器七寶燒等の製造に従事す、神奈川町(二九〇〇〇)も亦横濱市に接す、交通上の要區にして殷賑の地なり。

戸太町
神奈川町

金澤村は勝地として名あり、大師阿原村に平間寺あり、

相模 横須賀町(一八〇〇〇)は第一海軍區を管するの任に當れる鎮守府の設あるを以て軍事上極めて重要なる處とす、其の軍港は我が國の軍港中にて最も整備せるものにして艦艇の碇泊に適す、船渠あり製鋼所あり機械場ありて艦船の建造修繕に従事せり、其の他海兵團あり病院あり學校ありて軍港の防務軍兵の教養等を司れり、此の地の附近に於ける觀音崎、猿島、夏嶋に砲臺あり、共に東京灣の要塞たり、浦賀町(一三〇〇〇)は横須賀を距る數

横須賀町

浦賀町

小田原町

里の處にあり、港は狭小にして大に用ふべきものにあらず、れども海底深く安全なるの點に於ては遙に横須賀港に勝れる所あるが如し、此の地は今を去る四十年前米國の使節が始めて渡來せし處なるを以て我が國の開港史に關し著名なりとす、此の地は鹿尾藻、和布を産す、小田原町(一六〇〇〇)は一小都會を爲し盛に漁業に従事し又多量の梅干を産す、此の地は舊と大久保氏(十一萬石)の采邑たりしが城趾は町の北西にあり、箱根の險を控へ名城の聞へありしものにて北條早雲の築きし所なりと云ふ。

鎌倉町

鎌倉は七千有餘の人口を以て一町區を爲すと雖も亦商估の軒を並べて一小都會を爲すに非ずして數々所の村落を合稱せしに過ぎず、抑、本地は源頼朝の霸府を開きしより以來延きて北條足利の世に至るまで政權の中心たりし當時は隆盛なる大都會なりしは名蹟舊趾に依りて瞭然たり、昔時名將の邸趾は既に麥隴に變じ、頼朝屋敷、北條屋敷、公方屋敷の跡には草屋茅舍の寥々として散點するを見るのみ、嗚呼此の地を訪ふものにして親しく現時の荒廢を視、往昔の隆昌を追憶するあらば誰か世の變遷常なきを感じ

轉、斷腸の思なきものあらんや此の地は昔時の建立に係る神社佛閣多く、其の他古跡に富みて實に枚舉に遑あらず、就中鶴岡八幡宮の如き朱殿石階、總べて舊時の觀を改めず、古色藹々として自、敬畏の念を生ず、而して建長寺、圓覺寺、壽福寺、淨智寺、光明寺を以て鎌倉の五山とす、其の他長谷の觀音、淨泉寺の大佛、頼朝の墳墓、大塔宮の土窟等一見の價あるもの少なからず、且又此の地は海濱に沿ひ氣候快適風景も亦閑雅にして眞に俗塵を洗脱するに足るを以て四時に來遊するもの絶へることなし、而して刀劍鍛冶岡崎正宗は此の地の名工として世に知らる

豊島村に東京灣要警司令部あり、三崎町は一小港を有す、藤澤、大宮町に遊行寺あり、川口村に江の島の勝地なり、其の片瀬に竜口寺あり、大磯町は海水浴を以て名を知らる、國府村は古の國府の地なり、大山町に兩降神社あり、桑野町は煙草を製す、櫻井村の柏山には經世家二宮尊徳の生地あり、箱根地方は筆軸、煙管竹を産し、挽物細工を製するが勝地に富み温泉場多く世に函嶺七湯と稱す、石橋村に古戦場あり、根府川、江の浦、等の各村は石材を産す、厚木町は綿布を製す、三澤村に横濱水道の水源地あり

埼玉縣

浦和町

武藏

浦和町は中仙道の一驛に過ぎざりしが縣廳地方裁判所等を置きしより以來、土地漸繁盛に趣かんとす、然れども人口は未だ七千に達せず

熊谷町

熊谷町

熊谷町(一三〇〇〇)は交通の便ありて市街繁華なり、商業地とす、足袋を製す、川越町(一、九〇〇〇)は舊と松平氏十五萬石の領土たりし所にして、商業稍盛なり

川越町

川口町は鐵器を製造す、大宮(北足立)町は通交上の要區にして、氷川神社あり、所澤町は綿布を産す、飯能町は花色絹を製す、大宮(秩父)町には秩父神社あり、紡織の盛なる所とす、金原村は文學家堀保巳一の生地なり、本庄町は蠶紙の賣買を以て著る、忍町には奥平氏の城趾あり、盛に足袋を製す、岩槻町は舊と大岡氏の封土たりし所にして、蕨の産を以て名あり

千葉縣

帝國大地誌

千葉町

船橋町

佐原町

本銚子町

下總 千葉町(二、六〇〇〇)は縣下第一の都會にして縣廳あり、地方裁判所あり、第一高等學校醫學部あり繁華の土地なりとす

船橋町(二、二〇〇〇)は東京千葉間の要路に衝たれるを以て稍、繁昌なり、佐原町(一、三〇〇〇)は利根川沿岸の要津にして銚子街道の一驛たり、百貨輻輳し商業頗る隆盛なり又清酒醬油を醸造す測量家伊能忠敬は此の地の産なり、本銚子町(一、六〇〇〇)は銚子町、西銚子町と共に利根川の河口にありて人口は合はせて三萬餘に達せり、港は大船を容るる能はざるも縣下第一の要津にして市街は繁華なり、物産は醬油、乾魚、縮布を以て重、なるものとす

行徳町は製鹽を以て知らる、市川町の附近に里見義弘が北條氏と戦ひし國府の遺あり、野戰砲兵第十六及第十七の士聯隊の衛戍地なり、中山村に法華經寺あり、流山村は味噌を製造し、野田町は醬油を醸造す、關宿町は利根川に瀕す、清運の便あり、久世氏の城邑たりし處なり、志津村に野戰砲兵第十八聯隊の衛戍あり、佐倉町は堀田氏の舊城市にして歩兵第廿聯隊の衛戍あり、此の地の近傍に木炭の産あり、佐倉炭と云ふ、公津村に宗吾靈堂あり、成田町は新勝寺の不動尊を以て名を知らる、香取町に香取神宮あり、高神村に銚子海水浴場あり

上總 市原村は古の國府の地なり、勝浦町は漁鹽を以て名あり、大多喜町は大河内氏の舊城邑なり、木更津町は縣下の要津たり、周南村に鹿野山神野寺あり、富津町に砲臺あり、久留里町は黒田氏の舊城地なり、東金町は葛西酒井氏の城邑たりし處にして稍、繁華の地なり

安房 神戸村に安房神社あり、館山町は稻葉氏の城地たりし處なるが北條町と共に鏡浦に瀕す、交通の便あり繁華の地とす、海水浴場の設あり、館野村の稻村は里見氏の立脚地なり、勝山町は葛西酒井氏の封土たりし處なり、保田村は龜工藤川師宣の生處なり、國府村に古の國府の地あり、白濱、七浦、磯等は秋光魚の産を以て名あり、天津町も亦漁業の中心なり、其の北方に清澄寺の勝地あり、淡村に誕生寺あり、日蓮上人の生地とす

茨城縣

水戸市

常陸 水戸市(三、二〇〇〇)は舊と徳川氏(三十五萬石)の城市たりしが今は

帝國大地誌

縣廳地方裁判所の所在地と成れり、其の他、學校、銀行ありて實に地方の要區たり、又借樂園、弘道館等の如き其の名義公、烈公、幽谷、東湖の名と共に高し、探検家、間宮、林蔵は此の地の産なりと云ふ

磯濱町(一、二〇〇〇)は漁業地たり、近傍に大洗の海水浴場あり、湊町(一、二〇〇〇)は地方の要津にして市街も亦繁盛なり、土浦町(一、二〇〇〇)は土屋氏の舊城地にして醤油を醸造す、石岡町(一、二〇〇〇)は古の國府の地なり、交通の衝に當るを以て商業盛なり、醤油酒類の産あり

笠間町は舊、牧野氏の城邑たりし處なり、平磯町は漁業地にあり、琴田村の瑞竜は水戸鐵川の副地なり、其の新宿に西山館あり、太田町は商業地にして烟草、蒟蒻等の賣買に従事す、松岡村は地理學者長久保赤水の生地なり、關本村に勿來關の遺址あり、大津町は平瀧町と共に漁業に従事す、廣嶋町に官幣大社あり、武烈、龍神を祀る、潮來町は廣ヶ浦の下流に瀕す、通舟の便あり、竜ヶ崎町は裕、繁華の地なり、筑波町は山麓にあるし、繁昌の地なり、小田村に城址あり、小田氏の據りし處なり、下妻町は井上氏の封土たりし處なり、大貫村の關の館に城址あり、北島親房の死守せし處なり、下館町は西木綿を

磯濱町

土浦町

石岡町

結城町

産す

下總 結城町(一、二〇〇〇)は舊と水野氏の治所なりしが城址今尙存す、
細の産あり

山川村に綾月の城址あり、岩井村に將門館の址あり、古河町は一小都會を爲す、舊と土井氏に屬せしが歴史上有名なりとす、守谷町、下相馬、信都の址あり

栃木縣

下野 宇都宮市(三、二〇〇〇)は舊と戸田氏の城市なりしが現今は縣廳地方裁判所等の所在地なるのみならず、奥羽街道、日光街道等の要路に當るを以て甚だ繁榮せり、二荒神社は公園地にあり、城址は市の南部にあり、名士浦生君平、齋家啓書記の生地なり

鹿沼町(一、二〇〇〇)は大麻、木材等の賣買に従事し、般販の地なり、足尾町(一、九〇〇〇)は本邦第一の銅山を有するを以て名を知らる、栃木町(一、二〇〇〇)は生絲、薪炭、木材、石材等を集散せり、田沼町(一、二〇〇〇)に唐澤神社あり、縣下

帝國大地誌

宇都宮市

鹿沼町

栃木町

田沼町

足利町

の勝地とす、足利町(二、一〇〇〇)は舊と戸田氏の城市たりしが古來有名の土地にして大に絹布を製す

二九六

薬師寺村に薬師寺の遺址あり、今市村は日光街道の要驛にして精繁華の地なり、日光町は社寺の壯觀なるも風景の絶妙なるを以て其の名、海の内外に轟けり、眞岡町に綿布の産あり、益子町は砂器を製す、物部村の専修寺は眞宗高田派の本山たり、壬生町に鳥居氏の城址あり、國府村は古の國府の地なり、小山町は交通上の要衝に當れり、小野寺村は慈覺大師の生地なり、鹽原村に温泉あり、喜連川は高家喜連川氏の領邑たりし處なり、太田原町は陸羽舊街道の一驛にして那須野に接す、精繁華の地なりとす、湯津上村に國造の碑と稱するものあり、須賀川村に靈巖寺あり、那須村に温泉あり、佐野町は生絲織物を産す、北郷村に行道山の勝地あり

群馬縣

前橋市

上野 前橋市(三、四〇〇〇)は廣瀬川に跨り利根川に枕む、舊と松平氏の采地なりしが今は縣廳、地方裁判所等のあるありて商業も亦繁昌なれば頗る

高崎町
桐生町

般販の土地なりとす、

高崎町(二、六〇〇〇)は舊と大河内氏の城地なりしが交通上の要路に當る一都會なるを以て歩兵第十五聯隊の衛戍を設く生絲の集散地なり、桐生町

二、四〇〇〇)は大に絹布を製作す、織物業の一中心たり、

宮城村に赤城神社あり、室田村に榛名湖の勝地あり、國府村は古の國府の地なり、澁川町は精繁華の地なり、伊香保町に温泉あり、新町に製絲所あり、吉井村に多胡の碑あり、富岡町絹に絲紡績所あり、一の宮町に眞前神社あり、妙鏡町は勝地を有するを以て名を知らる、安中町は板倉氏の采邑たりし處にして生絲を産す、磯部村に温泉あり、草津村に温泉あり、日本三瀧の一とす、沼田町は土岐氏の舊城下たり、太田町に新田寺、新田神社、高山神社あり、澤野村は名士高山彦九郎の生地なり、世良田村に長樂寺あり、大間々町は製絲に従事す、館林町は舊と秋元氏の城邑たりしが織物を製す、伊勢崎町は太織を製す

東海地方

帝國大地誌

二九七

東海地方三千四十八方里は長野山梨静岡愛知三重岐阜の六縣に亘れるが富士帶山脈の西にありて信濃川及び神通川の流域に屬する地を除く外太平洋に面せり然れども土地の高低に準據すれば高原地と沿海地とに區分するを得べし即ち甲地に屬する甲斐信濃飛騨にありては氣候稍寒冷にして平地に乏しく乙地に屬する三重岐阜山地を除く愛知静岡の各縣に於ては概々温和なるが特に駿河灣に瀕する地は氣候温暖なり

長野縣

長野市

信濃

長野市三、一〇〇〇は元來善光寺の存するを以て名を知られたる土地なるが今は縣廳地方裁判所等の所在地として漸次盛大に趣き頗る有望の都會なりとす

上田町

上田町二、四〇〇〇は舊々藤井氏の城市たりし處にして紬を製し盛に生

飯田町

飯田町一、四〇〇〇は堀氏の舊城市たりしが元

松本町

松本町三、一〇〇〇は古の國府の地

上諏訪町

にして戸田氏の舊城邑なるが縣下第二の都會にして繁華の地なり上諏訪町二、〇〇〇〇は諏訪氏の舊城地にして盛に生絲を製す此の地は下諏訪町と共に温泉の湧出に富めり

東長倉村の輕井澤は避暑地として名あり小諸町は牧野氏の舊城邑なり伊那町は交通上の要區たり高遠町は舊々内藤氏の封土たりし處なり騷島町は木曾街道の要驛たり日義村に宮の越の城址あり本郷村に淺間温泉あり生坂村は煙草を産す大町は山間に於ける名邑たり更級村に親月の勝區たる旗槍山あり松代町は眞田氏の舊城邑にして佐久間象山の生地たり鯉鮒を産す須坂町は堀氏の舊領地なり中野町は往昔高梨氏の據りし處なり戸隠村に戸隠山の勝地あり飯山町は本多氏の舊城下なり

山梨縣

甲府市

甲斐

甲府市三、八〇〇〇は國中の平地にあり縣廳地方裁判所等の所在地にして縣下唯一の都會なり繭生絲を始とし其の他各種の貨物の集散地なり城址ありと舊徳川時代には城代を置きて直轄せしめたる所なり

帝國大地誌

三〇〇
松里村に嘉林寺あり、勝沼町は葡萄を産す、相川村に大泉寺あり、武田氏の廟所とす、其の隣臨崎に古城あり、武田氏の居館たりし處なり、市川大門村は糊入紙を産す、藤澤町は通舟の便を有す、商業地なり、身延村に久遠寺あり、現崎村に雨畑石の産あり、宮本村に御嶽の勝地あり、金襴神社あり、又水晶を産するを以て名あり、塩崎町に新府の城址あり、神山村に武田館の址あり、谷村町は俗に郡内と稱する機業地の中心なり、藤岡村に岩殿山あり、小山田信茂の居館のありし處なり、大原村に旗本あり、上野原村は名邑たり

静岡縣

静岡市(四、二〇〇〇)は安倍川に瀕す、古の國府の地にして縣廳、地方裁判所、歩兵第三十四聯隊の衛戍等あり、製茶に従事し、漆器、竹器等を産す、實に東海道屈指の都會なり、往昔、徳川家康の居住せし處にして城址今尙存せり、淺間神社は賤機山にあり、其の殿宇の結構甚だ賞すべし、佛閣には寶臺院あり、由緒ある寺院とす、市の北西に著名の臨濟寺あり、今川家の廟地とす

静岡市

山田長政は此の地の産なり

沼津町
大宮町
島田町

沼津町(二、二〇〇〇)は狩野川に瀕す、交通上の要區たるのみならず、氣候温和にして風景に富む、近傍の我入道、牛臥に海水浴場あり、大宮町(二、一〇〇〇)は木材の産地にあり、富士製紙會社の第二工場を有す、淺間神社あり、富士登山の表口となす、島田町(二、一〇〇〇)は大井川に瀕す、稍、繁華の地なり

御厨町は甲州路に當る、稍、繁華の地なり、六合村に富士紡績會社の工場あり、田子浦村に有名の勝區あり、傳法村に富士製紙會社の第一工場あり、富士川村の岩瀬は交通上の要區たり、眞津町は清見瀨に類し、風景に富み、海水浴場あり、清水町は開港を有す、稍、繁華の地なり、久能村に東照宮あり、長田村に手越の古戰場あり、焼津村は漁業に従事す、稍、繁華の地なり、海水浴場を有す、日本武尊が東夷の爲に焼かれんとし給ひし處なり、藤枝町は稍、繁華の地なり、近傍に田中城の址あり

三島町

伊豆 三嶋町(二、〇〇〇〇)は古の國府の地にして豆州第一の都會なるが稍、繁華の地なり、三嶋神社あり

下田町は一小良港を有す、我が國の開港史上に名を知らる、南崎村に石廊の勝地あり

り、**新善寺村**に有名の温泉場あり、**龍野**及**頼家**の墓あり、**菰山村**は江川太郎左衛門の名
と共に世人の知る所なり、**狩野村**は畫家正信の生地なり、**伊東村**は名邑たり、温泉を有
す、**熱海町**は噴出温泉を以て有名なり

遠江

濱松町(二〇〇〇〇)は舊と井上氏の采邑たりし處にして繁華の地
なり、諏訪神社あり、五社神社あり、國學者加茂真淵の生地なり

相良町は舊と田沼氏の封土たりし處にして石油會社を有す、**川崎町**は精製糖の地な
り、**金谷町**は製茶地にあり、**掛川町**は舊と太田氏の治所たりし處にして精製糖の地な
り、**葛布**を製す、**大須賀村**に西尾氏の舊城址あり、一の宮村に小國神社あり、**久野**、**阿村**の
久能に可睡齋三尺坊あり、**大屋村**に秋葉神社あり、**氣多村**に王子製紙會社の工場あり
見付町は古の國府の地なり、**掛塚町**は木材の集散地として名あり、**光明村**に光明寺あ
り、**三方原村**に古戰場あり、**氣賀町**は引佐細江の附近にあり、青蓮製作の中心たり、**井伊**
谷村に神社あり、宗真親王を祭る

愛知縣

名古屋市

尾張

名古屋市は豊饒なる濃尾平野の中にありて帝國第四の大都會た
り、人口は二十四萬に達し町數は二百八十餘あり、街衢整然として商賈は擔
を列べ車馬の往來織るが如く、極めて殷賑なるが殊に廣小路を以て最、盛
なりとす、織物、扇子、團扇、提燈、漆器、七寶燒、其の他雜貨を産し商業、工業共に盛
況を呈せり、愛知縣廳の所在地たるのみならず地方裁判所、控訴院あり又第
三師團司令部あり、抑、本市は徳川氏(六十二萬石)の封土たりし處にて城郭
の壯麗なる天下無比と稱す、殊に天主閣上の一雙の金鯨は實に稀有の貴品
たり、其の他、巨刹として東西南本願寺、別院あり、神社には東照宮、櫻天滿宮
ありて本市の外觀を裝ひ各種の學校、會社、銀行等ありて本市の實力を表示
するもの、如し、而して鐵路には東海道線、關西線等ありて交通の便多し

熱田町(二五〇〇〇)は一小都會なるが熱田神社あり魚市場あり伊勢路を
往復する船舶の發着するあり頗る繁華の土地なりとす、**一宮町**(一四〇〇〇)
は古着市を以て名あり、**眞清田神社**あり、**津島町**(一三〇〇〇)は交通上の要處
にして商業旺盛なり、**津嶋神社**あり

帝國大地誌

熱田町
一宮町
津島町

織豊村は豊臣秀吉、加藤清正の生地なり、鳴海町は名邑たり、小牧山は長湫の役に徳川家康の陣地たりし處なり、瀬戸町は陶磁器製造の一大中心なり、四掛村は青物市を以て名を知られ、清洲町に城址あり、織田信長築城の地なり、犬山町は舊と成瀬氏の所領たりし處にて陶器を産す、國府宮村に國府の趾あり、半田町は酢、酒等の醸造を以て知られ、龜崎町は衣浦に額す、商業地なり、常滑町は陶器を製す、有松町は木綿絞を産す又其の近傍に桶狭間の古戰場あり、野間村には義朝の舊蹟あり、武豊町は開港地たり、成岩町は衣浦に額す、稍繁華の地なり

岡崎町

豊橋町

三河 岡崎町(二、七〇〇〇)は徳川家康の生地にして本多氏の所領たりし所なり、水陸漕運の便利ありて草綿の賣買頗る旺盛なりとす、豊橋町(二、二〇〇〇)は古、吉田と稱して大河内氏の舊城地たりしが今は歩兵第十八聯隊の營所となれり、豊川に瀕し縣下樞要の地にして商業も亦繁盛なり

刈谷町は舊と土井氏の城邑なりし處にて紡績所、煉瓦製造所あり、津王松本堂の生地なり、西尾町は大給氏の舊城地にして稍繁華なりとす、松平村は徳川氏立脚の地なり、足助村は足助重範の生地なり、豊川村は陀和尼天の廟あるを以て名を知らる、

長篠村に城址あり、武田勝頼敗軍の地なり、國分町は古の國府の地なり、田原村は舊と三宅氏の采邑たりし處にして渡邊華山の生地なり

三重縣

津市

伊勢 津市(三、三〇〇〇)は一名を安濃津と云ふ舊と藤堂氏(三十二萬石)の城市なりしが現時は縣廳、地方裁判所等ありて、商業、工業共に盛なり、絹木綿、絹子、阿漕焼を産す

桑名町

四日市市

松坂町

宇治山田町

桑名町(二、〇〇〇)は揖斐川の口にあり舊と松平氏(十一萬石)の治所にし、て伊勢海の要津たり、米穀の賣買甚盛なり、四日市市(二、五〇〇〇)は伊勢海に臨み、米穀、其の他の貨物の集散地にして實に縣下第一の商區なり、工業として紡績、製油、製紙、精米等に從事し又萬古焼を産す、松坂町(一、三〇〇〇)は商業繁昌にして木綿織の産地なり、國學者本居宣長は此の地に生る、宇治山田町(二、八〇〇〇)の宇治に皇太神宮ありて、山田に豊受太神宮あり、此の地は諸國より來たる參拜者多く頗る殷賑なり、壺屋紙の産あり

帝國大地誌

龜山町は石川氏の舊城地なり、近傍に能登野神社あり、關町に有名の地蔵堂あり、國府村に古の國府の遺址あり、白子町は形紙、及物を製す、神戶町は木多氏の城下たりし處なり、一身田村に専修寺あり、眞宗高田派の總本山たり、淡村は陶工伊藤五郎大夫の生地なり、土木家河村瑞軒、甘藷先生青木昆陽は此の國に生る

志摩 鳥羽町は一の良港を有す、舊頼垣氏の所領たりし處なり、國府村は古の國府の地なり

紀伊 木の本町は織地なり、飛鳥村の神山に尊雅王の遺跡あり、尾鷲町は同名の灣に瀕す、稍、紫昌の地なり、熊野川の沿岸地に勝溪の勝地あり

伊賀 上野町(一、五〇〇〇)は舊と藤堂氏の支城のありし處なるが稍、繁華の地なり

丸柱村は伊賀焼を産す、府中村は古の國府の地なり、名張町は名邑たり、俳諧に有名なる松尾芭蕉は此の國に生る

岐阜縣

岐阜市

美濃 岐阜市(三、〇〇〇〇)には縣廳、地方裁判所あり、商業は繁盛にして縮緬、提燈、團扇、等を産す、稻葉山に城趾あり、往昔織田信長が齋藤龍興を圍みし處なり、長良川の轉角は世人の以て奇觀となす所なり

大垣町

大垣町(二、〇〇〇〇)は舊と戸田氏(十萬石)の城下たりし處にて繁華の地なりしが、水害、震災の餘を受けて稍、衰微の色あり

加納町は傘を製す、竹ヶ鼻町は美濃紙を産す、今尾町は揖斐川に瀕す、舊竹腰氏の封邑たりし處にして稍、紫昌の地なり、妻老村に瀧の名所あり、赤坂村は大理石を産し、温古橋を製す、府中村は古の國府の地なり、關原村に有名の古戰場あり、川口村に有名の水開あり、上有知町は紙類の集散地なり、武發村は美濃紙を産す、關町は及物を産す、宮野村は有名の刀工志津三郎の生地なり、八幡町は生絲を産す、豐岡村に虎溪山の奇景あり、多治見町井に要木、下石、市之倉、等の各村は大に陶磁器を産す

高山町

飛騨 高山町(一、五〇〇〇)は山間には稀に見る所の一小都會にして生絲、陶器、漆器を産し、雜貨を集散す

吉川町は一小都會なり、船津町は銀山を以て名を知らる、國府村は古の國府の地なり

北國地方

北國地方

北國地方七百八十八方里は福井石川富山の三縣に分かる白山山脈の北飛驒山脈の東に於ける一帯の地にして日本海に面せり土地狹長にして北部に稍廣し海岸は概平低なるが海沼少なからずして良港に乏し氣候は不良なるに非ざるも冬季にありては降雪多く北西の強風屢起りて航通の便を絶つことあり

福井縣

福井市

越前 福井市(四四〇〇〇)は古北莊と稱せし地にして朝倉柴田等の割據の地なりしが徳川時代には松平氏(三十二萬石)の城市たりき今は縣廳地方裁判所等ありて工業は盛に羽二重奉書紬等を製出し商業も亦隆昌なれば市街は頗る殷賑なり勤王家橋本佐内は此の地に生る

三國町
武生町

敦賀町

三國町(一〇〇〇〇)は一小港を有す坂井港と云ふ縣下の要津たり武生町(二六〇〇〇)は舊府中と稱し越前家の客老本多氏の采邑たりし地にして往古は國府のありし處なるが市内に總社國分寺等の遺址あり又乃物類蚊帳墨流染等を産す敦賀町(二八〇〇〇)は舊酒井氏支封の地たりし處にして一の小港を有す港形に缺くる所あるも亦北陸地方屈指の鎭地たるを失はず氣比神社は建築の宏壯なる縣下第一と稱せられ金崎宮は金ヶ崎の城址にあり

藤崎村は新田義貞戦死の地なり松岡村に永平寺あり曹洞宗の總本山とす丸岡町は舊有馬氏の采邑たりし處なり大野町は舊土井氏の城邑たりし處にして勝山町は小笠原氏の封土たりし處なるが共に生絲を製し煙草を産す柚山村に城址あり瓜生保の據りし處なり鯖江町は歩兵第三十六聯隊の駐屯地なるが舊間部氏の城邑たりし處にして融照寺の巨刹あり粟田部村は蚊帳生絲を製す岡本村は鳥の子紙奉書紙等を産す池田村に雲丹の名産あり

若狹 小濱町は舊酒井氏十萬石の城下たりし處にして勤王家梅田露渡の生地なり

帝國大誌

リ、西津村は若狭産を製す

石川縣

金澤市

〔加賀〕金澤市八四〇〇〇は古、御山と稱せしが前田氏の封土と成りし以來、今の名に改む。抑、本市が加越能三國百二萬餘石を領せし一大國主大名の城下たりし頃は極めて繁榮せし土地にして三都に次げる一大都會なりしが廢藩置縣の結果僅に縣廳地方裁判所等の所在地又は歩兵第十九聯隊の衛戍地たりしのみにて交通上の便を缺き生産力に乏しきを以て漸く衰頽して住人の多少より見れば帝國の都會中に於て第九位を占むるに過ぎず。然れども近時に至りては第九師團司令部を此の地に置き鐵道の便を開きたるのみならず市民も亦絹布の製織を始めとし漆器、陶器、銅器等を産出するが故に縦令、往昔の盛大を見る能はざるも衰勢を挽回して繁華なる一都會を保持するを得んか

大聖寺町

大聖寺町一〇〇〇〇は前田氏の支封十萬石の城下たりし處にして絹布

小松町

を織り九谷焼を製す。小松町一三〇〇〇は木綿織、加賀絹、九谷焼、墨表等を製す

山代村に温泉あり又九谷焼の製出あり、山中村は盛に漆器を製す又温泉の湧出あり、安宅町に小港あり、本折村の須天は茶を産す、松住町は稍繁華の地なり、上金石町は一の小港を有す、富國の要津とす、錢屋五兵衛は此の地に生る、阿内村に白山比咩神社あり、津幡町は交通上の要區たり

七尾町

〔能登〕七尾町一三〇〇〇は一の良港を有す、商業地にして酒類の醸造に名あり、其の北灣に要港を設くるの議あり、輪島町一〇〇〇〇は稍繁華の地にして漆器を製す

輪島町

矢田郷村は古の國府の地なり、端村に和倉の温泉あり、一の宮村に氣多神社あり、宇出津町は漁業地にあり、柳比村の門前に清瀨宗の本山たる維持寺あり

富山縣

富山市

〔越中〕富山市五九〇〇〇は舊、前田氏の支封十萬石の城市たりし處に

帝國大地誌

して今は縣廳地方裁判所等の所在地なるが北國地方屈指の都會にして商業繁昌なり、俗に小江戸と稱せしは實に過賞に非ざるべし、此の地の賣藥業は内海に著名なるが近來は漸く衰微の色ありて復た昔日の隆盛を見る能はずと雖も亦重要な生産力たるを失はず

高岡市
滑川町
魚津町
新湊町
氷見町

高岡市(三、一〇〇〇)は縣下第二の都會にして商工の地なり、米穀生絲の集散に従事し銅器、鑄物、漆器、傘等を製す、滑川町(一、一〇〇〇)は章魚、烏賊を漁す繁華の地とす、魚津町(一、四〇〇〇)は一小港を有す、漁業に従事し珊瑚蝦を産す又白木綿漆器を製す、新湊町(一、八〇〇〇)は放生津と稱せし地にして漁業に従事し鹽鱒、干鰯を産す、氷見町(二、三〇〇〇)は漁業地たり、殊に鹽鰯、鰯を以て顯はる又縫針、蘭蓆を産す

東岩瀬町は神通川の口頭にありて一小港を有す、南加積村に眼目山立川寺あり、立山村に雄山神社あり、八尾町は鹽置に名ありて製絲に従事す、伏木町は古の國府の地にして射水川の口頭にあり、北國地方の要津にして開港場の一たり、船舶の出入少なよらずして繁華の地なり、下關村に瑞壽寺あり、城端村は絹布を製す、井波町も亦絹布

産す、石動町は名邑たり商業地なり、南谷村に源義仲が平維盛を敗りし偶利加羅峠の古戰場あり、福光町は養蠶地にあり盛に製絲に従事す

其二 北部

本州北部
新潟市

本州北部五千二百十四方里は一に東北地方と稱す、中央北上、阿武隈、羽越等の山脈は當部を南北に縦断して最上、越後、會津、阿武隈、北上等の平野を形成し、信濃川、阿賀川、最上川、阿武隈川、北上川等の諸流は灌溉の利と交通上に多少の便とを與ふ、氣候は稍、寒冷に失するの嫌なきにしもあらざれども地味概々肥沃にして越後平野、宮城野等は盛に米麥を産せり、而して地勢に基づき人情風俗、生業の發達等を考査すれば當部を分ちて前陸宮城、後陸、後陸岩手、前陸秋田、後陸山形の四地方と爲すを得べし

新潟縣

越後 新潟市(五、二〇〇〇)は信濃川の河口に瀕す、夙に開港場の一として

算へられたれども港域不完全にして港口に暗沙の横れるあり水淺くして巨舶を容るる能はず然れども市内には縣廳地方裁判所等あり白山神社日和山の勝區あり漆器其の他の雜貨を製作し商業も盛なれば土地は甚だ殷賑なり

新發田町

沼垂町

加茂町

三條町

長岡町

高田町

新發田町(一、一〇〇〇)は舊と溝口藩のありし處にして漆器竹細工を製す沼垂町(一、一〇〇〇)は信濃川に瀕す交通上の要區にして商業地なるが焼酎の産あり加茂町(一、〇〇〇〇)は商業地なり銅器を製す三條町(一、〇〇〇〇)も亦商業地にして稍々繁華なり長岡町(一、〇〇〇〇)は牧野氏の舊城地たりし長岡本町と共に信濃川の東岸にあり戊辰の役激戦のありし處なるが商業盛にして石油を産す殷賑の地なり高田町(三、〇〇〇〇)は舊と榊原氏の城下なりしが錫水飴の製作に名あり直江津町(一、〇〇〇〇)は一小錫地たるに過ぎざれども汽車汽船の便あるを以て縣下樞要の地たるを失はず百貨輻輳して商業繁榮す

新發田本村に歩兵第十六聯隊の衛戍あり龜田町は交通の衝に當り稍々繁華の地なり

リ綿木綿を産す白根町は絹織木綿を製し五島町は平絹精好白綿等産す新津町は交通上の衝に當り繁華の地なり其の桐目木に大井あり村松町は舊と藤氏の封邑たりし處にして陶器竹器を製す歩兵第三十聯隊の營成あり彌彦村は磁石を産す此の地に國幣中社彌彦神社あり燕町は銅器を製作す槻田村に如法寺の大井あり見附町は名邑にして津川町は河津たり奥板町は井伊氏の采邑たりし處にして酒類を醸造す寺泊町に錫地あり尼瀬町は石油を産するを以て名を知らる出雲崎町は小港を有す稍々繁華の地なり山本村の浦瀨に石油坑あり鎌屋町は綿を以て名を知らる小千谷町は透綾麻布を製す十日町も麻布を産す長谷村の長嶺は石油を産す柏崎町は商業地なり高城村に高田城の址あり妙高村に赤倉温泉あり國府村は古の國府の地なり春日村に春日山の城址あり糸魚川町は姫川の河口にあり舊と松平氏の封土たりし處にして海産物を信濃地方へ輸送す村上町は舊と内藤氏の采邑たりし處にして漆器を製す市振村に親不知の懸崖なり

相川町

佐渡 相川町(二、二〇〇〇)に海内第一と稱せらるる金銀山あり大山祇神社あり無名異焼と製す

平泉村に黒木御所の跡あり、三宮村に文覺上人の墓あり、眞野村は古の國府の地に
して其の眞野山に順德天皇の御陵址あり其の阿佛切に日野實朝の墓あり、夷町は淡
町と共に加茂湖の口頭に瀕す、池は廣瀨に過ぐるも船泊の礙に便ならざるに非ず
小水町は小港を有す、大野村に根本寺あり、羽茂本郷村に波津神社あり

福島縣

福島町

〔岩代〕 福島町(二、一〇〇〇)は舊板倉氏の城市なりしが廢藩後は縣廳地

方裁判所等の所在地と成り、一商區としては盛に生絲の賣買を爲す

若松市
郡山町
須賀川

若松市(二、九〇〇〇)は松平氏(二十八萬石)の舊城下なり、維新の戦争の際、其
の名海内に轟けり、盛に漆器を製す、郡山町(二、二〇〇〇)は生絲を産す、交通の
街に當りて稍繁華なり、須賀川(二、二〇〇〇)は馬を賣買し、煙草を集散す

飯坂町に温泉あり、岡山村に信夫文字摺石あり、桑折町、碓川町は鹽置地にあり、掛田
村は生絲を以て名を知らる、川俣町は絹布を産す、二本松町は舊丹羽氏の采邑たりし
處なり、製絲に従事す、需者安積長濱の生地なり、本宮町は商業地なり、東山村に温泉あり

白河町

り、喜多方町は製絲に従事す、柳津村に虚空藏堂あり、本郷村は磁器を製す、世に會津燒
と稱す、高田町に伊佐須美神社あり

平町

〔磐城〕 白河町(一、五〇〇〇)は舊阿部氏(十萬石)の城下なりしが維新の際
には激戦のありし處なり、陸羽街道の街に當る一小都會にして馬の市場と
して名を知らる、平町(一、一〇〇〇)は舊磐城平と稱せしが安藤氏の封邑た
りし處にして奥州濱街道屈指の都會なり、此の地の附近に於ける白水、入山
等の炭坑より盛に石炭を産出す

柳倉町は舊松井氏の領邑たりし處にして郡々古別神社あり、石川町は石川氏の舊
領邑なり、三春町は舊秋田氏の封土なりしが産馬地の中心として名を知らる、小名
原町は漁業を以て著はる、湯本村に三國温泉あり、中村町は相馬氏の領邑たりし處にし
て相馬燒の産あり、松川浦は勝地として名あり

宮城縣

仙臺市

〔陸前〕 仙臺市(七、五〇〇〇)は舊伊達氏(六十三萬石)の城地たりし處にし

帝國大地理

て東北地方第一の都會なり、南西に廣瀬川を帯び南に茂ヶ崎の丘陵を控へ、縣廳、地方裁判所、控訴院等の所在地にして、第二師團司令部は青葉城にあり、各種の兵の駐屯するあり、本市は仙臺平、八ッ橋織、紙布、楮布、埋木細工等を製し、百貨の集散に従事するを以て市街は繁昌にして殊に芭蕉の辻、國分町、大町等は頗る殷賑なり、名所としては青葉神社、櫻岡公園、榴ヶ岡、瑞鳳寺等あり、龍雲院に林子平の墓あり、又支倉六石衛門は此の地に生る

石の巻町(一、八〇〇〇)は牡鹿灣に瀕し北上川の河口にあり、縣下の要津にして稍、繁華の地なり

多賀城村に古代の城址あり、岩切村は古の國府の地なり、松崎村は日本三勝地の一として名を知らる、磯原町は松崎灣に枕み置船流舟の輻輳する處なり、古川町は稍、繁華の地なり、温泉村に入湯あり、鬼首村に噴出泉あり、浦谷町は伊達氏支封の舊地なり、龍崎村に寶華寺あり、登米町に神社あり、頼義の建立に係れり、傳ふ秋、渡村は一港を有す、船舶の出入少ならず、鮎川村に金花山の勝地あり、氣仙沼町は一の良港を有せり、白石町は若さ丹清氏の采邑たりし處にして、蠶繭、紙布を産す、鶴岡村に鐵炮

の溫泉あり

山形縣

羽前 山形市(三三三〇〇)は舊と最上町と稱せし地にして秋元氏の采邑たりし處なり、縣廳、地方裁判所等ありて商業も亦繁昌す

新庄町(二、二〇〇〇)は舊と戸澤氏の采邑たりし處にして龜綾織、陶器を産す、稍、殷賑の地なり、城址あり、日野將監の築きし所とす、鶴岡町(二、〇〇〇)は酒井氏(十四萬石)の舊城市にして商業に従事す、米澤市(三、一〇〇〇)は舊と上杉氏(十五萬石)の城下たりし處にして機業行はれ盛に絲織類を製出す、又漆器を造る、伊達政宗は此の地に生る

上山町は藤井氏の舊城邑にして紙の産あり、又鶴屋の溫泉あり、天童町は織田氏の采邑たりし處にして舞鶴城の址あり、寒河江町に大江氏が築きし城の址あり、谷地町は商業地にして稍、繁華なり、鶴岡町は一商地なり、東根町は煙草の産地にあり、長瀬村は舊と米津藩のありし處なり、廣野村は國府の遺址あり、田川村に溫泉あり、大山町は酒

帝國大誌誌

山形市
新庄町
鶴岡町
米澤市

を醸造す、長井町は生絲井に軸を産す、赤湯町に有名の温泉場あり、小松町は生絲の産地にあり

酒田町

羽後 酒田町(二二〇〇〇)は舊と砂海を記せしが酒井氏の采邑たりし處なり、日本海に瀕し最上川の河口にあり、船舶の碇繋に便ならざる一小港たるに過ぎざるも百貨の集散は稍盛なり

吹浦村に舊と島海大権現と稱せし國幣中社大物忌神社あり

秋田縣

秋田市

羽後 秋田市(二九〇〇〇)は舊と佐竹氏三十萬石の城下なりしが維新後は縣廳地方裁判所等の所在地と成りて商業繁榮す又機業地としては畝織八丈縞等を製す、國學者平田篤胤は此の地に生る

土崎町

土崎港町(一三〇〇〇)は御物川の河口にあり、縣下の要津にして百貨集散し商業頗盛なり、阿仁合町(一〇〇〇〇)は銅を産するを以て名を知らる、能代港町(一四〇〇〇)は小港を有す木材、鑽石を輸送し春慶塗を製作す、本庄町

阿仁合町
能代港町
本庄町

横手町

(二〇〇〇〇)は子吉川に瀕す、六郷氏の采邑たりし處にして米穀を集散す、船舶の出入少ならず、横手町(二二〇〇〇)は生絲、綿布を製す、稍般賑の地なり、朝倉城の址あり

寺内村に秋田古城の址あり、五城目町は商業の地なり、八竜湖は勝地として名あり、船川港町は男鹿半島にあり一の良港を有す、大館町は交通上の要區にして商業稍盛なり、曲物細工に従事す、此の地に桂城の址あり、牛嶋町は商業地なり、泉澤町は勝地として有名なりし處なり、矢崎町は生駒氏の居館のありし處なり、龜田町は舊岩城氏の城邑たりし處なり、大曲町は通舟の便を有す、股腰の地なり、角館町は名邑たり、金澤町に安倍頼時が據りし孔雀の標の舊跡あり、湯澤町は要隘地にして織物を産す、院内村に金銀山あり、西馬音内村は佐藤信淵の生地なり

園中

花輪町は稍繁華の地なり、尾去澤村に剛山あり、小坂村に銀山あり

巖手縣

盛岡市

陸中

盛岡市(三三〇〇〇)は北上川と雫石川との相合する地にあり、舊と

帝國大地誌

南部藩(二十萬石)の城下たりし處にして縣廳地方裁判所等あり東北地方第三の都會にして商業稍盛なり、紬、鐵瓶の産あり又林檎を栽培す

厨川村に厨川村の遺趾あり、御堂村に弓張清水あり北上川の水源となす、黒澤尻町は交通上の要區たり、湯田村に温泉あり、水澤町に鹽澤城の址あり、名士高野長英は此の地に生る、佐倉河村に鎮守府の舊址あり、衣川村に衣川村の舊址あり、岩谷堂村は交通上の要區にして精、繁華の地なり、一の關町は一に盤井と云ふ、田村藩の舊地にして商業稍盛なり、殿美村に五串の瀧あり、平泉村に毛越寺、中尊寺あり又平泉館井に高館の舊址あり、遠野町は釜石街道に於ける名邑にして精、繁華の地なり、甲子村に大橋井に仙人峠の巖山あり、釜石町は小港を有す、飯を製す、大館町は漁業地にあり、宮古町に小港あり、船前町の重要に似たり、岩泉村は南部藩の本藩なり、久慈町も亦一の小港を有す、野田村に玉川井に十府の浦の勝地あり

盛町は大船渡灣に瀕す、商業稍盛にして風色に富り

全田一村に湯田の温泉あり、小島谷村の中山に軍馬育成所あり、淨法寺村は漆器を製す、浪内村に末の松山と稱する地あり

青森縣

青森市(二、八〇〇〇)は青森海外ヶ濱に枕む、港は船舶の碇繋に便ならざるも函館との定期航路に當り奥州鐵道の端點に當るを以て交通上、樞要の地として商業は繁昌せり

弘前市(三、五〇〇〇)は津輕氏(十萬石)の舊城下にして縣内第一の都會たり、織物、漆器、木通細工を製す、八戸町(一、一〇〇〇)は南部氏支封の地なりて商業稍盛なり

野内村に淺蟲の温泉あり、鱈ヶ澤村は錨地たるも往昔の繁華を見る能はず、十三海は風色に富り、岩木村に岩木神社あり、藤代村に津輕爲信の墓あり、黒石町は津輕氏支封の舊地なり、浪岡村は交通の衝に當れり、蔵前村に温泉あり、五所河原町は稍繁華の地なり、野邊地町は一の良港を有す、繁昌の地とす、七月村は舊七戸藩のありし處にして盛に馬及大豆を賣買す、田名部村は斗南藩のありし處なり、大湊村は一の良港を有す、此の地に軍港を設くるの議ありと云ふ

青森市

弘前市

八戸町

其三 西部

本州西部

本州西部は鈴鹿山脈以西の地より成りて其の主要部は瀬戸内海に面せるが更に分ちて近畿及び中國の二地方と爲す

近畿地方

近畿地方

近畿地方は北東に琵琶湖を控へ南に紀伊の高地を戴く、數派の山脈は縦横に走り巨流少なく廣潤なる平地に乏し、大阪灣、琵琶湖并に淀、大和、紀伊の三河に瀕する地は肥沃にして耕種に適せるが其の他にありて交通の便を缺き人生の發達稍、遲きが如し而して當地方に抱括せらるるは二府京都府三縣滋賀縣和歌山、奈良なりとす

滋賀縣

大津市

〔近江〕 大津市三、四〇〇〇は琵琶湖に瀕し、風景絶佳なり、交通の要阨に當りて商業隆盛なるのみならず、麻絲、麻布を製す、縣廳、地方裁判所等あり、歩兵

彦根町
長濱町

第一聯隊の衛戍あり、社寺には四宮神社、園城寺、近松寺等あり、實に縣下第一の都會たるに耻ぢず

彦根町(一、七〇〇〇)は舊と井伊氏三十五萬石の城市なりしが往昔の如く盛ならず、近傍佐和山に城趾あり、石田三成の居城たりし處とす、長濱町(一、〇〇〇)は交通上の要區にして頗る殷賑の地なり、縮緬、奉書軸等を産す

石山村に觀月の勝地あり、膳所村は本多氏の舊城地なり、滋賀村に志賀の郡の舊趾あり、阪本村は高穴庵宮のありし地にして比叡山延暦寺は有名の古刹あり、下阪本村に唐崎の松あり、草津町は交通の衝に當れり、瀬田村に古の國府の址あり、野洲村は晒布を産す、水口町は舊加藤氏の城地たりし處にして中村栗園の墓あり、八幡町は近江商の居る處、蚊地、麻布を製す、日野町は俗に日野商人と稱する如く商業の盛なる處なり、蒲生氏郷は此の地の産なり、安土村に往昔信長が築城せし處あり、八日市町は矢立を産す、七尾村に姉川の古戰場あり、田根村に小谷山の城址あり、淺井久政の據りし處なり、伊香具村に賤ヶ岳の古戰場あり、今津村は湖北の要津たり、大津村の勝野に分部氏の舊城市あり、青柳村は攝關中江藤樹の生地たり

帝國大地誌

京都府

京都市

山城 京都市は畿内平野の北隅にありて桂川の流域に當り東山と稱する一帯の山脈を扣へ、加茂川は其の麓を洗ひて本市を貫流せり東西凡そ一里余、南北凡そ一里半あり、市内を分ちて二區となす、三條通、以北を上京とし以南を下京とす、人口は凡そ三十五萬ありて實に本邦第三の大都會たり、抑本市は盛衰一ならざるも桓武天皇の奠都以來明治の遷都まで一千有餘年の間、我が帝國の首府たりし處にして街衢の整然として清潔閑雅なること海内無雙なり、加茂川には三條、四條、五條の三大橋并に其の他數橋の小橋を架するあり、高瀬川は伏見に通じ琵琶湖疏水は工業上の利と交通上の便とを與ふ、道路は稍、狹隘なるも鐵路は東京、大坂、神戸、奈良等に通せり、近傍の山野は風色明媚にして名所舊蹟に富めるは世人の知る所なり、今茲に主なるものを列舉せんに、舊内裏、仙洞御所、二條の離宮を始めとし、神社には八坂神社、北野神社、豊國神社等あり、佛閣には相國寺、知恩院、建仁寺、清水寺、東西

兩本願寺、方廣寺、泉涌寺、南禪寺、銀閣寺、金戒光明寺、東福寺、高臺寺、興正寺、本國寺、佛光寺等あり、其の他の名所には圓山あり、將軍塚あり、新京極あり、されば此の地に來遊するもの絡繹として絶ゆることなし、加ふるに府廳地方裁判所、大學校、高等學校等あり、又西陣に於ては盛に織物を製し、五條坂附近に於ては粟田燒、清水燒等の陶磁器を作り、其の他漆器、扇子等を産せり

京師の人にして有名なるものは經世家に熊澤番山あり、儒者に伊藤仁齋、林羅山、山崎闇齋あり、僧侶に親鸞上人あり、畫家に土佐光信、同光起、相阿彌、狩野元信、同探幽、尾形光琳あり、劍工に來國吉、三條宗近、粟田口國友あり、甲冑工に明珍宗介あり、染工に禪友あり、陶工に樂長祐野、村仁清あり、蒔繪工に山本春正あり

伏見町

伏見町(二、一〇〇〇)は京阪の間に於ける要區にして繁華の地なり、歩兵第三十八聯隊の衛戍あり、有名なる彫刻家左甚五郎は此の地の産なり、町の近傍に伏見城の趾あり

下鴨村に御祖神社あり、上賀茂村に別雷神社あり、脩學院村に離宮あり、大宮村に大龜寺あり、花園村に仁和寺、妙心寺あり、衣笠村に平野神社、鹿苑寺あり、嵯峨村に清涼寺

帝國大誌

天壽寺あり、松尾村に櫻樹と楓樹とに富める山水明媚の嵐山あり、大、山崎村に山崎の古戰場あり、明智光秀敗死の地なり、深草村に稻荷神社あり、桃山あり、宇治村は製茶を以て名あり、黄檗宗の總本山たる萬福寺あり、宇治町は名勝の地にして平等院あり、淀町は舊稲葉氏の所領たりし處にして城址今尙存せり、八幡町に男山神社あり、木津町は大和街道の名邑たり、笠置村には行在所の舊蹟あり

丹波 龜岡町は龜山と稱し松平氏の領地たりし處なるが商業稍盛なり、園部町は舊小出氏の城市たりし處なり、宮本町に園府の遺址あり、福知山町は朽木氏の舊城地なり、由良川に瀕し交通の衝に當れり、歩兵第二十聯隊の精成あり、金山村に大江山あり、綾部町は舊九鬼氏の治所たりし處なり

丹波 舞鶴町は舊田邊藩の有りし處なるが漁業に従事し瓦港を有せり、第四師府を置き軍港を設くべき地なり

府中村に有名なる天の橋立あり日本三景の一なり、宮津町は木庄氏の城下たりし處にして小港を有す稍繁華の地とす、嵐山町は舊京極氏の封邑たりしが處なる丹波國の産地にあり

大阪府

大阪市

攝津 大阪市は古、難波津と稱せし地にして近畿平野の南部に位し淀川に跨り大阪灣に瀕す、廣袤は東西二里半にして南北も亦二里半餘あり、市坊の數は五百八十一なるが行政上、東西南北の四區に分たれ八十二萬の住民を有す、實に帝國第二の大都會なり、抑、本市の繁榮は往昔、豊臣秀吉が此の地に居城を築きて施政の中心と定めしに起り、徳川時代にありては國主大名の多くは倉屋敷を設けて商業發達の基を爲し、今の世に當りては府廳を始りとし地方裁判所控訴院第四師團司令部造幣局等を置くのみならず、近來は開市場と爲して外國貿易を許せしに因らずんば、梅田港町、難波、網島、其の他、十數ヶ所に停車場を設けて汽車の發着に備へ、無數の堀河を開きて貨物の集散に便益を與ふ、高麗、天滿、天神、浪花等の大橋、其の他、千百の橋梁を架するあり、安治川口、天保山附近には船舶の出入碇繋するあり、所謂四通八達、の地にして商業の盛大なる海内第一たり、加之、近年工業大に興り

三百餘ヶ所の工場に三萬足らずの職工を使役し綿絲の紡績器械の製作、燐寸の製造、酒類の醸造等に従事するのみならず、其の他、織物、油類、洋紙、青銅器、漆器、鐵器等を産出せり。されば市街は繁昌を極め人馬の來往織るが如し、就中心齋橋筋、堺筋、高麗橋筋、道頓堀等は最、般賑なる街衢たり。今や水道の敷設は既に落成を告げて飲料水を改良するに至りしが、築港の大事業を完成するの日は本市に一層の光彩を添へ空前の隆昌を觀るは期して待つべし。而して市内屈指の建造物を舉ぐれば中の嶋に公園あり、堂嶋に米穀取引所、商品陳列所あり、神社には生國神社、天滿神社、高津神社、櫻宮等あり、佛閣には四天王寺、西別院等あり、天下無雙の稱わる大阪城あり。

書家英一、名士大鹽平八郎等は此の地に生れ、史家頼山陽、文豪近松門左衛門は此の地に於て名を擧げたり。

平野、堀町は南區たり、住吉村に著名の社あり、富田村井に美木村は清酒を醸造す、高槻町は永井氏の藩營のありし處なり、藤手村は古曾部焼を産す、島本村に藤井驛の舊蹟あり、三嶋村に總持寺あり、吹田村に「ピールの醸造所あり、池田町は清酒の醸造處井

堺市

に木炭の集散地として名を知らる、箕面村は瀑布の名所なり。

和泉 堺市(五、〇〇〇)は往古、互市場たりし頃の如く盛大ならざるも亦商業繁榮の地にして鐵器、銅器、真田紐、段通等を製出す、妙國寺あり、南宗寺あり、大濱に海水浴場あり、此の地は千利休の生處なり。

軸松村に仁德天皇の御陵あり、鳳村に大鳥神社あり、陶器村は往昔行基焼を製せし地なり、國府村に和泉宮址あり、伯太村は渡邊氏の封土たりし處なり、南松尾村に有名な古刹あり、岸和田町は岸和田、濱町井に貝塚町に接す、舊國部藩のありし處なるが繁華の地なり。

河内 赤阪村に城址あり、楠正成が關東の大軍を防禦せし處なり、又正成の生地なり、千早村に有名なる千早城の跡あり、天野村に金剛寺あり、狹山村は舊北條氏の領邑たりし處なり、道明寺村に國府の遺址あり、八尾村は舊繁華の地なり、四郡村に木村重成の墓あり、山田村に百濟寺の廢址あり、甲可村に四條堰神社あり。

奈良縣

奈良市

三三三

〔大和〕奈良市(三〇〇〇〇)は往昔八十餘年の間我が帝都たりし處にして平城と云ひ或は南都と稱せしが當今は縣廳地方裁判所帝國博物館等ありて木綿織曝布筆墨等を産す商業も亦稍盛にして繁華の地なり此の地は名祠巨刹に富めるを以て來觀するもの陸續絶へず春日神社東大寺正倉院興福寺等は最世人の知る所なり市の北端に於ける奈良坂に松永久秀の築きし多門城の址あり舊家土佐光長佛像彫刻家法印運慶の生處なり

郡山町(一四〇〇〇)は舊と柳澤氏十五萬石の城市たりし處なるが各貨の集散地として稍繁華なり

郡山町

大安寺村に古刹の址あり柳生村は舊柳生氏の陣屋のありし處なり月瀬村は榎林を以て名を知らる筒井村に順慶が築きし城の址あり伏見村に西大寺あり都路村に島城の址あり其の赤膚山は陶器を製す三郷村に菅田神社あり法隆寺村に有名の古刹あり奈良時代の建立に係ると云ふ井波市町は商業地にして稍繁華なり三輪町に大神社あり初瀬町に長谷寺あり櫻井町は交通上の要處たり多武峰村に談山神社あり松山町は宇陀紙の産地にあり八木町井に今井町は大和紙の生産地にあり高取

町は舊植村氏に屬せし城の址あり白樺村に數火山あり我が高祖神武天皇の御陵の地なり富麻村に有名の寺あり御行町は綿布を産す五條町は商業繁榮の地なり下市村は漆漉紙漆器等を製す吉野村に吉野宮あり此の地は櫻花を以て賞せらるのみならず歴史上に於けるも甚著名なり賀名生村に行宮の址あり此の地の黒石坑は銅を産す

和歌山縣

和歌山市

〔紀伊〕和歌山市(六三〇〇〇)は紀伊の川の河口に於ける都會にして舊と徳川氏五十五萬石の城下たりし處なるが目今は縣廳地方裁判所等あり港は狭小なるも錨地とするに足り百貨の集散自由にして商業は盛況を呈す特に多量の蜜柑を輸出す又綿フラスコ、雲齋織、漆器等を製作せり

湯淺町(一〇〇〇〇)は廣灣に瀕す繁華の地にして醤油を製造す新宮町(一四〇〇〇)は水野氏の領邑たりし處にして薪炭を集散す

湯淺町
新宮町

直川村は古の國府の地なり宮村に日前國廳の兩神宮あり三田村に龜山神社あり

帝國大地誌

三三三

組三井寺村に金剛寶寺あり、黒江町は盛に漆器を製す、實に此の種の製作品に就きては帝國第一たり、加太村に小港あり、和歌浦村に勝地あり、野河村に巨剎あり、根來村に直義眞言宗の本山たる根來寺あり、神野村は紙を製す、高野村に金剛峯寺あり、有名な古剎にして眞言宗の本山たり又木材を産するを以て名あり、宮崎村の箕島は蠟燭を産し其の北邊は蜜柑を輸出す、由良村は一小良港を有す、矢田村に道成寺あり、田邊町は扇ヶ濱に瀬す、菴安藤氏の封土たりし處なり、瀬戸、鉛山村に湯崎の温泉あり、富田村は砥石を産す、那智村は帝國第一の稱ある瀑布を以て著はる、又黒石を産す、北山村は古屋石を産す、本宮村に熊野神社あり

中國地方

中國地方

中國地方は東西に長く南北に狭し、山岳は高隆ならざるも高地に屬する土地多く河流の沿岸并に海岸に於ける平地は概々狭小にして稍々著しきものは播磨平野、雲伯平野あるのみ、而して内海に瀕する地は船舶の碇繋に便にして風色に富めるが日本海に面する地は港灣に乏しく、氣候は北面の

地に稍々寒冷を覺ゆるも南面の地は温暖にして降雨少なし、されば當地方に屬する六縣の中にて南面せる兵庫岡山廣嶋山口の四縣を以て内海の地とし、嶋根島取の二縣を以て山陰の地とす

兵庫縣

神戸市

〔攝津〕神戸市は兵庫神戸を合稱したるものにして帝國第五の都會なり、大阪灣の北西に位し北に諏訪山を控へ南に兵庫神戸の二港を擁し、土地狭長にして廣濶なる市街たるを得ざるも亦風色は見るに足るものあり、神戸港は水深くして大艦巨舶を收容するに便にして、兵庫港は小船漁舟を停繫するに適せり、今を去る三十餘年前始めて互市場を此の地に開きしより以來日に月に隆盛に趣き通商港中の首位を占むるに至れり、従て市内は大に繁榮し殊に海岸通、榮町通、元町通、多門通、等は般賑を極む、而して工藝には燐寸、綿絲、西洋紙、其の他各種の雜貨の製作あり、市坊の數は百四十有餘に過ぎざれども人口の増加は甚だ速にして將に二十二萬に達せんと

四の宮町
尾崎町

す官衙には、縣廳、地方裁判所、税關等ありて製造所の數も少なからず、然れども市内に遊覽の地なく唯、諏訪山、湊川の二公園并に布引の瀑布あるのみ、又舊蹟の地も多からずして湊川神社に楠公を祠るあり、廣嚴寺に楠氏一族七十三人自盡の地とする處あるのみ而して兵庫は往昔福原の都のありし處なるが清盛の塔長田神社等あり

西の宮町(一、四〇〇〇)は清酒の醸造を以て有名なる處とす、尾崎町(一、五〇〇〇)は舊く櫻井氏の封土たりし處にして商業繁榮せり

須磨村は勝地たり、須磨寺あり、一の谷の古戰場あり、今津村は清酒を醸造す、其元村に繁榮の源泉あり、御影町は清酒醸造を以て有名なる灘地方にあり、住吉村は御影石の本場とす、伊丹町は清酒の醸造を以て名を知らる、三田町は舊く九鬼氏の本場たりし處なるが播丹街道の衝に當り、常呂の地にして青磁焼を製す、有馬町に温泉あり、日本三湯の一とす、竹細工を製す、

御影 御影町は舊く織田氏の治所たりし地なり、篠山町は舊く青山氏の領有せし處にして、繁榮の地とす、今田村は立杭産を産す

明石町
姫路市

御影 豊岡町は京極氏の封土たりし所にして、御行李の産地にあり、城崎村に湯島の温泉あり、國府村は古の國府の地なり、出石町は仙石氏の居城のありし處にして、白磁器の製作あり

播磨 明石町(二、一〇〇〇)は舊く松平氏の城地たりし處にして、明石が浦に瀕せり、人丸神社あり、又明石珠、舞子焼、帆木綿を製す、姫路市(三、二〇〇〇)は舊く酒井氏(十五石)の城下たりし處にして、白鷺城の天主閣は今尙存す、第十師團司令部あり、各種の兵の駐在するありて繁華の地なり、經世家野中兼山は此の地に生る

垂水村に舞子の櫻の勝地あり、三木町は双物を製す、志染村に徳計弘計の王子の舊蹟あり、細川村は碩學藤原隆高の生地なり、上福田村に三草山の古戰場あり、北條町は名色たり、高砂町は要津の地にして相生の松は高砂神社にあり、大鹽村は製鹽に名あり、飾磨町は一小港を有せり、曾左村に香露山園教寺あり、英賀保村に城址あり、三木氏九代の居城たりし所なり、網干町は鐵地にして酒類を醸造す、竜野町は舊く扇坂藩のありし處なるが醤油の製造を以て有名なり、室津村は一小港を有す、赤穂町は舊く赤穂藩

に屬せし地なるが盛に食鹽、燒鹽を製す、其の名四十七義士の名と共に高し、赤松村に白旗城の廢址あり

淡路 洲本町は城代稻田氏の居りし處なり、由、瓦町に要害あり、岩屋町に小港あり、風色に富めるを以て名あり、都志村は航業家高田屋嘉兵衛の生地なり、多賀村に伊井附神社あり、市村は古の國府の地なり、加集村は陶器を製す、陶工加集現平は此の地に生る、福、瓦町に鑛地あり

岡山縣

岡山市

備前 岡山市(五、七〇〇)は舊と池田氏(三十一萬石)の城下たりし處にして、當今は縣廳、地方裁判所、第六高等學校等の所在地なり、旭川は市街を貫流して百貨の輻輳を便にす、商業盛昌なるのみならず、紡績製絲、花莫蔭、紋莖等の製作に従事するが故に市街の殷賑なる實に山陽道第二の都會たるに恥ぢず、金鳥城には天主閣のみを存するに過ぎざれども、後樂園は依然として天下の名苑たるを失はず、而して名士大石良雄、湯淺常山、理財家津田永忠は

此の地の産なり

御野村は鹽表の生産地にあり、一宮村に言備津彦神社あり、伊部村は砂器を製す、伊里村に閉谷學校あり、三石村に舟板峠あり、藤野村は和氣清麿の生地なり、牛窓町に鑛地あり、國府村は古の國府の地なり、行幸村は刀劍鍛冶長船近忠の生地なり、宇野村は勤王家藤本良金の生れし處にして、味野村は起業家野崎武衛門の生地なり、見嶋郡の各村は小倉織、真田織、雲霧織を産し、其の沿海地方は製鹽に従事せり

備中 早崎町は鹽表を以て名を知らる、中庄村に銅山あり、倉敷町は商業地なり、三須村は舊伯爵雪舟の生地なり、玉嶋町は一の小港を有す、繁華の地なり、笠岡町は縣下の要津にして交通上の衝に當れり、神崎外村に高嶋宮の舊趾あり、總社村は古の國府の遺址あり、真金村の言備の中山に言備津神社あり、備榮四は此の地に生る、高松村に城址あり、秀吉の水攻を以て名を知らる、阿曾村は鑛物を製す、高梁町は板倉氏の舊城下にして商業稍盛なり、吹屋村に銅山あり

津山町

美作 津山町(二、二〇〇)は津山川の北岸に位す、舊と松平氏(十萬石)の領邑たりし處にして、雲齋織、足袋等を産す

帝國大誌

勝山町は舊三浦氏の封土たりし處なり、久世村は山中煙草を集散す、院庄村に作樂神社あり、西吉田村に國府の遺址あり、一宮村に中山神社あり、弓削村は燒酎を製す、稻岡南村に誕生寺あり、備前空の生地とす、佐、瓦山村に勝地あり

廣島縣

安藝 廣島市(二、二〇〇〇〇)は太田川の數派に別れて三角洲を爲せる處にあり、抑、本市は毛利輝元が此の地に居城を建造せしとに起り、其の後淺野氏(四十二萬石)の城下と成りて益々繁榮し維新の改革を経たるも縣廳地方裁判所、控訴院第五師團司令部等の所在地と爲し舊城内に各種の兵を駐屯せしめしを以て遂に中國の巨鎮たるを失はざりき、加之近來宇品に築港し道路を改修して船舶の碇繋に適せしめ車馬の往來に便ならしめれば商業は盛大と成り雜貨の製作も増加せり、されば本市は山陽道第一の都會たるのみならず帝國第七の都會として算へらるるに至れり、特に明治二十七八年の役に當り當地に大本營を設けられたるを以て廣島市の名は

sheet

宇内に發揚せられたり

吳とは和庄町(二、一〇〇〇〇)并に吉浦、莊山、田宮、原の三村の總稱にして第二海軍區を管する吳鎮守府の所在地なるが軍港は鳥小島を前にし西と南に江田嶋と倉橋嶋とを控へたり、而して江田嶋に海軍兵學校あり

府、中村に國府の遺址あり、殿崎町に殿崎神社ありて四國の風色絶佳なれば日本三景の一として算へらる、宮崎細工を産す、毛利元就が噴全妻を滅ぼせし處なり、可部町は交通上の衝に當る、山崎織の産あり、大朝村は鐵を産し、鑄物を製す、新庄村に吉川氏の城址あり、吉田村に郡山の城址あり、毛利氏九代の據りし處なり、粟屋村は産鐵地にあり、三津町は清酒を醸造す、下の灘の稱あり、竹原町は鑛地なり、本郷村に小早川氏の城址あり、忠海町は一の小港を有し綿布を製するが國防上の要區にして要塞の設けあり

備後

尾道市(二、二〇〇〇)は大寶、愛宕の二山に據り向島を控ふ、港は水底深からざるも船舶の出入多くして商業甚だ盛なり、又酒、酢、蘭、藤、鐵器を製す、古刹あり千光寺と云ふ、福山町(一、七〇〇〇)は舊阿部氏(十萬石)の城下たり

帝國大地誌

し處にして城址には今尙。天主閣を存す、生絲、綵綿、素麵の産あり

三、原町は食鹽、酒類等を製す、繁華の地なり、城址あり、小早川隆景が築きし城にして、淺野家老臣の居りし處なり、千年村に阿伏見岬の勝地あり、山南村、其の他、沼隈、御調二那の諸村は、備後表を産す、鞆町は商業地にして、禰福寺の勝地あり、保命酒、酢、鐵器等を製す、府中村は古の國府の地なり、網引村に吉備津彦神社あり、甲奴郡の數村に鐵の産あり、三、次町は交通上の要區にして、商業に従事す、庄原村は奉書紙、杉原紙を製す

山口縣

山口町

〔周防〕山口市(一七、〇〇〇)は往昔、大内氏の居城地たりし時代には一大都會なりしも、毛利氏(三十七萬石)の所領と成りし以來、僅に城代を置きしに過ぎれば、衰微を極めたり、其の後、文久年間に至り、毛利氏が此の地に牙城を移せしを以て、稍、繁華に越さしが、維新後は縣廳、地方裁判所、高等學校の所在地と成りて、漸次に隆昌の域に進まんとす

三田尻町(一、二〇〇〇)は小港を有す、縣内の要津とす、徳山村(一、二〇〇〇)は

三田尻町
徳山村

舊と毛利氏支藩の城邑たりし處にて、一の小港を有す、商業稍盛なり

久賀村は綿綿布を産す、岩國町は舊、吉川氏の城市たりしが、錦川に架する錦帯橋は世に知らる、此の地に縮布、蚊帳の産あり、柳井津町は綿地なり、縮綿布を製す、上關村は室津村と共に長崎の東端にありて、一の小港を有す、室積村は稍、繁華の地なるが、牛肉罐詰を産す、佐波村は古の國府の地にして、松崎神社あり、中關村に小港あり、西浦村は陶器を製す、下宇野、今村に湯田の温泉あり、吉敷村に高の峯の城址あり、大内義長の築きし所とす

赤間關市

〔長門〕赤間關市(四、一〇〇〇)は一に下の關と稱す、交通上の要區にして、商

業隆昌なり、北に丘陵を負ひ、西に彦島を扣へ、南は海峡を隔てて、豊前の明神岬と相對す、其の距離僅に六町なり、港内水深くして、大船巨船を容るるに足るも、潮流急にして、碇泊に便ならずして、安全には缺くる所あり、此の地は對岸の門司市と相待ちて、瀬戸内海の咽喉に當るを以て、日野山、彦島、明神岬等に砲臺を築き、要塞砲兵をして之を守らしむ、神社には赤間宮、龜山神社あり、佛開には引接寺、尊念寺あり、市の東端に於ける榎の浦は平氏滅亡の地とし

帝國大地誌

恭町

て有名なり。萩町(一六〇〇〇)は舊と毛利氏の城下たりし處にして通船の便なきにしもあらざれども繁華の地と云ふを得ず。生絲松本燒を製す勤王家吉田松陰は此の地に生まる

三四四

船木村は櫛を産す須基村はセメントを製す厚四村は硯石を産す世に赤間關石と稱するものなり。清末村に毛利氏の城址あり長府村は舊鹽浦と稱せしが毛利氏の城址あり往昔國府のありし地にして大内義長が戦死せし處なり。鑄物竹細工を産す秋吉村に大理石の産あり深川村に温泉あり又陶器を製す生雲村に藏目喜の銅山あり

島根縣

松江市

出雲 松江市(三四〇〇〇)は宍道湖に瀕し遠近に山岳丘陵を望む風景佳なり。舊と松平氏十八萬石の城下たりし處にして今は縣廳地方裁判所等あり土地の繁華なる山陰道第一の都會たるに恥ぢず

美保關村は一の要津を有す風色絶佳の地にして美保神社あり出雲縣村は古の國府の地なり。大庭村に入重垣神社あり湯町村は玉細工を爲し布志志襦を作る玉造村

濱田町

に温泉あり廣瀬町は松平氏の支封の地にして陶器を製す此の地の富田に月山の城址あり。尼子氏の鑄きし所とす宇賀庄村に清水寺あり母里村は松平氏支封の舊地なり。比田布部山佐の各村は鐵を産す平田町は宍道湖に瀕す。輪繁華の地なり。杵築町に山鏡大社あり今市町は商業の地なり

石見 濱田町(二〇〇〇〇)は松平氏の舊封土の地なるが歩兵第四十聯隊の衛戍あり開港場の一にして製紙に従事す

福光仁萬の二村に石細工あり温泉津村は鹽類泉井に一の小港を有す出羽矢上の二村は鐵を産す。西見村其の他の諸村に於て中紙を製す津和野村は舊と龜井氏の城址たりし處なり

隱岐 西郷町は島後にあり島廳の所在地なり。中の島の海士村に後鳥羽天皇の廟址あり。西島の別府村に黒木御所の舊址あり

鳥取縣

鳥取市

因幡 鳥取市(二八〇〇〇)は舊と池田氏(二十二萬石)の城下たりし處にし

帝國大地誌

三四五

て今は縣廳、地方裁判所等の所在地と成りしも交通の便なく生業盛ならざれば往昔の繁華を維持する能はざるが如し、久松山に城址あり、社寺には樽路神社、長田神社、景松院等あり、國學者香川景樹は此の地に生る

國府村は古の國府の地なり、浦富村は白珊瑚を産す、若槻村及び鹿野村は共に池田氏支藩の舊地なり、加露村に小港あり、用瀬村は柳行李を製す

伯耆 米子町(一、六〇〇〇)は中の海に瀕す、商業繁昌にして當國第一の都會たり、吉川元春の築きし湊山城の址あり

倉吉町は木綿織を産す、社村に國府の遺址あり、以西村に船上山あり、名和村に神社あり、名和長年を嗣る、大山村に大山寺あり、境町は夜見濱の北四端にあり、港は廣濶ならざれども水深く風波の患少なくて船舶の出入に適す、山陰道屈指の要津にして一開港の一たり

第二 四國區

四國區は五大島中の最小なる四國島一千二百五十一方里并に若干の屬

米子町

四國區

島二十九方里より成りて二百九十八萬人の居民を有するが瀬戸内海に面する徳島香川愛媛の三縣に通有の情態あるに對し太平洋に直接する高知縣は特殊の地位に立てり

徳島縣

阿波 徳島市(六、一〇〇〇)は新町川に跨る、舊と蜂須賀氏(二十六萬石)の城下たりしが當今は縣廳地方裁判所等の所在地と成り、漕運の利ありて百貨の集散に便なり、又織織綿「ラナル」等を製す、往昔の如く繁華ならざるも四國島第一の都會たるを失はず

撫美町(二、八〇〇〇)は縣下の要津にして盛に齋田鹽を集散す、小松島村(一、二〇〇〇)は本縣南方第一の名邑にして漁業地にあり、其餘、戸浦は壽永の役、源義經が上陸せし地なりと傳へらる

上八万村に一官城の址あり、國府村は古の國府の地なり、藍、細村は藍作に就きて名あり、里浦村に清少納言の墓あり、堀江村の池谷に土御門天皇の舊蹟あり、屋町は交通

帝國大地誌

徳島市

撫美町

の衝に當り商業輸盛なり、牛田村は漆器を製す、池田村は三好氏の舊地にして烟草を産す

香川縣

高松市

高松市(三、四〇〇〇)は舊と松平氏十二萬石の城下たりし處なるが

當時は縣廳、地方裁判所等の所在地にして保多織を製す、繁華の地なり、港は水淺くして船舶の停繫に便ならざれども前に女木、男木等の數嶋を扣へ左下に玉藻の城と屋島と望む風光極めて佳なり

坂出町

坂出町(二、三〇〇〇)は盛に食鹽を製す、繁華の地なり、丸龜市(二、三〇〇〇)は

觀音寺町

舊と京極氏の城地たりしが今は歩兵第十二聯隊の衛戍あり、又百貨の集散地として商業隆昌なり、觀音寺町(一、三〇〇〇)は晒木綿干鰯を産す、稍、繁華の地なり、又風色に富めるを以て名あり

引田村は砂糖、醬油を産す、松原村は製鹽の地にあり、三本松町の近傍に向山、周慶の基あり、志度町は一の小港を有す、往昔崇徳天皇の行在所のありし處にして平賀源内

松山市

の生地なり、津田町は勝地にあり、干魚を産す、土庄町は小豆島に於ける商業地なり、草壁村に寒霞溪の勝地あり、石材の産あり、鹽田村は石材を産す、湯元村は製鹽に従事す、此の地に屋島の古戰場あり、栗林村に風趣に富める公園あり、松山村に崇徳天皇の山陵に細川清氏の城址あり、府中村は古の國府の地にして木丸御所の址あり、宇田津町は製鹽地にあり、美合村に葛布の産あり、琴平町は金刀比羅宮を以て名を知らる、鹽井村は鑛鹽を製す、多度津町は京極氏の支封の舊地なるが漕運の便ありて交通上の要區たり、白、カ村の屏風が浦は備前海の生地なり、善通寺村に第十一師團司令部あり、て各種の兵の駐屯するあり、有名な巨瀬あり、仁尾村は醬油を製す、陸間村は鹽を製す、豊後町は藍、砂糖を産す

愛媛縣

伊豫

松山市(三、五〇〇〇)は舊と久松氏十五萬石の城下たりしが縣廳、地方裁判所等あり、又第十旅團司令部を此の地に置きて歩兵第二十二聯隊を

駐在せしむ、木綿織の産ありて繁華の地なり

帝國大地誌

今治町
宇和島町

三五〇

今治町(一五〇〇〇)は松平氏の城下たりし處にして稍、繁華の地なり、宇和島町(二三〇〇〇)は伊達氏(十萬石)の居城のありし處にして城址尙存す、商業稍盛なり

道後湯之町に有名なる温泉場あり、日本三湯の一なり、三津濱町は縣下第一の要津たり、興居島村に由良港あり、櫻井村に古の國府の址あり、島屋義助の墓あり、漆器を産す、弓削岩城、波止濱、新井渡、多喜渡等の各村は製鹽に従事す、小松町は一柳氏支封の舊地なり、楠河村に世田山の城址あり、徳田村に興隆寺あり、別子山村に有名の銅山あり、砥部村は砥石、磁器を産す、黒田村其の他の諸村は製鹽に従事す、大洲町は加藤氏の封土たりし處なり、長濱町に錨地あり、八幡濱町に小港なり、吉田町は伊達氏支封の舊地なり

高知縣

高知市

土佐 高知縣(三、五〇〇〇)は吸江灣に面す、舊山内氏(二十四萬石)の城下たりし處なるか今は縣廳、地方裁判所等の所在地にして歩兵第四十四聯隊

駐屯するあれば土地も稍、繁華なり

一宮村に土佐神社あり、中村町は一條國司の領地たりし處なり、宿毛町は小瀬を有す、上灘村は鹽筋及び酒造を産す、三崎村に奇景あり、須崎町は一の良港を有す、此の地に城址あり、津野氏の據りし處なり、高岡村は商業地なり、久禮、宇佐等の諸村は漁業の地なり、戸波、上分等の各村井に伊野町は製紙に従事す、長濱村の浦戸は縣下第一の要津なり、此の地に長曾我部氏の墓あり、岡豊村は長曾我部氏立脚の地なり、國府村は古の國府の地なり、赤岡村に土御門天皇の舊蹟あり、片地村に山田塚あり、野中兼山の遺工の一とす、山田町に茶及藍の産あり、安藝町は縣下の要地なり、室戸村は珊瑚を採取す、津呂村は盛に鹽を産すを以て名あり

第三 九州區

九州區

九州區は九州嶋、五嶋、壹岐嶋、對馬嶋及び幾多の屬嶋より成りて二千六百七十一方里の地積と六百二十五萬人の住民とを有するが、山岳多く巨流に乏しく交通上の便を缺くが故に土地に數個の小區域を生じ巨藩の割據す

帝國大地誌

る所と成り、遂に人情、風俗等に差異あるを見るに至れり、されば當部には少
なくも筑紫前肥後肥豊日薩隅其の他離嶋の各に就きて地域を設くるの
至當なるを知るべし

福岡縣

福岡市

〔筑前〕 福岡市(六三〇〇〇)は那賀川に跨る九州第二の都會にして博多と
福岡とを合はせ稱するなり、舊と黒田氏(五十二萬石)の城下たりしが現時は
縣廳地方裁判所、歩兵第二十四聯隊の衛戍等の所在地なり、博多織の本場に
して蠟燭の産地なるが商業も亦繁昌なり、博多港は貿易場の一にして頗る
有望の地とす、儒者具原益軒、織工竹若伊右衛門は此の地の人なり

箱崎町に箱崎宮あり、須惠村に陶器の産あり、香椎町に香椎宮あり、志賀島村の虎島
は元寇の際敵の戦死者を埋めし所なり、八幡村に官設製鐵所あり、芦屋町は鐵器を製
す、若松町は盛に石炭を集散す、直方町は黒田氏支封の舊地なり、朝倉村に朝明天皇行
宮の舊地あり、秋月町は黒田氏支封の舊地なり、樟廣を産す、水城村に古刹あり、觀世音

寺と云ふ、此の地は元寇の際大に防戦せし處なり、太宰府町は歴史上有名な地にして
郡府樓の遺址あり、太宰府神社あり、岩戸村は鐵樹を栽培せし高橋善藏の生地なり、今
津村は元寇の際敵兵が上陸せし地なり、馬飼村に九州探題の城址あり、四新町は陶器
を製す

久留米市

〔筑後〕 久留米市(二九〇〇〇)は舊と有馬氏(二十一萬石)の城下たりし處な

るが當今は歩兵第二十四旅團司令部の所在地なり、木綿綿、蠟表、花莫莖等
を産し商業も亦稍盛なり、大川町(二一〇〇〇)は家具、鑄物を製す、鑄物師樹友
政は此の地に生る、大牟田町(一八〇〇〇)は紡績に従事し石炭を集散す、稍
繁華の地なり

大川町

大牟田町

國分村は古の國府の地にして歩兵第四十八聯隊の衛戍あり、宮の陣村に筑後川の
古戰場あり、菊池武光が少貳頼尙を撃ちし處なり、香導寺村に大寺あり、縣下第一と稱
せらる、上妻村井に古川村は紙を製す、柳川町は舊と立花氏(十一萬石)の封土たりし處に
して川魚を以て名あり、柳繁華の地なり、三池町は立花氏支封の舊地なるが炭坑あり
集治監あり

小倉市

門司市

三五四

豊前 小倉市(二、五〇〇〇)は舊と小笠原氏の領邑たりし處なり軍備上極要の地にして第十二師團及第十二旅團の司令部あり此の地は小倉織の本場なるも産額は多からず門司市(二、五〇〇〇)は文字關の舊地に於ける新開の市街なるが關門海峡に枕み交通上の要衝に當るを以て商業頗る繁榮なり殊に石炭の集散盛にして帝國屈指の貿易港たるに至れり

東郷村は硯石を産す伊田大任川崎等の各村は盛に石炭を産す本山村に英彦山神社あり上野村に陶器の産あり行橋町は交通上の衝に當る稍繁華の地なり祇園村に古の國府の遺址あり

大分縣

豊後 大分縣(二、二〇〇〇)は舊と府内と稱せし地にして大給氏の封邑たりし處なり現時は縣廳地方裁判所等ありて稍繁華なり七島閣を移植せし橋本五郎右衛門は此の地に生る

國東町及び安岐町は青磁を集散す杵築町は舊松平氏の城下たりし地なり日出町は

大分町

中津町

木下氏の封土たりし處にして儒者帆足萬里の生地なり別府町は瀨瀨灣に枕み觀見山の東麓にありて眺望に富む温泉の湧出處にして來り浴する者甚多く船舶の出入も亦少なからず繁華の地とす豊府村は古の國府の地なり佐賀關町は往昔の繁榮を維持し得ざるも一の良港を有するが故に船舶の出入少なからず臼杵町は舊稻葉氏の城下たりし處にして一の小港を有す商業略盛なり佐伯町は毛利氏の舊封土たりし處にして港は水深く風浪の患なし海軍要港たるに適す竹田町は中川氏の舊城市にして豊饒に従事し煙草を集散す田能村竹田は此の地の人なり森町は久留嶋氏の居館のありし地なり豆田町は成瀬淡窓の生地なり隈町は木材紙類の産地にあり

豊前 中津町(一、五〇〇〇)は舊と奥平氏(十萬石)の城邑たりし處にして綿紙を紡績し織物を製造す生業の盛なる縣下第一たり蘭學者前野樂山は此の地の産なり

長洲町は藤浦川の口頭にありて交通の衝に當る宇佐町に宇佐神社あり建國の壯嚴なる帝國風指の堂宇たり山國川の上流に耶馬溪の勝地あり

帝國大地誌

三五五

宮崎縣

宮崎町

日向 宮崎町は大淀川に瀕す、維新後新に此の地を開きて縣廳、地方裁判所等を置きたるも、現下は生産力に乏しき處なれば、一小市街を爲すに過ぎずして人口は九千に達せず。

都城町

都城町(二、三〇〇〇)は舊く島津氏に屬せしが、縣下第一の繁華の地にして、總を産し製茶に従事す。此の地に高千穂宮の遺址ありと云ふ。

大宮村に宮崎宮あり、佐土原村は島津氏の支藩のありし處なり、紙屋村は伊東氏の舊領地なり、木材を出だす、油津町は、一の小港を有す、鵜戸村に鵜戸神宮あり、小林村は木材の産地にあり、高岡村は薪炭木材を出だす、殊に紙を産するを以て名あり、有岡村は煙草を産す、高鍋村は秋月氏の藩地たりし處なり、下郷北村の三宅に古の國府の遺址あり、都於郡村は伊東氏が始めて地頭となりし處なり、延岡町は舊く内藤氏の領地たりし處にして、椎茸の産地にあり、北方村に銅山あり、伊形村に土々呂港あり、細高村に一港あり、廣瀬大ならざるも安全にして、船舶の停繫に便なる、縣下第一の良港たり。

長崎縣

長崎市

肥前 長崎市(一一〇〇〇〇)は九州島第一の都會にして、帝國第八の都會なるが往昔、鎖港時代にありては我が國唯一の貿易港なりしを以て甚だ隆盛の地なりしが、他に横濱、神戸等の如き通商港の開かれしより以來、稍々聲價を落せしと雖、亦帝國重要な商港たるを失はず、徳川幕府は此の地に奉行を置きて通商の事を管せしめしが、維新後は縣廳、控訴院、地方裁判所等を設けて施政の中心と爲し、税關を置きて貿易品の出入を管理せり、商業地として繁盛なるのみならず、藍甲細工、唐木細工、漆箔等を産す、市の北東玉圍山に諏訪神社あり、其の隣地に公園あり、眺望極めて佳なり、又小菅、飽の郷立神等に造船所あり。

佐世保村

佐世保村(三、五〇〇〇)は第三海軍區の鎮守府の所在地と成りし以來、一小漁村は乍ら變じて一小都會を爲すに至れり。

高島村の端島、高島等は良質の石炭を産す、野母村は有名な青魚子の産地なり、瀬戸

帝國大地誌

村は家船多きを以て名を知らる、大村町は舊大村氏の城下たりしが、大村と共に砂糖、甘藷、硫磺等の産地であり、波佐見村井に折尾瀬村は磁器を製す殊に三河内燒最名あり、島原町は舊松平氏の城邑たりし所にして煙草、砂糖等の産地であり、口の津村に運商港あり、小瀬村に小瀬温泉等の温泉あり、湊町は一小港を有す、平戸町は松浦藩の舊地にして磁器を製す、今瀬村は石炭を産す、島村は元寇の際に名を著せし處なり、江村及び宮江村は共に五嶋の羅江島にあるが舊五島氏の領邑たりし處にして抽糖製糖に従事す

佐賀 那賀村に古の國府の遺址あり、香椎村の勝本、武生、水村の郷の浦は共に漁業の中心たり

對馬 嚴原は古の國府の地にして舊と宗氏の城下たりし處なり、往昔より朝鮮との通商に従事せしが、佐須奈、鹿見と共に開港中に算せらる、此の地に警備隊を置き、竹敷に要港を設けて防備を嚴にせり

佐賀縣

佐賀市

肥前 佐賀市(三二〇〇〇)は川上川に瀕す、舊と鍋島氏(三十六萬石)の城下

たりしが、現今は縣廳地方裁判所等の所在地として商業も稍盛なり、松原神社あり、儒者古賀精里は此の地の人なり

唐津町

唐津町(二〇〇〇〇)は小笠原氏の封土たりし處にして一の小港を有す、縣下の要津たり、海軍石炭庫あり、陶器の産あり

鍋島村は鍋島家立脚の地なり、春日村に古の國府の遺址あり、名古屋村は文録の役秀吉の行臺のありし處なり、神崎町に櫛田神社あり、小城町、南鹿島の二町井に、遠池村は佐賀藩の支封の地なり、相知村に炭田あり、縣下第一と稱せらる、伊萬里町に小港あり、有田町は磁器製造の中心なり、陶工坂井田、柿右衛門、吳須權兵衛は此の地の産なり、大川内村は磁器を製す、武雄町井に、野村に温泉あり

熊本縣

熊本市

肥後 熊本市(五六〇〇〇)は白川及び坪川に跨る、舊と細川氏(五十四萬石)の城下たりし處なるが、維新後は縣廳地方裁判所、高等學校の所在地となり

帝國大地誌

しのみならず第六師團司令部を此の地に置きて各種の兵若干を駐在せしむ。實に九州島の巨鎮たり、熊本城は加藤清正の築造せし有名の城にして明治十年の役官軍が重圍に陥りて頑強に防戦せし處なり、經世家横井小南は此の地の人なり

八代町

八代町(一、一〇〇〇)は松井氏の舊領地にして八代宮あり繁華の地とす

川尻町は緑川に瀕す、通舟の便ありて稍繁華の地とす、花園村に妙本寺あり、宇土町は細川氏支藩のありし地なり、三角浦村は縣下第一の要津たり、長洲町は商業に従事す繁華の地なり、高瀬町は細川氏支封の舊地なり、山鹿町に温泉あり、植木町、田原村は明治十年の役激戦のありし地なり、隈府町は往昔隈部城のありし處にして菊池神社あり、菊池村は菊池氏立脚の地なり、大津村は山崎を産す、宮地村に阿蘇神社あり、日奈久町に温泉あり、人吉町は舊相良氏の城地たりし處にして風色に富ゆり、本渡町、井ノ牛深町は天草島に於ける鎮地なり、湯島村は島原の亂に名を知られたる談合島にあり

鹿兒島縣

鹿兒島市

鹿兒島市(五、三〇〇〇)は舊島津氏(七十七萬石)の城下たりしが今は縣廳地方裁判所等の官衙あり、本市は甲突川に跨り鹿兒島灣に瀕す、港は

東に櫻島を控へ水底深からざるに非ざるも風波の患なきを得ず、然れども大島沖繩臺灣の航路に當れるを以て船舶の出入少ならず、木綿、絹、巻煙草、陶器の製造に従事し商業も亦盛ならざるに非ず、市の近傍に城山あり、明治十年の役西郷隆盛が戦死せし處なり、其の東麓に鶴山城あり

伊敷村に歩兵第四十五聯隊の衛戍あり、吉野村の邊に本邦最舊の紡績所あり、谷山村の谷山は醬油味噌を製し其の福元は軍馬を育成し其の鍋山は錫を産す、湯島村は蘿蔔、蜜柑を産す、掛宿村は煙草を以て名を知らる、山川村に鎮地あり、東南、方村に鹿籠の金山あり、串木野村に芹が野の金山あり、下伊集院村の苗代川は薩摩燧と稱する有名の陶器を製す、平佐村は皿山燧を産す、高城村は古の國府の地なり、阿久根村は燧耐を醸造す、出水村は煙草を産す

大隅 大口村に城址あり新納忠元の據りし處なりと傳ふ、加治木村は陶器、燧物、紙を製す、横川村に金山あり、東、野山村に霧高神社あり、東、西の國府村は煙草を以て有名

帝國大地誌

なり、四國府村に鹿兒島神社あり、高山村は肝付氏立脚の地なり、垂水村は煙草、生蠶を産す、北種子村に赤尾港あり、上屋久村に宮の浦あり

北域

北域は十州嶋及び千嶋列嶋より成れるが擧げて北海道廳の管轄する所たり

此の地は古の蝦夷地にして幾多の變遷を経て現時の情態を呈するに至れり、抑太古の世にありてはアイヌ種族即ち蝦夷人の住域が十州島は勿論内地の大半に亘りしは種々の遺跡に徴して明なり、然るに日本武尊氏内宿禰の巡撫を経て阿部比羅夫の討伐を受け、政所を後志羊蹄に設けしより王化日に弘まりてアイヌは漸次に北退せしが内地の多事なるに當りてや邊境を顧みるの遠なかりしを以て安藤氏、安東氏、下國氏、蠣崎氏、松前氏等が渡島の地に據りて全島を管理せしに過ぎざりき、明和の頃、ロシア人の得捉島に來住するありしも松前氏之を制する能はざりしを以て寛政の末、鶴川幕府は東蝦夷の地を容れて直轄を爲し、享保の初に至り國館奉行を置き、文化四年に

北域

沿革

地積、人口

於て松前奉行に改めて全島を總轄せしり北蝦夷の經營を企圖したり、文政四年松前氏復封し其の後、安政元年再び國館奉行を置きて全島を總管せしめたり、王政維新の際箱館府及び箱藩を設けしも明治二年九月十州島千島列島を總稱して北海道と爲し十州に分ちし時、開拓民を置きて之を管せしむ、同八年十一月樺太をロシア國に讓りてクリル諸島を容れ之を千島國に合はす、同十五年三月開拓使を廢して函館、札幌、根室の三縣を置き別に農商務省中に北海道事業管理局を設けたりしが同十九年三月北海道廳を設置して今日に及べり

北域の總地積は凡そ六千一百万方里あるも現住人口は八十五萬餘に過ぎざれば一方里に就きての人口は僅に百三十九人なり、然れども人口の増殖は凡そ十數年毎に二倍するの割合なれば三十年後には數百萬の居民を見るに至らんか

年次	現住戸數	現住人口	一付方里人口	人口千ニ付増
明治三十年	一六、四〇〇八	七五、五八七	一二・五	八二・六四

帝國大地誌

同二十九年	一四、九一〇〇	六九、八二四四	二一五	七、七、五八
同二十八年	一三、六八六〇	六四、七八八三	二〇六	九〇、四五
同二十七年	一二、五二二二	五九、四一三三	九七	二、五、七
同二十六年	一一、二八四	五三、七九三三	八八	一一、七、四
同二十五年	一〇、〇〇〇	四九、三〇三三	八二	八二、〇、九

三六四

移住者

而して移住者の中に於て來住者の數は近年稍増加せしが之を府縣別にすれば富山、石川、青森、福井、新潟等の諸縣は常に首位にあるが如し

移住者	明治三十一年	同三十年	同二十九年	同二十八年	同二十五年
來住者	六、三六二七	六、四三三〇	五、〇三三五	五、九六七	四、二七〇八
往住者	一、三八一	一、二六二九	九八八一	八六三〇	三、五四五

舊土人

舊土人即「アイヌ」の數は凡一萬七千にして近年に至りては著しき増減あるを見ず而して舊土人の住居すること最、多き地は日高(男二九八〇)女三三五三)

膽振(一九四六)十勝(八四一七)釧路(七〇六)等の地方なりとす

舊累	年次	男	女	計	年次	男	女	計
土年	明治三十一年	八、五六一	九、〇一〇	一七、五七三	明治二十年	八、四三七	八、五二五	一六、九六二
人比	同三十年	八、五三三	八、九三三	一七、四六六	同十五年	八、五四六	八、六三三	一七、一七八
人較	同二十九年	八、五三三	八、八七八	一七、四〇〇	同十年	八、四八三	八、四八三	一六、九六六
員表	同二十五年	八、四三三	八、六三六	一七、〇六九	同五年	七、九六四	七、三一一	一五、二七五

行政

行政に關しては北海道廳を札幌に置き、全道を統轄せしめ、内務、殖民、警察の三部は道廳の事務を分掌し、十八支廳は各地方に於ける普通の行政事務を取扱ふ又司法上は札幌、函館、根室の三地方裁判所は函館控訴院の管内にあり

生業

生業の中に於て最も盛なるものを水産業とす、其の年産額は凡一、千、四百萬圓に達するが魚類には鱒(九百萬圓)、鮭(八十八萬圓)、鱈等ありて海産には昆布(五十七萬圓)、石花菜等あり、鑛業は石炭(三百七十萬圓)、硫黃(十九萬圓)、黄金

帝國大地誌

三六五

商業

等を與へ、農業は十八萬町歩の耕地に據りて小麥、大豆、小豆、馬鈴薯、葉藍、大麻等を與ふるが、林業には二百萬町歩の御料林及び五百六十萬町歩の國有林ありて、「トドマツ」、「シナヤ」等を産するが、總額は凡そ五十萬圓なり、此の外に、馬麻織、ビール等の産あり

商業の一斑を記さんには、其の趨勢概々佳良にして、輸出入の總額に就きては明治二十五年度の二千七百六萬圓より一躍して同三十年度の七千九百餘萬圓と成りたり、而して同三十一年度に於ては輸出に凡そ二千三百九十萬圓ありて輸入に凡そ三千一百八十五萬圓ありしが、輸出品の重なるものは、鮮搾粕(八〇七萬圓)、胴鯡(一八〇)、石炭(一六五)、身鬮鯡(一二三)、大小豆(一一九)、鹽鮭(一〇七)等にして輸入品の主なるものは、米(一五三五)、織物類(二六三)、蕨及び繩類(一四六)、銅鐵金物(一〇九)、酒(一〇九)、砂糖(一〇二)等なり、而して之を港別に於て重要なるものを列擧すれば、函館、小樽、江差、根室、岩内等を得るなり

輸函館	港名		輸出入合計
	輸出	輸入	
六七五、三三三	一、二七五、六三六	一、九五二、三三二	

交通

表別	港格		價入出	
	其古	増壽	岩根	江小
合計	他平	毛都	内室	差樽
三三九、三三〇	六七〇、五五五	一、七六四、〇〇〇	二、九六六、〇〇〇	六、九二七、〇〇〇
三二八、五七二	三、一五七、七三三	三、三九〇、〇七〇	三、九四九、六六九	一、五五五、六三七
五五七、九〇二	三、八一九、〇七〇	五、一五〇、〇七〇	六、九一六、六三九	八、四八二、六三七

交通に關しては、道路に七百四十七里の延長あり、鐵路は二百六十哩に達して、歌志内、夕張、幌内、幾春別、空知太等の産炭地を小樽、室蘭の二港に連絡し、水路に就きては、川路は乏しからざるも、未だ充分に利用せらるるに至らざるが、海路は函館、小樽間の幹線を始るとし、北海岸以外の地にありては、定期

に寄航する船舶を見ざるもの殆ど稀なりと云ふべし。されば船舶の出入は出船に五百九十五萬噸、百二十二萬石ありて入船に六百萬噸、百二十五萬石あり、而して出入の最も盛なるは函館、小樽、鬼脇、増毛、室蘭等なりとす。其の他、札幌には一等郵便電信局を置き九十一ヶ所、所に郵便電信局、八十二ヶ所、郵便局、札幌、小樽、函館に電話交換局を設く。

第一 十州島

十州島

本嶋は石狩後志、渡嶋、膽振、日高、十勝、釧路根室、北見、天鹽の十國を包容するを以て十州嶋の名なり。地積は屬嶋を合はすれば五千六十二方里あるも、人口は凡そ八十五萬七千人にして一方里の人口は百七十八人に過ぎず。

札幌區

石狩 札幌區(四、四〇〇)は石狩原野の中央に於ける一都會にして本道道施政の中心たるに適せり。道廳あり、地方裁判所あり、第七師團司令部あり、農學校、師範學校等あり、街衢の井然として區劃の正しきこと實に海内第一とす。創成川は南北に流れて區内を東西に分ち、大通りは市街の中央を貫き

て南北の二部に分つ、而して南一條通りは豪商大賈多くして最、繁昌の地とす。製麻、製糖、製粉に従事する會社あり、又ビール、農具等を製造する處あり。炭礦鐵道會社は本社を此の地に設けたり、中島に園遊地あり、圓山は名勝の地たり、其の麓に札幌神社あり、當區の近傍は林檎を産す。

江別村は江別川と石狩川との相會する處にあり、交通上の要區にして農産に富み、江別川に一の鐵橋を架す、本道第一と稱せらる。豐平川の上流の地に常山、溪の温泉あり、石狩町は石狩川の河口にあり、本道屈指の舊市にして漁業に従事す、登川村に夕張炭山あり、岩見澤町は支廳の地にして交通の衝に當り、農産に富み、市來知村に饅内炭山あり、磯谷村も亦一の炭山を有す、新十津川村は名色たり、旭川村は石狩川と忠別川との相會する處にあり、交通上の要衝にして極めて有望の地なり、永山村も亦有望の地なり、石狩原野と上川原野との界に於て石狩川は有名の勝區たる神居、古澤を成せり。

小樽區

後志 小樽區(五、五〇〇)は舊名をオタナイと云ひ、北城第二の都會たり。港は良好なるに非ざるも船舶の出入(九十萬噸、六萬石)頻繁にして貿易場の

帝國大誌

余市町

一なるが炭礦鐵道に依りて札幌及産炭地に通せり商業盛大なるのみならず又漁業の中心たり、鑄物鐵器を製出し魚油を精製し葡萄酒晒箔を作る市街は狹長に過ぐるも亦風色は佳ならざるに非ず、手宮、色内等は區内の名城たり、余市町(一、二五〇〇)は漁商に従事す、一小都會を爲せり

海部町は支廳の地なるが漁業に従事す、情繁華の市街たり、岩内町に支廳あり、其の附近に炭山あり、余市村に神廟あり、四岸第一の難所とす、往昔は此の嶺より以北に内地婦人の入ることを禁じたり、古平町は稚鹿郡の地なり、奥尻島は漁業の盛なる處なり

函館區

渡嶋

函館區(七、八〇〇〇)は控訴院、地方裁判所、税關支廳等の所在地にして舊名をウシロヨケシと云ひ北域第一の都會なり、港は其の形狀巴字に似たるを以て一名を巴港と稱するが、其の位置の少しく南端に偏在しゐるに拘らず水深く風波の患少なく、大船巨舶の碇泊に便なるが故に商船の出入(二百十五萬噸、十七萬石甚多)し、開港の一としての取引は未だ隆昌に至らざるも其の發達は敢て望みなきに非ず、市街は一小半嶋に跨り後に臥牛

福山町

山を負ひ前に港灣を控ふるが故に眺望甚佳なり、街衢は井然として見るに足るものあり、就中東濱町、仲濱町、末廣町等は最一般賑なりとす、函館山に添ひて公園あり、最遊樂に適す、神社には八幡神社、招魂社等あり、佛閣には本願寺別院、高龍寺等あり、又港口に一の舊式砲臺あり、辨天崎の砲臺と稱す、往昔松前氏の築きし所なり、五稜廓は戊辰の役脱走徒の據りし所にして目下は函館要塞砲兵大隊の營所たり

江差町

福山町(一、〇〇〇〇)は松前支廳の地して舊名をマトマイと云ふ、松前藩の城下たりし頃の繁華を見る能はざるも尙一小都會たるを失はず、町内に福山城の趾あり、江差町(一、六〇〇〇)は檜山支廳の地にして姥神大神宮の社あり、港は鰐島を控ふるも良港と云ふを得ず、漁業大に行はれ商業の盛なる北域第三と稱せらる

龜田村は漁業の地なり、下湯の川、村に温泉あり、七飯村に青稗場あり、森村の附近に勝地あり、風色の秀麗なる東岸第一と稱せらる、上磯村は交通上の要區にして情繁華の地なり

鹽振 室蘭町は一小市街を爲すに過ぎざるも支廳の地にして海陸交通の衝に當れり港は稍狭小なるの缺點あるも地形佳良にして風波の患少なし第五鎮守府の開設せらるべき地としては或は不備なる處あらんも商港の地開港の地としては本島東岸屈指の場處たらずんばあらず此の地に佳良の雲丹の産あり又祝津砲臺の跡あり

伊達村は有珠海に瀕す農産に盡なり輪西村に南部陣屋の跡あり白岩村に仙臺陣屋の跡あり岩雄登は硫黄を産す榑前村は釧の好漁場たり

田高 佐留太村は舊士人の集居たり平取村に義経社あり釧内郡の茶志津に沙流の臺址あり浦河村は當國第一の名邑にして支廳の地なり梶泉村は昆布を産す

千勝 萬寄村は一の鎭地を有す大津村は大津川の河口に於ける一驛たり

網走 網走町は支廳の地にして當國第一の名邑たり港は網走川の河口にありて硫黄を輸出す厚岸町は厚岸灣に瀕す海陸送運の便ありて水産物を集散す

根室 根室町(一八〇〇)は十州島の北東海岸に於ける唯一の都會にして支廳并に地方裁判所あり本道第四の要津なるも冬季に至れば流氷の害

を蒙むることあり商業は未だ隆昌なりと云ふを得ざるも漁業の中心として交通上の要處としては頗る有望なり

花咲村は根室町の背後にあり港は狭小なれども冬季にありては船舶の出入少ながらす西別、別海、標津等の各村は漁業の地にして殊に鮭を以て名を知らる

北見 北見町は網走川の河口にあり港は狭小にして流氷風波を防ぐの傾なきも支廳の地にして商漁にも見るべきものあり紋別村は名邑にして一小鎭地を有す枝幸村は鮭の好漁場なるが近時に至り砂金の産地を發見せしを以て頗に其の名を轟

せり宗谷村は十州島の北端にあるも温度は甚しく低下せず漁業の地なり稚内町は支廳のある處にして海産物の集散に従事し船舶の出入も少ながらず釧、釧の地なり

實に當國第一の市街たり禮文嶋は長五里幅二里にして五千餘の住人を有す島内に四村ありて均しく漁業を營むも最著しきは船泊、香深なりとす利尻島は東西四里

南北五里餘にして一萬有餘の人口を有するが全島を分ちて六ヶ村を爲す何れも利尻山の麓にあり共に漁業に従事するも最盛なるは鬼島、鷺泊とす

天鹽 苫前村は沿岸の貨物を集散す殊に漁季節にありては船舶の出入少ながら

す留明町は農産漁産に富める地にあるのみならず港も亦便ならずるに非ざれば船の來往夥しく殊に春夏の候を以て盛なりとす。留明町は當國第一の市街地なり、港は真好ならずるも漁業の中心なれば船舶の出入を促し、季節に依り出稼人の群來するこゝ甚だ多く、頗る股賑を極む。天寶、燒尻の二嶋は共に葦簾たる小嶋たるのみならず地味磯崎にして耕種に適せざるも漁利の大なるが故に有名なり

第一 千島列島

千島列島は土人のナニヱカにして西人の久里留列島なり、三十二の嶋嶼より成りて主要なるものを擇捉嶋、波羅茂里嶋、國後嶋、得撫嶋、新知島、温爾古丹嶋、色丹嶋、占守嶋、捨子古丹嶋等なりとす。本列島は六百二十里足らずの海岸線と一千三十三方里の地積とを有し、魚類に富み、樹木に乏しからざるも緯度北緯四十三度三十八分よりの甚だ高からざるに拘らず、アレウト海流の影響を蒙るを以て、氣候は比較的に凜冽なれば未だ當地方を充分に利用するに至らず、從て居住人を見るは國後、色丹、擇捉、得撫、占守の五嶋にして其の

千島列島

總數の如きも四千五百十三人、其の内五百五十に過ぎざれば一方里の人口は僅に四人強あるのみ、而して行政上は千嶋の國を九郡に分ち、擇捉嶋に於ける四郡を紗那支廳の管轄とし、其の他の五郡を根室支廳に屬せしむ

國後郡 國後 色丹郡 小色丹嶋、大嶋、得撫郡 島、武、那、頓、嶋、等、以、新、知、郡 新、知、吐、夷、嶋、宇、志、知、嶋、羅、處、占、守、郡 占、守、嶋、阿、波、新、爾、嶋、温、爾、古、丹、嶋、加、亞、連、古、丹、嶋、越、湯、和、嶋、松、輪、嶋、雷、公、計、嶋、麻、嶋、知、林、古、丹、嶋、捨、子、古、丹、嶋、幸、知、嶋、須、禮、吐、寧、波、嶋、紗、那、郡 振、別、郡、擇、捉、郡、藥、取、郡、擇、捉、

國後嶋

國後嶋は百六十里の周回と百餘方里の地積とを有す、地味不長ならずして樹林、畑地の存するあるも住民二千二百六十八人は主として漁業に従事し、旁、羅白山、等の礦黃を採掘せり、嶋内に六ヶ村(泊、東、湧、米、戸、賀、秩、刈、別、留、夜、別、大、瀧)ありて、首邑を泊村とす、同村(七五五)は根室を距ること六十三里の處にありて、泊港に瀕し、戶長役場、郵便局、小學校、漁業組合、商店、等を有せり

色丹嶋

色丹嶋は凡そ五十里の周回と三十五方里の地積とを有す、樹木に豊富なるも卑濕に過ぐるの地も少なからず、新古丹村には百五人の居民あり、主に占守嶋より來住した

帝國大地誌

得振嶋

得振嶋

占守嶋

る舊土人より成れり
 得振嶋は千嶋列嶋中の最大嶋にして四百六十方里の地積を有し、海岸線は二百八十里に達せり、山脈は全嶋を貫きて、摩拉、車冠、黄興、呂等の諸岳を爲し、水流は其の數少なからざるも、長七里を超ゆるものなし、樹林は櫻、落葉松、檜、樟等に富み、河川は鮭、鱒等に盡なるも、居民は二千六十五人に過ぎず、而して嶋内に四郡十村(振別、老内、保井、提前、紗那、有前、別飛、留別、藻取、乙今、丑)あるが、紗那村(六三五)は紗那川(長七里)に跨り、紗那灣に瀕す、全嶋の首邑にして支廳の所在地、漁業の中心たり、別飛村(一六八)は鮭、鱒を漁獲す、留別村(五七二)は嶋内第二の名邑にして、數多の好漁業を有せり、藻取村(三五三)に商店、漁會等あり
 得振嶋は九十餘里の海岸線を有する嶋にして、往昔は數十のアイヌ人が居住せしも、目下は僅に三人の居民あるのみ
 占守嶋は列嶋中の極北に位し、千島海峽を隔ててロシアのカムチカカの南端に對す、三十餘方里の地積を有するも、住民は七十二人に過ぎず、して近時の移住に係れるが、主として釧路に從事す、土地の起伏は著しからざるも、潮流の激しうして、飲料水

南域

南域

南域は沖繩群嶋、先嶋列嶋、臺灣嶋、澎湖群嶋等より成れるが、沖繩群嶋及び先嶋列嶋は沖繩縣の管する所にして、臺灣嶋、澎湖群嶋は臺灣總督府の管轄に屬せり

第一 沖繩群嶋及び先嶋列嶋

沖繩群嶋
 先嶋列島
 地積、人口

沖繩群嶋は沖繩嶋(周十四里)、津堅嶋、久高嶋、慶良間諸嶋(波敷嶋、味嶋、赤嶋、久米嶋)、鳥嶋、渡名喜嶋、粟國嶋、伊江嶋、伊平屋嶋等より成りて、先嶋列嶋は宮古諸嶋(宮古嶋、周十一里)、永及、八重山諸嶋(石垣嶋、周十五里、與那國嶋、波照間嶋、周八里)、長部嶋、多良間嶋及び八重山諸嶋(周十五里、與那國嶋、波照間嶋、周八里)より成れるが、沖繩縣の管轄に屬す、地積は合せて百五十七方里にして、現住人口は凡そ四十五萬なれば、一方里の人口は二千八百六十二人、地積を百四十四方里とすれば、三千餘人なり

帝國大地誌

土地

氣候、天産

沿革

と成りて住民の多き點に就きては帝國の中にて中位以上にあり、土地は狹隘にして山林及び原野は各一萬七千餘町歩あるも耕地の如きは三千七百二十五町歩の田地と八千三百四十二町歩の畑地あるに過ぎず、然れども氣候は溫暖にして地味も亦不良なるに非ざれば天産に乏しからずして殊に熱帶的植物に富めり

沿革 ○琉球の開國始祖を天孫氏とす、文武天皇の時(西暦六百九十七年)より本朝に内屬せしが天孫氏相傳ふること二十五世にして賊臣利勇の爲に亡さる、文治三年(西暦一千八百一十八年)浦添按司尊敦源爲朝賊を誅して代り立つ、之を舜天王と云ふ、文永三年(西暦一千六百一十六年)大嶋始めて來屬す、嘉暦年間(西暦一千三百二十六年)國大に亂れ、今歸仁按司山北王と稱し、大里按司山南王と稱し、曾孫玉城は僅に中頭を保有して中山王と稱す、正平五年(西暦一千三百一十三年)浦添按司察度の中山王と成るや始めて明に通じ終に其の冊封を受く、山南、山北の二王も亦明に入貢す、元中七年(西暦一千三百九十年)先嶋列嶋始めて中山に内附す、應永中(西暦一千三百九十四年)佐敷按司尙巴志中山王の位に即き、山北王、山南王を滅し全嶋を統有す、子尙忠の世に當り嶋津氏の附庸地と成る、茲に至り内地及び明に兩屬する慶長年

行政區劃

生業

間(西暦一千五百九十六年)尙寧使聘を修せず、嶋津氏之を伐ちて再び附庸となし世々貢禮を修せしむ、明治五年(西暦一千八百七十二年)尙泰を藩王に封じ琉球國を四海道に屬せしむ、同十三年(西暦一千八百八十八年)琉球藩を廢して沖繩縣を置きたり

沖繩縣は廳地を那覇に置き管内を那覇、首里の二區及び島尻、十九間切、四頭、十一間切、國頭、九間切、宮古、三間切、八重山、三間切の五郡に分ち而して宮古、八重山の二郡には嶋司を置く

生業の中に於て農業は首位を占むるが甘藷(六七一五萬貫)、山藍(七五萬貫)、米等を與へ其の製品には黒砂糖(三三三萬貫)、泡盛(四〇萬圓)等あり、豚の飼養は甚だ盛にして生産額は五十萬圓に達し、織物には紺飛白、芭蕉布、上布、紬等ありて總産額は凡そ四十五萬圓なり而して、漁業は鱈、鳥賊を捕へ海參、鰻等を製出するも通計は十二萬圓内外に過ぎず、而して交通に關しては大坂商船會社の神戸打狗線は沖繩及び八重山を經過し、其の他那覇、大嶋、鹿兒嶋間を定期に航行する船舶ありて内地との航通を便にし、近年の沈設に係る本邦最長の海底電線は那覇及び八重山を通過せり

帝國大地誌

沖繩島 那覇區(三五〇〇〇)は南部にあり、西村、東村、若狹町、泉崎村、久米村、泊村より成りて本縣第一の都會とす。縣廳、地方裁判所、島尻郡役所等ありて縣下施政の中心たり。港は良好なるに非ざるも、鹿兒嶋基隆間の定期航路に當り内地に向ひて砂糖、織物を輸送し縣地に對しては各種の雜貨を輸入せるを以て船舶の出入頻繁にして商業隆昌なり。又木綿緋、芭蕉布、漆器、煙草等の製造に従事す。然れども開港場の一たるに拘らず、外國との取引は未だ行はるるに至らず。社寺には天照太神宮、護國寺等あり。久米村は閩人三十六姓の子孫の居住する處にして孔子の廟あり。泊村には崇元寺あり。歷代國王の廟地たりし處なり。首里區(三五〇〇〇)は中頭にありて舊と琉球國の首府たりし處なり。中頭郡役所、師範學校、中學校、病院等あり。佛閣には圓覺寺、天王寺、天界寺あり。之れを首里の三大寺と稱す。又王子、按司、士族等の邸宅多し。芭蕉布、木綿緋、煙草を製出す。繁華の地なり。

中城間切に古城地あり。長祿年間按司藤佐丸の居城たりし所なり。城谷山間切は大に砂糖を産す。島尻の眞和志間切、安里村に先王廟井に八幡宮あり。大里間切は山南王

の自立せし處とす。小嶽間切は綿緋の本場とす。國頭、今歸仁、本部の兩間切は芭蕉布の本場とす。運天港は今歸切間切に屬す。本島第一の良港なりとす。此の間切中の親泊村に山北城の趾あり。羽地間切は米を産するを以て名あり。嶺山を有す。大宜味間切に一港あり。鹽屋港と云ふ。名額間切の大兼久村に國頭郡役所あり。

座間味、鳴に阿護港あり。沖繩三良港の一なり。久米嶋に兼城港あり。本島は有名なる綿緋の本場と稱す。宮古嶋は耕地、綿緋、上布の産地なり。砂川間切の西里村に宮古嶋廳あり。石垣島は白地、綿緋、上布の産地なり。大隈間切の登野城村に八重山嶋廳あり。西表島に船浮港あり。沖繩三良港の一なり。與那國島は健康地なるも良港なきを缺點とす。僅に宗納村に一の錨地あるのみ。南太津口と云ふ。本村の近傍に屋島墓と稱するものあり。平家殘黨の墓地なりとす。

第二 臺灣島及び澎湖群嶋

沿平 臺灣島は往昔、本邦人の所制高砂島と稱せし地にして、支那人が名づけて東帝國大地誌

嘗、或は、土蕃と唱へし處なり、西洋人はホルトガルの稱呼に依りてホルモサと稱す、抑本島は南の方、赤道附近より流れ来る海流の爲に圍繞せらるるを以て、マライ諸島地方の民族が此の土に漂着して初期の移住民と成りしは蓋し疑ふべからざる事實なるべし、されば生蕃中のパイロテンゴンの二種族の如きは古來、本島に棲居せしものならんが、其の發達は極めて遅く、今に蠻風を脱するに至らず、而して本地が支那大陸を隔ること甚だ遙からざるにも拘らず、支那人が始めて來住せしは明の宣德(我が永年より一四三六年)の頃なり、又本邦人が本島の附近を往來して要處を占有せしは倭寇の盛なりし時ならん、其の後、天啓年間(元祿七年—寛永四年)に至りて流寇頼恩齋は臺島に據りて甲螺と稱し大に威を振ひたり、鄭芝龍は頼氏の後を受けて甲螺と成り、本島附近の海上に雄飛したり、鄭芝龍の明に歸順して本島を去るや、オランダ人は澎湖島を占領し(正保四年)臺島に安平鎮城を築きて威勢を逞しうせしが、鄭成功の子にして俗に和唐内又はの爲に驅逐せられたり(寛文二年)成功の本島に來るや、東都を逃て二處を置きて持久の計を爲せしが、其の子、經を経て、孫、克塽の代に至りて清に降りたり、されば本島が清國の版圖に入りしは實に康熙二十一年(天和二年)なり、是に至

りて清國は一府三縣を設けて之を福建省に隸屬せしめたり、其の後、英球(元祿八年)、翁飛處(享保六年)、林爽文(明和二年)等の亂を起すとありたれども遂に清國の羈絆を脱するを得ざりき、爾來民服し治輪、緒に就き、拓地殖民の業大に進歩したり、其の後、咸豐八年(安政四年)イギリス、アメリカ合衆國、フランスの三國と條約を結びて安平、打狗、淡水基隆の四港を開きて互市場と爲したるを以て益々、隆盛に趨きたり、同治十四年(明治七年)我が兵、土蕃を征し臺東を占領せしが清國償金を出だすに及びて事止みたり、光緒九年(明治十七年)安南事件起りて清國フランスと釐あり、福州の勝戦後、フランスは澎湖島を占領し基隆を略取したり、和成るに及びて清國政府は本島の守備を忽にするの否を曉りて兵備、行政共に大に改革を行ひたり、本島は福建省の管轄を離れて獨立の一省と成りしが三府、一州、十一縣、三廳を設置し、徵稅の法を改め、兵備を嚴にし砲臺を築き、鐵路を建造して貿易の發達を謀る等頗る活潑の舉動を顯したり、然るに明治二十七年朝鮮事件より日清の戦争と成りしが、旭日國は全勝を得て絲毫國は和を乞ひて赤間關に於て條約を締結し其の結果として臺灣島并に澎湖群島は遂に我が帝國の版圖に歸したり